

KUSATSU

General Hospital

年報

平成29年度

Annual report



草津総合病院理念

誠心誠意を尽くし、一隅を照らす光のごとく
人々に幸せをもたらす医療を行う

基本方針

1. 患者さんの権利と意思を尊重し、心の通う医療を行います。
2. 十分な説明と同意のもと、患者さん主体の医療に努めます。
3. 高度で最善の医療を、いつでも安全に提供します。
4. 地域に密着し、他の医療機関と連携し、中核病院としての役割を果たします。
5. 多職種間の協働と情報共有を密にし、円滑なチーム医療を推進します。
6. 職員の教育・研修を充実し、モチベーションを向上させ、良質な医療スタッフを育成します。

患者さんの権利

1. 公平で思いやりのある、最善の医療・看護・介護を受ける権利
2. 十分な説明を受けた上で、自己の自由な意思に基づき医療を受ける、あるいは拒否する権利
3. プライバシーや個人情報の機密が保たれる権利
4. 他医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
5. 自己の診療録（カルテ）の開示を請求する権利
6. 健康の増進と病気の予防に関し、必要な健康教育を受ける権利

上記患者さんの権利を認識し、医療活動を行います。

患者さんへのお願い

1. ご自身の病状などの必要事項について、詳しく正確にお伝えください。
2. 検査や治療の内容を十分に理解し、同意の上でお受けください。
理解・同意できない場合は、その旨をはっきりお伝えください。
3. 治療方針に従って、治療に専念するよう努めてください。
4. 暴力をふるったり、暴言やセクシャルハラスメント、ストーカー行為があった場合は、状況により診療や入院をお断りします。
5. 病院は敷地内禁煙となっています。喫煙はご遠慮ください。
6. 医療費の支払い請求を受けた時は、遅滞なく速やかにお支払いください。

平成20年7月1日 制定

平成21年6月10日 改定

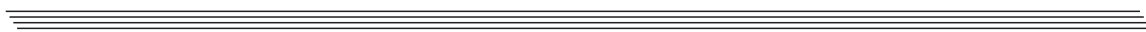
平成26年8月1日 改定

目 次

I. 病院概要	
病院の沿革	7
施設概要	9
指定・認定施設一覧	10
認定施設基準一覧	12
社会医療法人 誠光会 組織図（平成29年度）	14
職員状況（平成29年度）	15
平成29年度の主な活動	16
医療従事者向けの学術等の実績	18
地域に向けた医療に関する教育・啓発活動の実績	20
統計	23
II. 統 計	
がん統計	27
III. 活動状況	
III-1. 診 療 科	
1) 総合内科	37
2) 腎臓内科・透析センター	38
3) 血液内科	40
4) 小児科	41
5) 糖尿病・内分泌内科	42
6) 消化器内科	44
7) 呼吸器疾患センター・呼吸器内科	47
8) 呼吸器外科	49
9) 一般・消化器外科	51
10) 頭頸部外科・甲状腺外科センター	55
11) 泌尿器科	58
12) 皮 膚 科	60
13) 眼 科	61
14) 整形外科	62
15) 歯科口腔外科・歯科	63
16) リハビリテーション科	65
17) 麻 酔 科	66
18) ICUセンター	67
19) 放射線科	68
20) 心臓血管外科	70
21) 乳腺外科	72
22) 乳腺外科	73
23) 救 急 科	74

24) 脳神経外科	75
25) 緩和ケア内科	78
26) 健康管理センター	79
Ⅲ－2. 看護局	81
Ⅲ－3. 診療技術部	
検査部	85
栄養部	87
臨床工学部	90
リハビリテーション部	92
薬剤部	93
放射線診療センター 放射線技術部	98
Ⅲ－4. 事務部	
1) 診療情報管理課	101
2) 医師事務作業補助課	102
3) 医師支援課	103
4) 患者総合支援局	
入退院支援センター	104
5) 臨床研究・治験センター	106
6) 労働安全衛生課	108
総務部（総務課）	109
総務部（医療法務課）	110
人事部（人事課）	111
購買部（購買課）	112
購買部（中央材料室）	113
購買部（資産管理課）	114
施設管理部（施設管理課・車両管理課・防災センター）	115
経営企画・管理部（経営企画・管理課）	116
財務部（財務課）	117
医療業務部（医事課）	118
情報システム部（情報システム課）	119
Ⅲ－5. 病院併設（介護事業）	
1) 通所リハビリテーション	121
2) 居宅介護支援事業所ふれあい	122
3) 訪問看護ステーション	125

I. 病 院 概 要



病院の沿革

昭和50年(1975年) 1 月	水野外科医院開設	平成22年(2010年) 4 月	急性期看護補助体制 体制加算(50: 1)申請受理
昭和52年(1977年) 7 月	有床診療所(19床)水野外科診療所	平成22年(2010年) 6 月	一般病棟入院基本料(7: 1)申請受理
昭和55年(1980年) 7 月	医療法人・誠光会設立、水野光邦理事長就任草津中央病院	平成22年(2010年) 6 月	回復期リハビリテーション病棟入院料申請受理
昭和57年(1982年) 4 月	草津中央病院(156床)開設、救急告示指定病院	平成22年(2010年) 6 月	亜急性期入院医療管理料申請受理
昭和57年(1982年)10月	基準給食・基準寝具認可	平成22年(2010年) 10月	滋賀県地域がん診療連携支援病院指定
昭和62年(1987年) 2 月	基準看護Ⅰ類認可	平成22年(2010年) 12月	新生児特定集中治療室管理料(NICU 3床)申請受理
昭和63年(1988年)11月	基準看護特Ⅰ類認可	平成24年(2012年) 4 月	草津看護専門学校開校
平成元年(1989年) 4 月	増改築工事着手	平成24年(2012年) 6 月	桑原正喜 社会医療法人誠光会理事長就任
平成2年(1990年) 7 月	増改築工事完成(320床)開設	平成25年(2013年) 8 月	滋賀県地域支援病院認定
平成3年(1991年) 7 月	総合病院承認	平成26年(2014年) 5 月	柏木厚典 社会医療法人誠光会理事長就任
平成3年(1991年) 8 月	基準看護Ⅱ類認可	平成26年(2014年) 5 月	平野正満 草津総合病院病院長就任
平成7年(1995年) 6 月	基準看護(看護3: 1、看護補助10: 1)	平成26年(2014年) 7 月	地域包括ケア病棟入院料Ⅰ申請受理
平成7年(1995年) 6 月	介護老人保健施設草津ケアセンター(100床)開設	平成27年(2015年) 5 月	病院機能評価(一般病院2、副機能種別: 慢性期病院) 3rdG: Ver.1.0認定
平成7年(1995年) 8 月	併設 訪問看護ステーション、在宅介護支援センター	平成28年(2016年) 1 月	新電子カルテシステムの更新
平成7年(1995年) 8 月	基準看護(看護2.5: 1、看護補助10: 1)	平成29年(2017年) 2 月	院外処方箋全面移行
平成9年(1997年) 5 月	草津総合病院に改称	平成29年(2017年) 2 月	日本医療マネジメント学会第14回 京滋支部学術集会 ホスト病院
平成10年(1998年) 2 月	水野光邦総院長就任	平成29年(2017年) 3 月	脳卒中ケアユニット(SCU 3床)入院管理料申請受理
平成14年(2002年) 3 月	医療法人誠光会矢橋中央病院(200床)開設	平成29年(2017年) 4 月	病児保育室陽だまり開所
平成15年(2003年)11月	単独型臨床研修病院指定	平成29年(2017年) 6 月	回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰ申請受理
平成18年(2006年) 4 月	医療法人誠光会草津総合病院新築移転(520床)	平成29年(2017年) 6 月	医療療養Ⅰ申請受理
平成18年(2006年) 5 月	医療法人誠光会矢橋中央病院と統合(許可病床数719床)	平成29年(2017年) 8 月	乳房自動超音波装置を導入
平成18年(2006年) 7 月	川副浩平 草津総合病院病院長就任	平成29年(2017年) 9 月	医療療養Ⅰ申請受理
平成18年(2006年) 9 月	管理型臨床研修病院指定	平成29年(2017年)10月	立命館大学と包括提携
平成18年(2006年)11月	地域災害拠点病院認定		
平成20年(2008年) 7 月	桑原正喜 草津総合病院病院長就任		
平成20年(2008年) 9 月	社会医療法人認可		
平成22年(2010年) 1 月	病院機能評価Ver.6認定		

平成29年(2017年)10月	脳卒中ケアユニット(SCU 6 床)入院管理料申請受理
平成29年(2017年)11月	病棟薬剤業務実施加算申請受 理
平成30年(2018年)2月	在宅療養後方支援病院申請受 理
平成30年(2018年)4月	入退院支援加算申請受理
平成30年(2018年)4月	医療安全対策加算1 申請受理
平成30年(2018年)4月	感染防止対策加算1 申請受理
平成30年(2018年)6月	柏木厚典 社会医療法人誠光 会会長就任
平成30年(2018年)6月	北野博也 社会医療法人誠光 会理事長就任

施設概要

病 院 概 要	
名 称	社会医療法人誠光会 草津総合病院
所 在 地	〒525-8585 滋賀県草津市矢橋町1660
	TEL.077-563-8866（代表） FAX.077-565-9313
開 設	昭和57年
開 設 者	社会医療法人誠光会
代 表 者	病院長 平野 正満
建 物	敷地面積 35,217.24㎡、建築面積 10,214.59㎡、延床面積 49,619.41㎡
駐 車 場	564台（患者用）
標榜診療科	内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、内分泌内科、内視鏡内科 腎臓内科、脳神経内科、血液内科、膠原病内科、人工透析内科、心療内科、緩和ケア内科 小児科、小児外科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科 整形外科、皮膚科、形成外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、甲状腺外科、眼科、泌尿器科 産婦人科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科 救急科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科
外 来 受 付 時 間	＜平日・土曜日＞ 午前 8：00～11：30
面 会 時 間	＜一般病棟＞ 平日 13：00～20：00 休日 10：00～20：00
	＜ICU（特定集中治療室）＞ 7：00～8：00 14：30～15：30 19：00～20：00
	＜SCU（脳卒中ケアユニット）＞ 14：00～16：00 18：00～20：00
	※ICU・SCUは同居親族または2親等以内の方に限る。12歳以下の方の面会は不可
病 棟	許可病床数 719床（一般520床（回復期42床／地域包括ケア108床含む）／療養99床／介護100床）
主 な 設 備	PET-CT（2台）、核医学（RI）診断システム、マルチスライスCT（64列）、3T MR、1.5T MR、 医療画像情報、マンモグラフィマンモトーム、骨密度測定、放射線治療装置、高気圧酸素治療装置、 血管造影装置、人工透析装置、手術室7室、ヘリポート、災害拠点備蓄倉庫 他
そ の 他	レストランさざなみ、コンビニ（ローソン）、ATM（滋賀銀行）、 あおばなホール（200名収容）
併 設 施 設	・指定居宅介護支援事業所ふれあい ・草津総合病院 訪問看護ステーション
グ ル ー プ	・介護老人保健施設 草津ケアセンター ・草津看護専門学校 ・社会福祉法人 誠光福祉会 ・一般社団法人誠光会 先端医療・健康増進協会

指定・認定施設一覧

指定施設

- ・厚生労働省臨床研修指定病院
- ・厚生労働省外国医師臨床修練指定病院
- ・滋賀県地域災害拠点病院/DMATチーム配備
- ・滋賀県地域医療支援病院
- ・滋賀県地域がん診療連携支援病院
- ・滋賀県救急告示病院
- ・病院群救急輪番制参加病院
- ・労災保険指定医療機関
- ・社会保険指定医療機関
- ・国民健康保険指定医療機関
- ・生活保護法指定医療機関
- ・更生医療
(腎臓・整形外科・心臓血管外科・歯科口腔外科)
- ・母体保護法指定医師
- ・開放型病院
- ・原子爆弾被爆者一般疾病医療機関 (医科、歯科)
- ・結核予防指定医療機関 (医科、歯科)
- ・母子保護法指定養育医療機関
- ・休日急病指定医療機関
- ・身体障害者福祉法指定医療機関
- ・指定自立支援医療機関
- ・滋賀県重症難病患者医療拠点病院
(骨・関節系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、循環器系疾患)
- ・肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
- ・滋賀県肝疾患専門医療機関

認定施設

- ・日本内科学会教育関連病院
- ・日本老年医学会認定施設
- ・日本糖尿病学会認定教育病院
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本内分泌学会認定教育施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
- ・日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
- ・日本呼吸器学会関連施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設
- ・日本呼吸器外科学会関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本循環器学会 2014年度循環器疾患診療実態調査認定
- ・日本動脈硬化学会認定専門医教育施設
- ・日本脈管学会認定研修指定施設
- ・日本透析医学会認定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本肥満学会 肥満症専門病院
- ・日本大腸肛門病学会関連施設
- ・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本脳神経外科学会連携施設
- ・日本脳卒中学会認定研修教育施設
- ・日本脳神経血管内治療学会専門医研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医暫定認定施設
- ・日本女性医学学会認定研修施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度指定研修施設
- ・日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設

- ・日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部・腹部・浅大動脈ステントグラフト実施施設
- ・日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- ・日本病理学会研修登録施設
- ・日本臨床細胞学会認定施設
- ・日本口腔外科学会専門医研修施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本乳がん学会関連施設
- ・日本乳がん検診機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設
- ・全日本病院協会認定日帰り人間ドック実施施設
- ・全日本病院協会認定UAゼンセン指定日帰り人間ドック実施施設
- ・日本人間ドック協会及び日本病院協会指定優良人間ドック・健診施設
- ・日本人間ドック学会人間ドック専門医研修関連施設
- ・高気圧酸素治療安全協会会員
- ・薬学教育協議会薬学生長期実務実習受入施設
- ・日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設

認定施設基準一覧

基本診療料

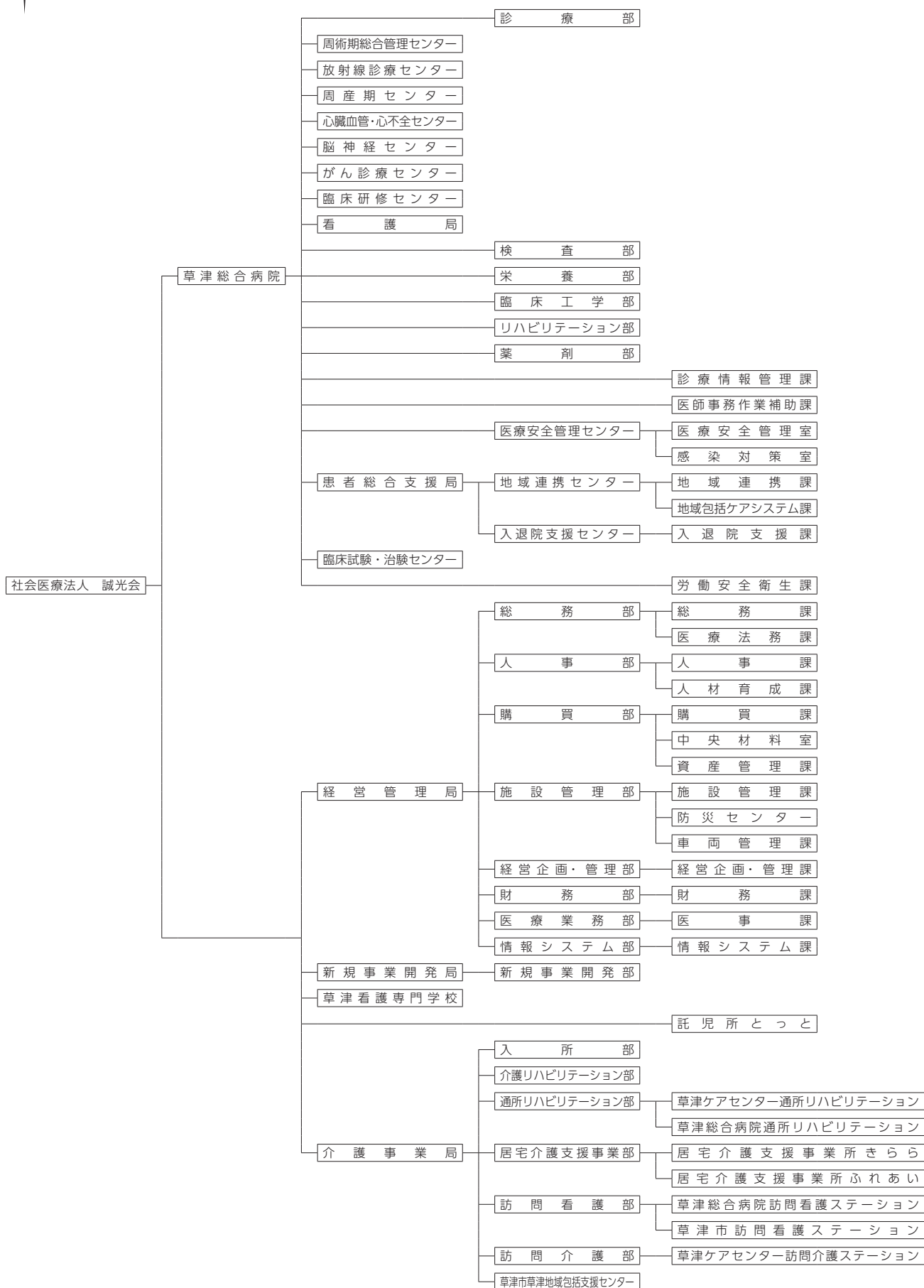
- ・初診料（歯科）の注1に掲げる基準
- ・歯科外来診療環境体制加算1
- ・一般病棟入院基本料
- ・療養病棟入院基本料
- ・超急性期脳卒中加算
- ・診療録管理体制加算1
- ・医師事務作業補助体制加算1
- ・急性期看護補助体制加算
- ・看護職員夜間配置加算
- ・療養環境加算
- ・重症者等療養環境特別加算
- ・療養病棟療養環境加算1
- ・栄養サポートチーム加算
- ・医療安全対策加算1
- ・感染防止対策加算1
- ・患者サポート体制充実加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・総合評価加算
- ・後発医薬品使用体制加算1
- ・病棟薬剤業務実施加算1
- ・病棟薬剤業務実施加算2
- ・データ提出加算
- ・入退院支援加算
- ・認知症ケア加算
- ・特定集中治療室管理料3
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料5
- ・回復期リハビリテーション病棟入院料1
- ・地域包括ケア病棟入院料2及び地域包括ケア入院医療管理料2
- ・入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）

特掲診療料

- ・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
- ・糖尿病合併症管理料
- ・がん性疼痛緩和指導管理料
- ・がん患者指導管理料Ⅰ
- ・がん患者指導管理料Ⅱ
- ・がん患者指導管理料Ⅲ
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・開放型病院共同指導料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・薬剤管理指導料
- ・地域連携診療計画加算
- ・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
- ・医療機器安全管理料1
- ・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
- ・在宅療養後方支援病院
- ・在宅酸素療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
- ・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
- ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
- ・検体検査管理加算（Ⅱ）
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・胎児心エコー法
- ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ヘッドアップティルト試験

- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・コンタクトレンズ検査料1
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・画像診断管理加算2
- ・ポジトロン断層撮影
- ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- ・CT撮影及びMRI撮影
- ・冠動脈CT撮影加算
- ・心臓MRI撮影加算
- ・乳房MRI撮影加算
- ・小児鎮静下MRI撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料2
- ・エタノールの局所注入（甲状腺）
- ・エタノールの局所注入（副甲状腺）
- ・人工腎臓
- ・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
- ・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- ・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- ・歩行運動処置（ロボットスーツによるもの）
- ・CAD/CAM冠
- ・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術
- ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科）
- ・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
- ・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術
- ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
- ・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
- ・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
- ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下仙骨脛固定術
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
- ・輸血管理料Ⅱ
- ・輸血適正使用加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・歯周組織再生誘導手術
- ・麻酔管理料（Ⅰ）
- ・麻酔管理料（Ⅱ）
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・保険医療機関間の連携による病理診断
- ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
- ・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
- ・病理診断管理加算1
- ・デジタル病理画像による病理診断
- ・悪性腫瘍病理組織標本加算
- ・口腔病理診断管理加算1
- ・クラウン・ブリッジ維持管理料

社会医療法人 誠光会 組織図（平成29年度）



職員状況（平成29年度）

職 種	人 数	内 訳	
		常 勤	非常勤
医 師	214	107	107
薬 剤 師	31	30	1
保 健 師	7	6	1
助 産 師	11	8	3
看 護 師	470	413	57
准 看 護 師	36	26	10
看 護 補 助 者	93	83	10
介 護 福 祉 士	37	34	3
ケアマネージャー	6	5	1
放 射 線 技 師	27	25	2
臨 床 検 査 技 師	32	27	5
臨 床 工 学 技 士	18	18	0
理 学 療 法 士	36	36	0
作 業 療 法 士	18	18	0
言 語 聴 覚 士	9	9	0
歯 科 衛 生 士	7	7	0
視 能 訓 練 士	5	3	2
診 療 補 助 者	1	1	0
管 理 栄 養 士	9	9	0
事 務	143	113	30
医 師 事 務 補 助	30	30	0
M S W	8	8	0
保 育 士	13	12	0
そ の 他	3	2	1
計	1,263	1,030	233

平成29年度の主な活動

平成29年

4月1日

- 病児保育室陽だまり開所式¹

4月3日

- 辞令交付式

4月30日～5月5日

- 医師6名がラオス人民民主共和国にて国際医療交流活動²

5月1日

- 3D心臓エコー3台更新

5月11日

- 地域医療関係者との交流会³

5月21日

- ふれあいのつどい⁴

6月1日

- インボディ体成分分析検査導入

7月29日

- サマーフェスティバル2017⁵

8月1日

- 内視鏡手術4K3Dモニター導入

9月10日

- 大規模災害訓練⁶

10月8日～9日

- リレーフォーライフジャパン滋賀医科大学2017参加⁷

10月26日

- 立命館大学と教育研究協力に関する構想発表⁸

11月9日

- あおばな地域医療連携の会開催⁹

11月14日

- 世界糖尿病デーイベント開催¹⁰

平成30年

1月4日

- 新年のあいさつの会開催

3月31日

- 4D胎児エコー更新

1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



医療従事者向けの学術等の実績

開催日	会 名	場 所	演 題	講師名	対象者	参加人数	主催者名
4.27	総合内科症例検討会	3階中会議室	IgG4関連疾患	総合内科 島田 利彦	職員、 開業医	19	総合内科
5.11	草津総合病院と地域医療関係者との交流会	ホテルポスト ンプラザ草津	頭頸部外科紹介 麻酔科紹介 呼吸器内科紹介	頭頸部外科 北野 博也 麻酔科 横野 論 呼吸器疾患セン ター 神田 響	開業医	111	地域 連携課
5.20	あおばな医療セミナー 第1回フットケアミーティン グ	9階あおばな ホール	第1回フットケアミーティング	循環器内科 原 正剛 皮膚科 古田 未征 看護部 伊波 早苗	医療 従事者	32	地域 連携課
5.25	総合内科症例検討会	3階中会議室	感染性心内膜炎	循環器内科 藤井 応理	職員、 開業医	26	総合内科
6.29	あおばな医療セミナー 第1回草津呼吸器セミナー	3階中会議室	胸部X線読影に基本 I	呼吸器科 山中 晃	開業医	17	地域 連携課
7.5	医療従事者セミナー	3階中会議室	血液透析長期留置カテーテル在宅管理 のための学習会	腎臓内科 西尾 利樹 看護部 馬場 紀子	医療 従事者	17	地域 連携課
7.20	第6回あおばな医療福祉交流 会	9階あおばな ホール	当院の取組みと循環器ドクターより皆 様へ 小規模多機能ってFantastic!!	循環器内科 原 正剛 小規模多機能 ホーム あん 高島 聡	医療 従事者	32	地域医療 連携促進 委員会
7.27	矢橋循環器ネットワーク	ホテルポスト ンプラザ草津	訴えてやる！といわれたら ～患者はなぜ訴えようと思うのか？ 当院における末梢血管治療について 心房細動のお話	富永愛法律事務 所 富永 愛 医師兼弁護士 循環器内科 立入 律也 循環器内科 八木 崇文	開業医	39	循環器 内科
10.5	滋賀医科大学 専門医等うつ 病治療向上研修事業	9階あおばな ホール	あきらめない！短時間でのうつ診療 10分間で何ができるか ～日常臨床に 役立つ認知行動療法のエッセンス～	一般社団法人 認知行動療法 研修開発 センター 菊池 俊暁	職員、 開業医 医療 従事者	155	滋賀医科 大学・地 域連携課
10.12	あおばな医療セミナー 第2回草津呼吸器セミナー	3階中会議室	胸部X線読影の基本 II	呼吸器科 山中 晃	開業医	15	地域 連携課
10.19	あおばな医療セミナー	9階あおばな ホール	当院の感染対策の取り組み 薬剤耐性（AMR）対策アクションに ついて	消化器内科 中村 文泰 長崎大学大学院 医歯薬総合研 究科病態解析・診 断学分野教授 柳原 克紀	職員、 開業医	78	地域 連携課
10.20	出前講座	ケアタウン南 草津	ノロ・インフルエンザについて	看護部 中村こずえ	医療 従事者	30	草津総合 病院
10.26	循環器内科「心不全チーム医 療を考える会」	9階あおばな ホール	慢性心不全看護認定看護師としての取 組み 高齢者心不全患者のフレイル	医仁会武田総合 病院 慢性疾患 看護専門看護師 小笹 考史 聖マリアンナ医 科大学 循環器内科 木田 圭亮	職員、 開業医 医療 従事者	100	循環器 内科
10.27	脳神経外科臨床研究会滋賀支 部ナイトセミナー	9階あおばな ホール	脳卒中基礎セミナー	脳下臨床研究 会京都支部 作業 療法士 種 宏樹	医療 従事者 職員	62	リハビリ テーショ ン部
11.9	あおばな地域医療連携の会	クサツエスト ピアホテル	われわれは嚥下障害にどこまで対応 することができるか？～軽症例から重症 嚥下性肺炎に対する手術治療まで～ 在宅患者の栄養管理について ～病院から在宅までシームレスな栄養 管理を目指して～ 地域医療構想について	頭頸部・甲状腺 外科センター 河本 勝之 滋賀医科大学看 護学科基礎看護 学講座教授 佐々木雅也 厚生労働省医政 局病床機能報告 分析支援専門官 伴 正海	職員、 開業医、 医療 従事者	219	地域 連携課
11.24	あおばな医療セミナー ～腹膜透析療法（PD）と地 域連携～	3階中会議室	療法選択～なぜ今、腹膜透析なのか～	社会福祉法人恩 賜財団 済生会 横浜市東部病院 腎臓内科 鯉淵 清人	職員、 開業医、 医療 従事者	29	地域 連携課
12.7	糖尿病・内分泌内科 『合併症予防を見据えた糖尿 病戦略を考える会』	クサツエスト ピアホテル	草津総合病院におけるCGM（持続血 糖測定）外来の取組み 糖尿病薬物治療の現状と未来 ～SGLT2阻害薬への期待～	糖尿病内分泌内 科 小林 純 川崎医科大学総 合内科学1 特任 教授 加来 浩平	職員、 開業医	36	地域 連携課
12.8	草津市・栗東市在宅医療・介 護連携のための合同研修会	9階あおばな ホール	その人らしい暮らしを支えたい ～何のために連携するのか～	四国医療産業研 究所 所長 櫃本 真津	職員、 開業医、 医療 従事者	80	草津総合 病院
12.14	あおばな医療セミナー	9階あおばな ホール	がん支持療法ガイドラインと漢方	金沢医科大学腫 瘍内科学教授 元雄 良治	職員、 開業医、 医療 従事者	26	地域 連携課

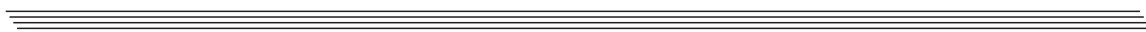
開催日	会 名	場 所	演 題	講師名		対象者	参加人数	主催者名
2.1	第1回倫理研修会 「多職種で臨床における倫理的諸問題を考える」	9階あおばなホール	臨床倫理に関する事例検討 倫理的問題への取り組みとチーム活動	滋賀県立総合病院 がん看護専門看護師	吉田 知美	職員、開業医、医療従事者	104	倫理委員会
2.8	あおばな医療セミナー ～ポリファーマシーを考える～	9階あおばなホール	入所を機に減らせる薬～介護老人保健施設における定期服用薬の調査より～ 超高齢社会の慢性疼痛管理～ポリファーマシー対策のポイント～	薬剤部 大阪大学大学院老年・総合内科学講師	岩崎 秀子 竹屋 泰	職員、開業医、医療従事者	42	感染対策委員会
2.8	あおばな病診歯科連携交流会	クサツエストピアホテル	草津総合病院循環器内科に紹介した患者さんの症例 草津総合病院頭頸部外科に紹介した患者さんの症例 病診連携の現状とこれから～歯科インプラントの連携を含めて～ 地域包括システムにおける医科歯科連携の重要性	草津たかはし歯科医院 院長 戸崎歯科 院長 歯科口腔外科 社会医療法人 誠光会	高橋 桂二 戸崎 宏樹 山口 芳功 鈴木 孝世	職員、開業医	75	地域連携課
3.6	「がん治療」と「就労」の両立支援講演会	9階あおばなホール	治療しながら安心して働ける「病気の治療と仕事の両立支援」について～誰も置き去りにされない社会を、企業・医療従事者・働く患者さんの協力で実現を～ 治療と仕事の両立支援に関する厚生労働行政の現状と方向性について	独立行政法人労働者健康安全機構 滋賀産業保健総合支援センター 両立支援促進員 厚生労働省滋賀労働局労働基準部健康安全課	長澤 孝子 山口 久雄	一般、医療従事者	30	がん相談支援センター

地域に向けた医療に関する教育・啓発活動の実績

開催日	時間	会 名	場 所	演 題	講師名		対象者	参加人数	主催者名
4.21	15:00-16:00	あおばな心臓病セミナー	あおばなホール	狭心症・心筋梗塞のカテーテル治療について	循環器内科	谷口 晋	一般	45	循環器内科
				心臓の検査について	検査部	栗本 明典			
4.28	14:30-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	お茶会～糖質を味方に！～	栄養部	布施・西村・高田・藤森	一般	36	糖尿病チーム
5.26	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病の3大合併症	糖尿病内分泌内科	小林 純	一般	12	糖尿病チーム
				糖尿病性神経障害（しびれ）	脳神経内科	佐々木禎治			
6.3	①11:00-11:50 ②13:00-13:50	出前講座	エムケイ観光バス(株)十条本社	病気で交通事故をおこさないためのABC	循環器内科	原 正剛	一般	110	草津総合病院
6.6	10:00-11:30	出前講座	あおばなホール	アレルギーについて	小児科	森元まゆみ	一般	64	草津総合病院
6.6	16:00-17:00	高度肥満に対する減量治療セミナー	あおばなホール	オプションとしての外科治療	肥満外科	戸川 剛	一般	17	肥満外科
6.8	13:30-15:00	出前講座	山田まちづくりセンター	からだの健康はお口の健康から	歯科口腔外科	山口 芳功	一般	19	草津総合病院
6.21	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と眼【糖尿病性網膜症】	眼科	水野 明里	一般	16	糖尿病チーム
				あなたの注射はどれですか？～インスリンを中心に～	薬剤部	荒木 美咲			
6.25	10:00-11:30	出前講座	中林自治会館	からだの健康はお口の健康から	歯科口腔外科	山口 芳功	一般	25	草津総合病院
7.1	10:30-11:00	出前講座	第三保育所	歯にいいおやつとジュース	歯科衛生士	飯間理沙・金子輝子	一般	100	草津総合病院
7.6	14:00-15:30	出前講座	下北池集会所	心不全～閉塞性動脈硬化	循環器内科	藤井 応理	一般	41	草津総合病院
7.13	11:30-12:10	出前講座	南笠町公民館	認知症を理解しよう	脳神経内科	佐々木禎治	一般	34	草津総合病院
7.27	14:15-15:00	出前講座	草津市上笠デイスタービスセンター湯楽里	からだの健康はお口の健康から	歯科衛生士	金子 輝子	一般	35	草津総合病院
7.28	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病内科の最近の話題	糖尿病内分泌内科	巖西 真規	一般	29	糖尿病チーム
				運動療法～長く続けるコツ～	リハビリテーション部	山本 敏雄			
8.23	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と肥満	肥満外科	山本 寛	一般	25	糖尿病チーム
				食事療法～カロリーダウンのコツ～	栄養部	布施 順子			
8.31	13:00-13:50	出前講座	大路幼稚園	急な病気や怪我的対応	小児科	森元まゆみ	一般	47	草津総合病院
9.5	16:00-17:00	高度肥満に対する減量治療セミナー	あおばなホール	オプションとしての外科治療	肥満外科	戸川 剛	一般	9	肥満外科
9.9	10:30-12:00	出前講座	山田小学校	健康チェック（血管年齢、骨密度）	検査部	桑原正明・吉田早苗	一般	47	草津総合病院
9.15	15:00-16:00	あおばな心臓病セミナー	あおばなホール	心房細動と言われたら	循環器内科	八木 崇文	一般	45	循環器内科
				まだまだ暑さが続きます 暑さに弱い心臓病～心臓は脱水にまけちゃうんです～	看護部	奥野さゆり			
9.19	14:30-15:30	メディカルカフェ	健康管理センター	高齢化社会を生き抜くための自己管理型身体活動のポイント	消化器外科	平野 正満	一般	30	健康管理センター
9.22	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と心臓・血管【心血管合併症】	循環器内科	藤井 応理	一般	39	糖尿病チーム
				災害時対策～その時お薬はどうする!?～	薬剤部	中田 まり			
9.24	11:00-12:00	出前講座	OHプラザ公民館	いきいき食生活～健康寿命をのばそう～	栄養部	布施 順子	一般	33	草津総合病院
9.30	14:00-16:00	出前講座	草津市立なごみの郷	検査をしてみよう	検査部	東田雅人・中島佑恵	一般	50	草津総合病院
10.27	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と口腔ケア【歯周病】	歯科口腔外科	西村 一行	一般	29	糖尿病チーム
				食事療法～合併症予防に取り組もう～	栄養部	布施 順子			
11.7	9:00-12:30	出前講座	草津市立なごみの郷	介護食を学び、試食をしてみましょう	栄養部	布施 順子	一般	17	草津総合病院
11.11	10:20-11:00	出前講座	琵琶湖くじら保育園	急な病気や怪我的対応	小児科	森元まゆみ	一般	42	草津総合病院
11.16	10:00-10:45	出前講座	草津第二保育所	きれいに手洗い	看護部	中村こずえ・高橋健太	一般	113	草津総合病院
11.16	10:20-11:10	出前講座	草津市立第六保育所	食事と脳の関係「身体と心を育む食育」	栄養部	西村 直子	一般	81	草津総合病院
11.20	10:00-11:10	出前講座	老上西まちづくりセンター	育児相談・読み聞かせ・手遊び	院内保育所とつと	鍋島美千子	一般	27	草津総合病院
11.21	13:30-15:00	出前講座	山田まちづくりセンター	足と靴の話	リハビリテーション部	中村 哲治	一般	29	草津総合病院

開催日	時間	会 名	場 所	演 題	講師名		対象者	参加人数	主催者名
11.21	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	新しい検査法・CGM（24時間持続血糖測定）	糖尿病内分泌内科	小林 純	一般	19	糖尿病チーム
				これを食べたら血糖があがる??	栄養部	布施 順子			
				フットケア～あなたの足・指を守りましょう～	看護部	伊波、袴田、竹嶋			
12.2	14:00-15:00	市民公開講座「生活習慣病と睡眠時無呼吸症候群」	草津商工会議所	こどものいびきと障害	JCHO滋賀病院耳鼻咽喉科	駒田 一朗	一般	30	草津総合病院 帝人在宅医療株式会社
				睡眠時無呼吸と心臓病	循環器内科	藤井 応理			
12.5	16:00-18:00	高度肥満に対する減量治療セミナー	あおばなホール	オプションとしての外科治療	肥満外科	戸川 剛	一般	9	肥満外科
12.6	10:00-12:30	出前講座	草津市役所	か・し・こ・い病院との付き合い方 認知症編	脳神経内科	吉川 健治	一般	113	草津総合病院
12.22	12:00-13:30	糖尿病教室	あおばなホール	クリスマスランチで食事療法を学ぼう！	栄養部	布施・西村・高田・藤森	一般	44	糖尿病チーム
1.14	10:00-11:30	出前講座	上笠町第三町内会集会所	緑内障と白内障のはなし	眼科	長船 嘉子	一般	47	草津総合病院
1.17	13:30-15:00	出前講座	笠縫東学区まちづくりセンター	骨粗鬆症測定/防ぐには	検査部	草野 恵子	一般	45	草津総合病院
1.18	11:30-12:30	出前講座	南笠町公民館	誤嚥を予防しよう	リハビリテーション部	石井亜紀子	一般	45	草津総合病院
1.19	15:00-16:00	あおばな心臓病セミナー	あおばなホール	知っておきたい心筋梗塞	循環器内科	立入 律也	一般	30	循環器内科
				食習慣を見直して、血液サラサラになろう！	栄養部	高田小百合			
1.26	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	運動で血糖値を下げるお話	リハビリテーション部	山本 敏雄	一般	18	糖尿病チーム
				クイズでチャレンジ～血糖を下げるコツ～	看護部	袴田 千鶴			
1.30	14:00-15:00	メディカルカフェ	健康管理センター	子宮頸がんの撲滅にむけて～子宮頸がんとHPVについて～	健康管理センター	鈴木 暁	一般	24	健康管理センター
2.16	14:00-15:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と肥満～食事療法による減量入院のすすめ～	糖尿病内分泌内科	山本有香子	一般	37	糖尿病チーム
				食事療法～減量入院中の食事療法について～	栄養部	布施 順子			
2.27	15:30-16:45	出前講座	あおばなホール	アレルギーの基礎的知識 アンフィラキシー症状が出た時の注意点 エピペンの使い方	小児科	森元まゆみ	一般	22	草津総合病院
3.16	15:00-16:00	あおばな心臓病セミナー	あおばなホール	足のコブ だるさ むくみ こむら返り 下肢静脈瘤のウソ・ホント！	心臓血管外科	森本 政憲	一般	60	循環器内科
3.17	14:00-16:00	がんサバイバーシップ・市民公開講座	あおばなホール	「今、できること」「今、したいこと」をする	がんサバイバー	牧野かおり	一般	47	がん相談支援センター
3.23	15:00-16:00	糖尿病教室	あおばなホール	糖尿病と内臓脂肪・「異所性」脂肪	糖尿病内分泌内科	手塚 祐司	一般	33	糖尿病チーム
				運動で血糖値を下げるお話	リハビリテーション部	山本 敏雄			

Ⅱ. 統計



統計

1. 月別外来延患者数・新患者数・1日平均

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	17,099	17,896	18,593	18,013	19,063	17,923	18,570	18,404	19,069	18,017	17,666	19,807	220,120
新患者数	2,028	2,373	2,322	2,350	2,478	2,119	2,338	2,228	2,456	2,449	2,224	2,406	27,771
1日平均	570	577	620	581	615	597	599	613	615	581	631	639	603

2. 病棟別入院患者延患者数・新患者数・退院患者数・在院日数・1日平均・病床稼働率

一般病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	9,563	9,639	9,255	9,582	9,760	9,128	9,478	9,690	9,859	10,233	9,724	10,223	116,134
新患者数	734	790	804	817	834	755	844	812	800	792	766	821	9,569
退院患者数	649	630	681	694	724	685	661	703	723	626	646	757	8,179
在院日数	13.8	13.6	12.5	12.6	12.5	12.6	12.6	12.8	12.9	14.4	13.8	13.0	13.1
1日平均	319	311	309	309	315	304	306	323	318	330	347	330	318
稼働率	90.8%	88.45%	87%	88.6%	89.7%	85.7%	85.4%	90.2%	88.8%	92.2%	97%	92.1%	1,076%
手術室内件数	310	283	321	303	336	312	340	342	343	315	310	354	3,869
地域包括ケア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	2,992	2,838	2,977	3,151	3,199	2,965	3,117	3,089	3,140	3,159	2,918	3,048	36,593
新患者数	10	8	5	8	2	5	7	5	8	7	10	9	84
退院患者数	95	116	106	108	84	122	90	92	108	83	95	128	1,227
1日平均	100	92	99	102	103	99	101	103	101	102	104	98	100
稼働率	92.3%	84.8%	91%	94.1%	95.5%	91.3%	93.1%	95.3%	93.8%	94.4%	96.5%	91%	92.8%
回復期リハ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	1,166	1,208	1,162	1,190	1,217	1,124	1,177	1,163	1,236	1,244	1,133	1,204	14,224
新患者数	4	4	2	3	1	1	3	2	4	1	0	1	26
退院患者数	11	10	11	13	5	18	13	10	15	5	8	12	131
1日平均	39	39	39	38	39	37	38	39	40	40	40	39	39
稼働率	94.8%	95.0%	94.5%	93.6%	95.8%	91.4%	92.6%	94.6%	97.2%	97.9%	98.6%	94.7%	95.1%
医療療養病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	2,809	2,861	2,718	2,813	2,824	2,700	2,821	2,702	2,816	2,900	2,649	2,907	33,520
新患者数	3	2	1	3	5	3	4	6	4	9	6	1	47
退院患者数	19	22	20	19	21	14	16	28	16	16	20	17	228
1日平均	94	92	91	91	91	90	91	90	91	94	95	94	92
稼働率	94.6%	93.2%	91.5%	91.7%	92.0%	90.9%	91.9%	91.0%	91.8%	94.5%	95.6%	94.7%	92.8%
介護療養病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	2,926	2,949	2,935	2,994	2,958	2,839	2,860	2,721	2,962	2,964	2,679	3,004	34,791
新患者数	10	15	9	8	9	8	7	11	10	6	8	13	114
退院患者数	12	14	7	10	12	7	10	7	8	10	8	7	112
1日平均	98	95	98	97	95	95	92	91	96	96	96	97	95
稼働率	97.5%	95.1%	97.8%	96.6%	95.4%	94.6%	92.2%	90.7%	95.5%	95.6%	95.7%	96.9%	95.3%
合 計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延患者数	19,456	19,495	19,047	19,730	19,958	18,756	19,453	19,365	20,013	20,500	19,103	20,386	235,262
新患者数	761	819	821	839	851	772	865	836	826	815	790	845	9,840
退院患者数	786	792	825	844	846	846	790	840	870	740	777	921	9,877
1日平均	649	629	635	636	644	625	628	646	646	661	682	658	645

3. 科別指標

1) 科別外来患者数

	4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月		10月	
	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ
総合内科	42	400	55	425	58	457	48	415	62	483	47	456	45	408
総合診療科・ 膠原病内科	53	281	64	322	49	356	38	295	59	362	33	305	68	332
心療内科	5	34	7	41	8	55	2	41	4	39	3	61	10	56
呼吸器科	2	32	6	55	6	42	4	44	7	48	8	56	5	52
呼吸器疾患 センター	5	33	22	136	26	124	38	185	32	168	16	174	26	163
神経内科	28	307	40	313	56	379	44	390	48	387	40	381	51	382
消化器内科	115	1,355	155	1,322	151	1,384	150	1,442	148	1,438	141	1,219	167	1,502
呼吸器外科	20	155	8	155	8	149	9	141	10	146	4	112	9	163
循環器内科	52	1,380	64	1,442	71	1,454	68	1,452	57	1,498	48	1,560	81	1,651
小児科	41	215	52	237	58	238	49	218	55	293	41	225	43	257
乳腺外科	13	165	13	160	16	178	19	176	10	197	13	185	16	238
整形外科	121	991	144	987	139	1,070	111	992	151	1,094	138	1,070	133	937
形成外科	12	124	18	110	16	106	15	114	13	106	16	121	16	123
脳神経外科	55	690	76	699	82	745	64	629	70	712	64	678	89	729
心臓血管外科	10	169	14	180	13	200	15	171	3	73	0	0	0	0
小児外科	27	107	23	135	12	115	14	95	12	98	13	77	10	78
皮膚科	88	789	151	902	124	876	137	934	172	919	102	761	100	756
泌尿器科	54	630	45	671	67	727	75	710	69	745	71	755	55	724
産婦人科	80	1,079	68	1,043	66	1,102	79	1,039	88	1,080	90	1,074	105	1,204
血液内科	7	79	7	85	9	102	10	125	4	111	7	87	6	112
眼科	68	1,097	77	1,090	83	1,299	62	1,061	88	1,152	76	1,160	77	1,147
頭頸部外科	103	887	109	981	132	944	118	910	141	1,077	103	946	108	915
放射線科	152	339	138	263	173	326	155	287	131	244	146	332	156	379
リハビリ科	2	251	2	221	1	230	1	223	0	251	2	239	1	239
糖尿病 内分泌内科	43	1,151	35	1,143	31	1,270	45	1,177	49	1,336	32	1,181	53	1,337
歯科口腔外科	306	1,304	343	1,318	368	1,338	334	1,231	384	1,386	349	1,355	370	1,324
救急科	420	647	524	827	378	636	510	807	496	806	434	738	412	687
甲状腺科	2	62	4	68	8	71	4	56	4	80	0	61	2	51
腎臓内科	10	1,228	24	1,398	17	1,350	43	1,495	10	1,396	12	1,341	19	1,326
感染症内科	12	229	7	208	14	263	9	238	12	270	6	225	10	253
第1外科	62	630	55	633	56	672	54	598	64	664	44	665	62	667
第2外科	17	258	22	320	25	328	26	316	25	392	20	315	32	370
緩和ケア内科	1	1	1	6	1	7	0	6	0	12	0	8	1	8
合 計	2,028	17,099	2,373	17,896	2,322	18,593	2,350	18,013	2,478	19,063	2,119	17,923	2,338	18,570

	11月		12月		1月		2月		3月		合計		合計 (平均)	
	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診	延べ	初診 (平均)	延べ (平均)
総合内科	47	498	74	480	91	541	81	496	67	490	717	5,549	59.8	462.4
総合診療科・ 膠原病内科	58	366	73	342	80	397	50	335	52	384	677	4,077	56.4	339.8
心療内科	3	46	4	52	2	43	3	42	7	61	58	571	4.8	47.6
呼吸器科	5	43	2	36	7	49	3	45	2	55	57	557	4.8	46.4
呼吸器疾患 センター	31	187	53	226	27	198	20	192	25	198	321	1,984	26.8	165.3
神経内科	50	450	25	392	34	329	27	326	50	401	493	4,437	41.1	369.8
消化器内科	154	1,330	178	1,528	162	1,343	144	1,355	136	1,487	1,801	16,705	150.1	1,392.1
呼吸器外科	11	157	9	163	7	139	4	167	6	166	105	1,813	8.8	151.1
循環器内科	71	1,524	83	1,609	56	1,554	73	1,464	91	1,655	815	18,243	67.9	1,520.3
小児科	60	321	47	280	34	242	39	253	33	257	552	3,036	46.0	253.0
乳腺外科	13	245	12	211	14	188	13	196	13	202	165	2,341	13.8	195.1
整形外科	140	1,056	133	1,085	141	1,038	127	1,056	147	1,208	1,625	12,584	135.4	1,048.7
形成外科	17	86	7	109	19	108	14	85	1	12	164	1,204	13.7	100.3
脳神経外科	66	758	91	768	56	716	59	647	72	745	844	8,516	70.3	709.7
心臓血管外科	6	32	8	73	6	49	8	78	29	136	112	1,161	9.3	96.8
小児外科	14	60	11	64	12	66	17	83	11	73	176	1,051	14.7	87.6
皮膚科	102	819	84	696	97	678	82	662	111	777	1,350	9,569	112.5	797.4
泌尿器科	56	678	68	728	61	684	66	657	74	745	761	8,454	63.4	704.5
産婦人科	82	1,091	78	1,127	85	1,037	67	1,073	93	1,105	981	13,054	81.8	1,087.8
血液内科	5	86	3	85	7	112	4	82	11	120	80	1,186	6.7	98.8
眼科	63	1,088	71	1,247	67	997	69	1,086	71	1,250	872	13,674	72.7	1,139.5
頭頸部外科	112	915	121	911	113	795	125	897	112	1,000	1,397	11,178	116.4	931.5
放射線科	112	359	134	244	129	298	131	308	182	346	1,739	3,725	144.9	310.4
リハビリ科	0	225	0	272	0	221	1	283	2	402	12	3,057	1.0	254.8
糖尿病 内分泌内科	40	1,219	49	1,346	51	1,325	45	1,188	45	1,398	518	15,071	43.2	1,255.9
歯科口腔外科	381	1,390	378	1,408	364	1,302	380	1,348	398	1,457	4,355	16,161	362.9	1,346.8
救急科	444	697	541	859	642	1,015	497	777	463	779	5,761	9,275	480.1	772.9
甲状腺科	3	79	3	69	3	46	1	76	1	63	35	782	2.9	65.2
腎臓内科	12	1,353	18	1,422	12	1,435	7	1,292	17	1,486	201	16,522	16.8	1,376.8
感染症内科	4	235	8	242	11	236	6	205	11	271	110	2,875	9.2	239.6
第1外科	44	649	66	671	47	535	41	577	49	717	644	7,678	53.7	639.8
第2外科	21	343	24	311	11	289	17	317	22	344	262	3,903	21.8	325.3
緩和ケア内科	1	19	0	13	1	12	3	18	2	17	11	127	0.9	10.6
合 計	2,228	18,404	2,456	19,069	2,449	18,017	2,224	17,666	2,406	19,807	27,771	220,120	2,314	18,343.3

2) 延入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合内科	2,823	2,321	2,622	2,774	2,803	2,696	2,747	2,671	2,927	2,953	2,565	2,903	32,805
総合診療科・ 膠原病内科	1,772	1,754	1,814	2,053	1,953	1,792	1,822	1,761	1,980	2,003	1,941	1,739	22,384
呼吸器科	0	488	491	456	508	527	752	832	960	958	903	1,142	8,017
呼吸器疾患 センター	61	182	272	328	386	347	324	413	406	336	283	262	3,600
神経内科	1,623	1,605	1,566	1,682	1,675	1,599	1,436	1,192	1,098	1,103	1,031	1,331	16,941
消化器内科	1,369	1,431	1,420	1,198	1,362	1,118	1,230	1,071	1,123	1,175	1,274	1,482	15,253
呼吸器外科	549	474	415	451	479	518	370	342	350	322	357	451	5,078
循環器内科	1,844	2,047	1,876	1,888	1,956	1,761	1,521	1,531	1,247	1,672	1,770	1,682	20,795
小児科	102	66	53	92	72	58	70	72	108	72	25	66	856
乳腺外科	33	24	24	46	58	68	27	32	12	29	55	90	498
整形外科	813	651	698	742	1,035	1,036	1,158	1,470	1,567	1,580	1,304	1,262	13,316
形成外科	12	32	4	3	5	0	2	0	0	0	0	0	58
脳神経外科	1,843	1,785	1,254	1,428	1,173	1,104	1,469	1,548	1,374	1,552	1,504	1,139	17,173
心臓血管外科	146	156	181	110	35	0	0	35	209	271	212	286	1,641
皮膚科	132	100	71	110	68	43	66	46	28	63	50	67	844
泌尿器科	142	263	204	235	198	181	295	274	150	155	194	211	2,502
産婦人科	678	600	564	662	521	548	584	594	652	564	586	721	7,274
血液内科	0	0	0	0	0	0	10	17	24	0	0	0	51
眼科	132	114	114	118	119	120	124	157	83	108	130	123	1,442
頭頸部外科	661	593	615	498	551	518	469	509	479	400	512	517	6,322
糖尿病 内分泌内科	702	584	592	778	783	915	975	845	1,047	1,036	901	1,096	10,254
歯科口腔外科	121	136	116	129	242	186	132	115	131	135	205	254	1,902
救急科	113	162	267	263	123	131	153	173	164	103	84	69	1,805
腎臓内科	646	714	726	877	700	704	780	760	832	943	879	876	9,437
感染症内科	183	225	206	164	167	86	51	61	138	172	97	109	1,659
第1外科	2,283	2,192	2,026	2,034	2,322	2,183	2,138	2,208	2,373	2,157	1,685	2,046	25,647
第2外科	673	796	856	611	664	517	748	636	551	638	556	462	7,708
合 計	19,456	19,495	19,047	19,730	19,958	18,756	19,453	19,365	20,013	20,500	19,103	20,386	235,262

がん統計

1. 部位別登録件数（総数）

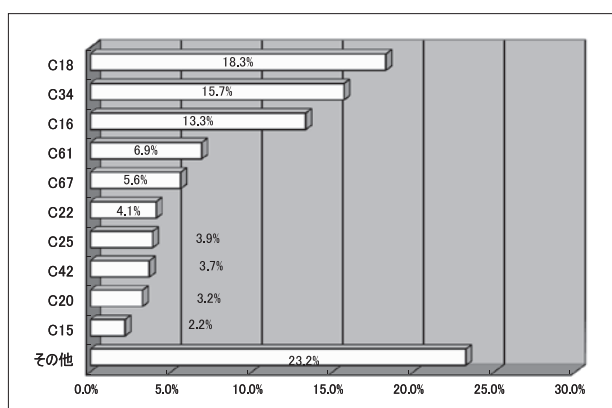
ICD-O-3	局 在 名 称	男 性	女 性	合 計
C00	口唇	0	0	0
C01	舌根部	0	1	1
C02	その他及び部位不明の舌	7	5	12
C03	歯肉	1	1	2
C04	口腔底	1	0	1
C05	口蓋	1	0	1
C06	その他及び部位不明の口腔	0	0	0
C07	耳下腺	1	0	1
C08	その他及び部位不明の大唾液腺	0	1	1
C09	扁桃	3	1	4
C10	中咽頭	3	0	3
C11	鼻咽腔	1	0	1
C12	梨状陥凹	5	0	5
C13	下咽頭	3	0	3
C14	その他及び部位不明の口唇、口腔及び咽頭	0	0	0
C15	食道	10	3	13
C16	胃	62	34	96
C17	小腸	1	1	2
C18	結腸	85	102	187
C19	直腸S状結腸移行部	5	4	9
C20	直腸	15	8	23
C21	肛門及び肛門管	1	1	2
C22	肝及び肝内胆管	19	3	22
C23	胆のう	3	4	7
C24	その他及び部位不明の胆道	8	4	12
C25	膵	18	13	31
C26	その他及び部位不明確の消化器	0	0	0
C30	鼻腔及び中耳	0	4	4
C31	副鼻腔	2	0	2
C32	喉頭	4	1	5
C33	気管	0	0	0
C34	気管支及び肺	73	35	108
C37	胸腺	1	0	1
C38	心臓、縦隔及び胸膜	0	1	1
C39	その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器	0	0	0
C40	肢の骨、関節及び関節軟骨	0	0	0
C41	その他及び部位不明確の骨、関節及び関節軟骨	0	0	0
C42	造血器及び細網内皮系	17	8	25
C44	皮膚	3	3	6

ICD-O-3	局 在 名 称	男 性	女 性	合 計
C47	末梢神経及び自律神経系	0	0	0
C48	後腹膜及び腹膜	7	9	16
C49	結合組織、皮下組織及びその他の軟部組織	1	1	2
C50	乳房	0	80	80
C51	外陰	0	4	4
C52	膣	0	0	0
C53	子宮頸部	0	33	33
C54	子宮体部	0	22	22
C55	子宮（NOS）	0	0	0
C56	卵巣	0	31	31
C57	その他及び部位不明の女性性器	0	3	3
C58	胎盤	0	0	0
C60	陰茎	1	0	1
C61	前立腺	32	0	32
C62	精巣	3	0	3
C63	その他及び部位不明の男性性器	0	0	0
C64	腎	5	4	9
C65	腎盂	2	1	3
C66	尿管	1	0	1
C67	膀胱	26	3	29
C68	その他及び部位不明の泌尿器	0	0	0
C69	眼及び付属器	0	0	0
C70	髄膜	7	6	13
C71	脳	2	4	6
C72	脊髄、脳神経及びその他の中枢神経系	2	3	5
C73	甲状腺	2	23	25
C74	副腎	0	0	0
C75	その他の内分泌腺及び関連組織	4	0	4
C76	その他及び不明確な部位	0	0	0
C77	リンパ節	8	3	11
C80	原発部位不明	9	11	20
合 計		465	479	944

2. 部位別登録件数（上位10部位）

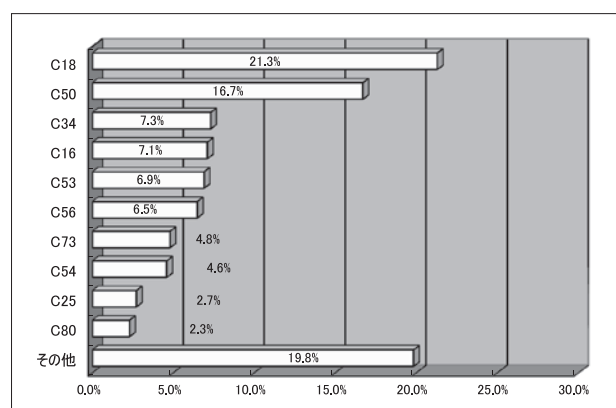
〔男性〕

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	%
1	C18	結腸	85	18.3%
2	C34	気管支及び肺	73	15.7%
3	C16	胃	62	13.3%
4	C61	前立腺	32	6.9%
5	C67	膀胱	26	5.6%
6	C22	肝及び肝内胆管	19	4.1%
7	C25	膵	18	3.9%
8	C42	造血器及び細網内皮系	17	3.7%
9	C20	直腸	15	3.2%
10	C15	食道	10	2.2%
	その他	その他の部位	108	23.2%



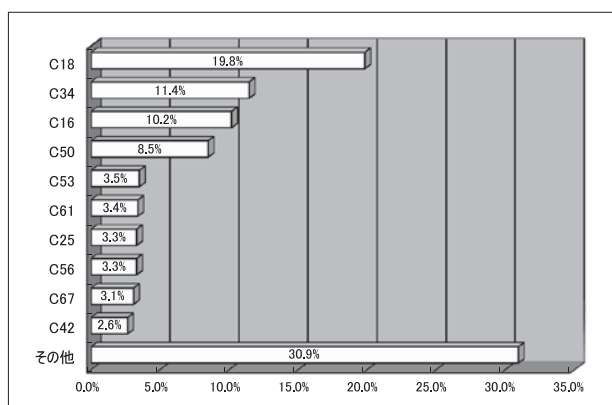
〔女性〕

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	%
1	C18	結腸	102	21.3%
2	C50	乳房	80	16.7%
3	C34	気管支及び肺	35	7.3%
4	C16	胃	34	7.1%
5	C53	子宮頸部	33	6.9%
6	C56	卵巣	31	6.5%
7	C73	甲状腺	23	4.8%
8	C54	子宮体部	22	4.6%
9	C25	膵	13	2.7%
10	C80	原発部位不明	11	2.3%
	その他	その他の部位	95	19.8%



〔全体〕

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	%
1	C18	結腸	187	19.8%
2	C34	気管支及び肺	108	11.4%
3	C16	胃	96	10.2%
4	C50	乳房	80	8.5%
5	C53	子宮頸部	33	3.5%
6	C61	前立腺	32	3.4%
7	C25	膵	31	3.3%
8	C56	卵巣	31	3.3%
9	C67	膀胱	29	3.1%
10	C42	造血器及び細網内皮系	25	2.6%
	その他	その他の部位	292	30.9%



3. 部位別・年齢階層別登録件数（上位10部位）

〔男性〕

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～
1	C18	結腸	85	0	0	0	2	7	19	22	20	14	1
2	C34	気管支及び肺	73	0	0	0	0	1	7	17	28	19	1
3	C16	胃	62	0	0	0	0	1	8	17	24	9	3
4	C61	前立腺	32	0	0	0	0	0	0	15	9	7	1
5	C67	膀胱	26	0	0	0	0	1	0	4	12	9	0
6	C22	肝及び肝内胆管	19	0	0	0	0	3	1	5	4	4	2
7	C25	膵	18	0	0	0	0	1	3	5	6	3	0
8	C42	造血器及び細網内皮系	17	0	0	0	1	2	3	4	3	3	1
9	C20	直腸	15	0	0	0	1	2	2	5	3	2	0
10	C15	食道	10	0	0	0	0	0	1	3	6	0	0
	その他	その他の部位	108	0	0	1	4	9	17	29	26	18	4
合計			465	0	0	1	8	27	61	126	141	88	13

〔女性〕

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～
1	C18	結腸	102	0	0	0	8	14	15	26	28	6	5
2	C50	乳房	80	0	0	0	2	11	18	23	14	8	4
3	C34	気管支及び肺	35	0	0	0	0	1	5	9	9	9	2
4	C16	胃	34	0	0	0	1	6	5	6	1	10	5
5	C53	子宮頸部	33	0	0	4	8	11	6	3	1	0	0
6	C56	卵巣	31	0	0	2	3	7	7	8	4	0	0
7	C73	甲状腺	23	0	0	1	5	5	3	4	3	2	0
8	C54	子宮体部	22	0	0	0	2	2	8	5	3	2	0
9	C25	膵	13	0	0	0	0	2	0	3	5	3	0
10	C80	原発部位不明	11	0	0	0	0	1	1	3	5	1	0
	その他	その他の部位	95	0	1	1	1	7	8	23	23	18	13
合計			479	0	1	8	30	67	76	113	96	59	29

〔全体〕

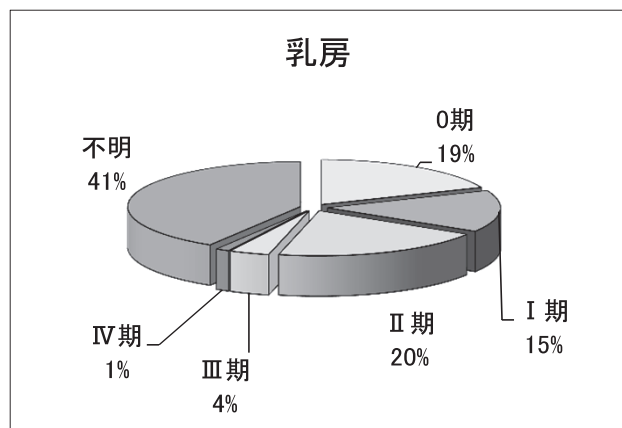
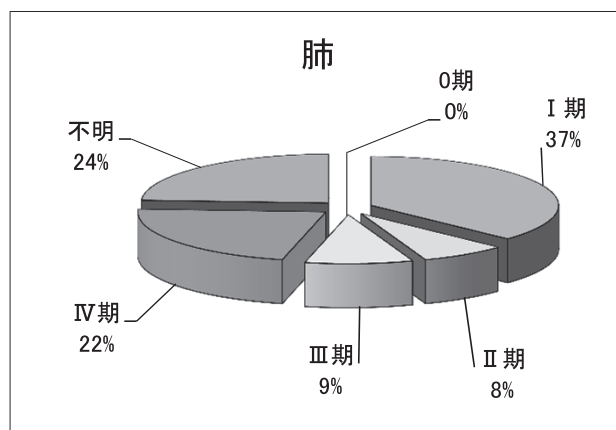
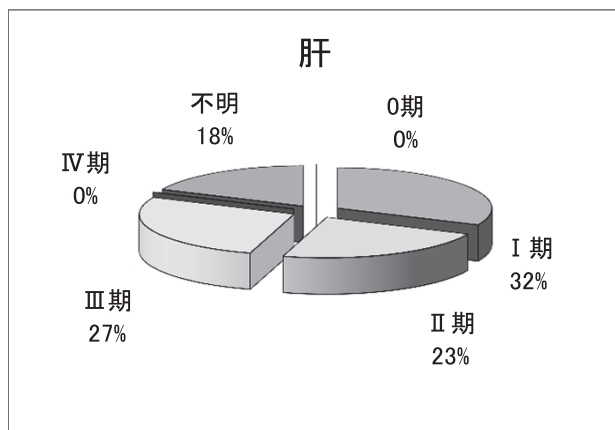
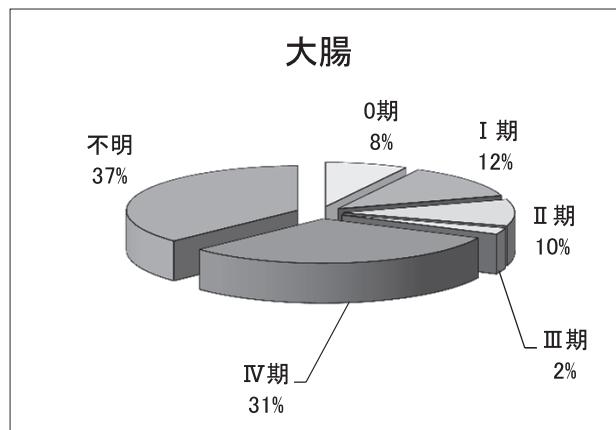
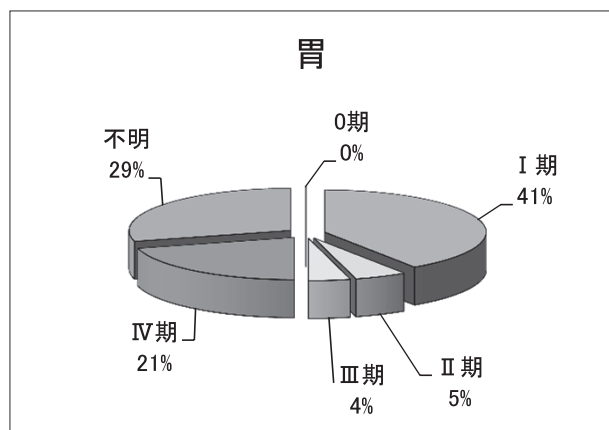
順位	ICD-O-3	局在名称	件数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳～
1	C18	結腸	187	0	0	0	10	21	34	48	48	20	6
2	C34	気管支及び肺	108	0	0	0	0	2	12	26	37	28	3
3	C16	胃	96	0	0	0	1	7	13	23	25	19	8
4	C50	乳房	80	0	0	0	2	11	18	23	14	8	4
5	C53	子宮頸部	33	0	0	4	8	11	6	3	1	0	0
6	C61	前立腺	32	0	0	0	0	0	0	15	9	7	1
7	C25	膵	31	0	0	0	0	3	3	8	11	6	0
8	C56	卵巣	31	0	0	2	3	7	7	8	4	0	0
9	C67	膀胱	29	0	0	0	0	1	0	4	12	11	1
10	C42	造血器及び細網内皮系	25	0	0	0	1	2	4	5	5	7	1
	その他	その他の部位	292	0	1	3	13	29	40	76	71	41	18
合計			944	0	1	9	38	94	137	239	237	147	42

4. 部位別・発見経緯別登録件数（上位10部位）

順位	ICD-O-3	局在名称	件数	がん検診・ 健診等	他疾患 経過観察	剖検発見	その他 自覚症状	不明
1	C18	結腸	187	26	50	1	87	23
2	C34	気管支及び肺	108	14	46	0	39	9
3	C16	胃	96	16	20	0	48	12
4	C50	乳房	80	13	13	0	17	37
5	C53	子宮頸部	33	20	5	0	7	1
6	C61	前立腺	32	15	10	0	5	2
7	C25	膵	31	5	5	0	17	4
8	C56	卵巣	31	1	3	0	21	6
9	C67	膀胱	29	1	7	0	18	3
10	C42	造血器及び細網内皮系	25	5	8	0	7	5
	その他	その他の部位	292	21	88	0	150	33
合計			944	137	255	1	416	135

5. 部位別ステージ分布（主要5部位）

局在名称	合 計	治療前ステージ（UICC）					
		0期	I期	II期	III期	IV期	不明
胃	96	0	39	5	4	20	28
大腸	218	17	27	21	5	67	81
肝	22	0	7	5	6	0	4
肺	108	0	40	8	10	24	26
乳房	80	15	12	16	3	1	33



* 初回治療終了後症例は含まれていません。

6. 部位別・組織診断別登録件数（主要5部位）

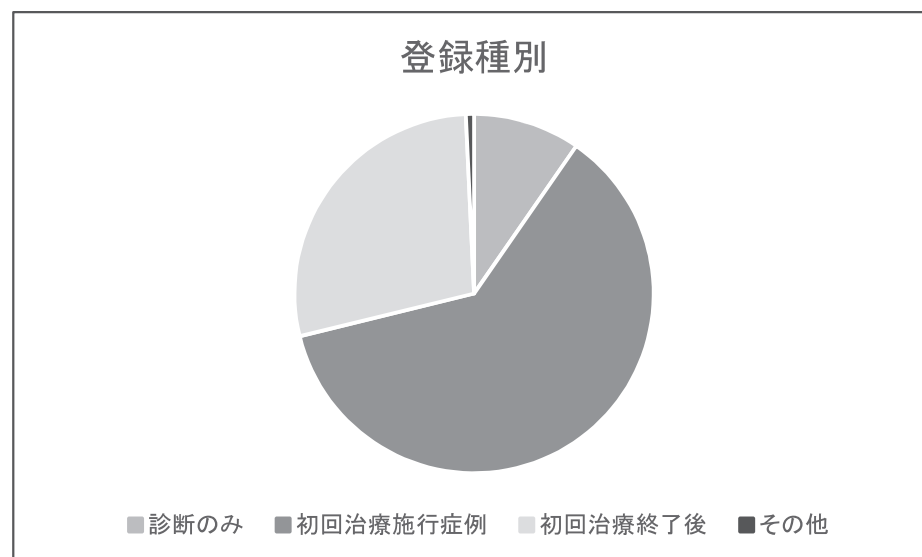
局在名称	組織診断コード	組織診断名称	男性	女性	合計
胃	8000/3	新生物、悪性	2	2	4
	8010/3	癌腫	1	0	1
	8140/3	腺癌	18	14	32
	8211/3	管状腺癌	37	13	50
	8490/3	印環細胞癌	3	1	4
	9581/3	胞巣状軟部肉腫	0	0	0
	9678/3	原発性滲出性リンパ腫	0	0	0
	9695/3	ろ胞性リンパ腫、悪性度1	0	0	0
大腸	8000/3	新生物、悪性	0	5	5
	8010/3	癌腫	0	3	3
	8140/3	腺癌	0	6	6
	8210/2	腺腫性ポリープ内上皮内腺癌	1	2	3
	8210/3	腺腫性ポリープ内腺癌	0	2	2
	8211/3	管状腺癌	4	38	42
	8243/3	胚細胞カルチノイド	0	1	1
	8480/1	粘液性腫瘍	0	51	51
	8480/3	粘液腺癌	0	51	51
	9680/3	悪性リンパ腫、大細胞性B細胞型、びまん性、NOS	0	1	1
肝	8160/3	肝内胆管癌	1	1	2
	8170/3	肝細胞癌	18	2	20
肺	8000/3	新生物、悪性	18	15	33
	8012/3	大細胞癌、NOS	1	0	1
	8022/3	多形細胞癌	1	0	1
	8041/3	小細胞癌	8	0	8
	8045/3	小細胞混合癌	1	0	1
	8046/3	非小細胞癌	4	0	4
	8070/2	上皮内扁平上皮癌	1	0	1
	8070/3	扁平上皮癌	12	0	12
	8071/3	扁平上皮癌、角化	1	0	1
	8072/3	扁平上皮癌、大細胞性、非角化	1	1	2
	8140/3	腺癌	21	11	32
	8230/3	充実性癌	1	0	1
	8250/3	細気管支肺胞腺癌	0	3	3
	8253/3	細気管支肺胞上皮癌、粘液性	0	1	1
	8260/3	乳頭状腺癌	3	4	7
乳房	8000/3	新生物、悪性	0	2	2
	8010/3	癌腫	0	2	2
	8070/3	扁平上皮癌	0	1	1
	8401/3	アポクリン腺癌	0	1	1
	8480/1	粘液性腫瘍	0	3	3
	8480/3	粘液腺癌	0	3	3
	8500/2	導管内癌、非浸潤性	0	15	15
	8500/39	浸潤性乳管癌	0	8	8
	8500/31	乳頭腺管癌	0	6	6
	8500/32	充実腺管癌	0	14	14
	8500/33	硬癌	0	20	20
	9599/3	B細胞リンパ腫、NOS	0	1	1
	9680/3	悪性リンパ腫、大細胞性B細胞型、びまん性、NOS	0	1	1

7. 部位別・治療行為別登録件数（主要5部位）

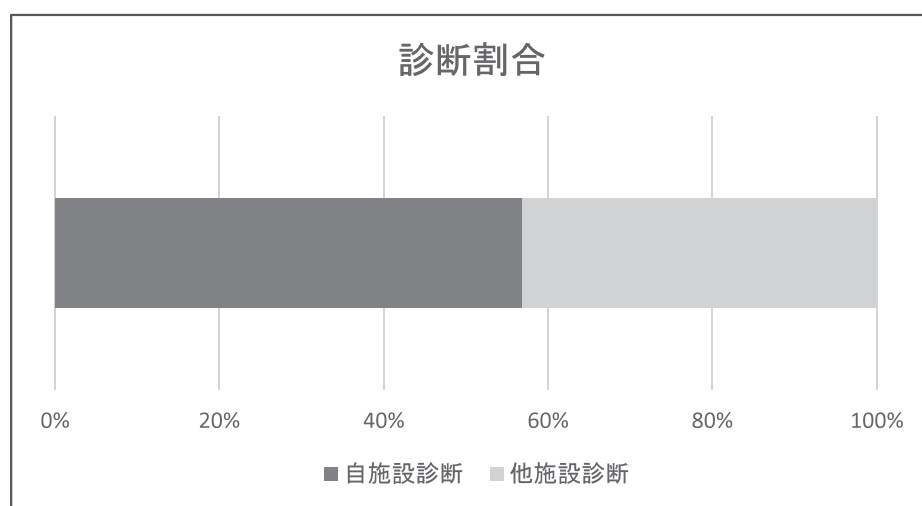
		胃		大腸		肝		肺		乳腺	
手術	外科的	2	2.1%	19	8.7%	1	4.5%			4	5.0%
	鏡視下	11	11.5%	27	12.3%			7	6.5%		
	内視鏡	10	10.4%	24	11.0%						
放射線								1	0.9%	24	30.0%
化学療法		3	3.1%	4	1.8%	1	4.5%	14	13.0%	1	1.3%
内分泌										1	1.3%
その他		2	2.1%								
手術＋放射線										1	1.3%
手術＋化学療法		11	11.5%	15	6.8%			1	0.9%	1	1.3%
手術＋内分泌										5	6.3%
手術＋放射線＋化学療法										5	6.3%
手術＋放射線＋内分泌										8	10.0%
手術＋化学療法＋内分泌										3	3.8%
手術＋化学療法＋その他											
手術＋内分泌＋その他											
放射線＋化学療法								10	9.3%		
放射線＋内分泌											
放射線＋その他											
化学療法＋内分泌											
化学療法＋その他				1	0.5%	6	27.3%				
経過観察		11	11.5%	3	1.4%	6	27.3%	21	19.4%	1	1.3%
左記以外の初回治療		9	9.4%	39	17.8%	3	13.6%	1	0.9%	5	6.3%
診断のみ		10	10.4%	3	1.4%	1	4.5%	22	20.4%	3	3.8%
初回治療後		27	28.1%	84	38.4%	4	18.2%	31	28.7%	18	22.5%

8. 登録状況

院内がん登録対象件数	944	
診断のみ	91	9.6%
初回治療施行症例	581	61.5%
初回治療終了後	265	28.1%
その他	7	0.7%



自施設診断	537	57%
他施設診断	407	43%



Ⅲ．活動状況

Ⅲ-1．診療科

総合内科

1. 概要

多臓器にわたる疾患をお持ちの患者さん、ご高齢の患者さん、その他感染症の患者さんを中心に、地域の人々や開業医の先生に、少しでもお役にたつようにとの思いで日々診療にあたっています。

毎月1回（第4木曜日）総合内科症例検討会を近医の開業医の先生方にもご参加いただき実施しています。

当科は、幅広い内科疾患の初期診療を担当しています。多臓器にわたる疾患をお持ちの患者さんやご高齢の患者さん、その他感染症の患者さんなどを中

心に、日々診療にあたっています。各診療科と協力し、必要な場合は適切な診療科にスムーズにご紹介させていただいております。また、リウマチ・膠原病を専門とする医師も在籍しております。

明らかに専門診療科の疾患でない入院患者は、総合内科医が主治医となり、さまざまな科の専門医と協力しながら診療を進め、院内の物的・人的資源を活用し、患者さんにとって最も適した医療の提供を実践しております。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
統括部長	岩 崎 良 昭	日本内科学会認定内科専門医 日本内科学会総合内科専門医 身体障害者福祉法指定医師 難病指定医
統括部長	塩 井 哲 雄	日本内科学会認定内科専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医
部長	楠 川 順 也	日本内科学会認定内科専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医
部長	島 田 利 彦	日本内科学会認定内科専門医 日本内科学会総合内科専門医 身体障害者福祉法指定医師
医長	日 野 拓 耶	日本内科学会総合内科専門医 日本プライマリケア連合学会プライマリ認定医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 身体障害者福祉法指定医師
医員	玉 川 裕一郎	日本内科学会認定内科専門医

腎臓内科・透析センター

1. 概要

腎臓内科は、2015年4月より現部長が赴任し、診療が開始となりました。

治療方針：患者さんにとってより良い治療を提供するためにはどうすれば良いかを常に考え、看護師、管理栄養士、薬剤師と一緒にチーム医療を行うことを基本に診療にあたっています。

透析センターでは、現在約100名の血液透析患者さんと50名の腹膜透析患者さんがおられます。現況としては、当院腎臓内科の方針であるPDファースト（可能な患者さんは腹膜透析から始めましょう）のため、腹膜透析の患者さんが増えてきています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	学会役職	資 格
腎臓内科部長 兼 透析センター長	西 尾 利 樹	腹膜透析学会評議員	日本内科学会認定内科医・指導医 総合内科専門医 日本腎臓学会腎臓専門医 日本透析医学会透析専門医・指導医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医員	大 井 衣 里		日本透析医学会透析専門医 日本内科学会認定内科医

3. 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
血液透析 延患者件数 (外来)	957	1,043	1,021	1,030	1,061	1,009	998	1,025	1,026	1,091	946	1,083
血液透析 延患者件数 (入院)	247	293	247	273	273	289	321	307	316	315	328	357
腹膜透析 延患者件数 (外来)	829	921	933	1,007	1,084	1,065	1,125	1,060	1,096	1,095	1,053	1,246
腹膜透析 延患者件数 (入院)	159	187	226	203	200	218	230	282	299	362	278	230

4. 学術・研修活動

一般講演

- 1 西尾利樹 高齢透析患者に在宅で有意義な生活を送っていただくための腹膜透析の有用性と、それを成功に導く地域連携の重要性 第62回日本透析医学会 学術集会・総会 2017年6月16日～18日 神奈川（パシフィコ横浜）
- 2 大井衣里 当院にて経験した横隔膜交通症の2

症例 第23回日本腹膜透析医学会学術集会・総会 2017年10月7日、8日 福岡（北九州国際会議場、西日本総合展示場）

- 3 西尾利樹 長期留置型カテーテルを安全確実に管理するために必要なこと 第21回日本アクセス研究会学術集会・総会 2017年10月21日、22日 岐阜（長良川国際会議場）

座長

- 1 西尾利樹 第62回日本透析医学会 学術集会・総会 2017年6月16日～18日 神奈川（パシフィコ横浜）

- 2 西尾利樹 第21回日本アクセス研修会学術集会・総会 2017年10月21日、22日 岐阜（長良川国際会議場）

血液内科

1. 概要

昨年度（平成28年度）4月より血液内科を開設し、常勤1名（鈴木）、非常勤2名（安藤、河原）体制となった。本年度も同様の体制で造血器悪性腫瘍の診断と治療、ならびに全診療科における化学療法に起因する有害事象の治療を行った。

【診療機能構築】

外来を金曜日を除く週4日開設し、診療の充実を図った。

昨年度9月に整備された外来化学療法室において、当番科の一環を務めるとともに、血液学的有害事象の治療にあたった。当該科としては悪性リンパ腫の治療を延べ20回施行した。

【広報活動】

草津栗東医師会において、昨年度に引き続き血液疾患、特に骨髄異形成症候群の概要を解説し、早期診断・早期治療の重要性を啓発した。その結果、不応性貧血3名、急性骨髄性白血病2名の紹介をいただいた。

【診療実績（造血器悪性疾患）】

急性骨髄性白血病	4名
慢性骨髄性白血病	4名
悪性リンパ腫	10名
多発性骨髄腫	5名
骨髄異形成症候群	6名
骨髄増殖性腫瘍	10名

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
副理事長	鈴 木 孝 世	日本感染症学会指導医・専門医 日本血液学会専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師 日本医師会認定産業医
非常勤	安 藤 朗	日本内科学会総合内科専門医 日本血液学会血液専門医・指導医
非常勤	河 原 真 大	日本内科学会内科認定医 日本血液学会血液専門医・指導医

小児科

1. 概要

- 当診療科は、地域の小児医療において、
- ・精査、点滴、入院などが必要な急性期疾患
 - ・長引く熱や咳、喘鳴
 - ・頻回の嘔吐や下痢
 - ・他科との連携が安心な疾患
 - ・虫垂炎
 - ・リンパ節腫脹
 - ・黄色ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
 - ・頭部外傷
 - ・難聴や視野狭窄
 - ・長期管理が必要
 - ・熱性けいれん
 - ・食物アレルギー
 - ・アレルギー性紫斑病
 - ・不定愁訴（頭痛や腹痛など）

- ・不登校
- ・養育に見守りが必要な家族などの、診療を行っております。

急性疾患では、迅速で正確な診断、適切な加療、早期退院を目指しています。

慢性疾患では、日常生活に配慮し、親御さんのお気持ちに寄り添えるよう、心がけています。

- 年間120人ほどの新生児も出生しており、
- ・帝王切開への立会い
 - ・生後1日目、5日目、1か月の健診
 - ・予防接種や健診の、説明や実施などを行っております。

2. スタッフ構成

役職	名 前	専門分野	資 格
医長	森 元 まゆみ	小児科一般	日本小児科学会専門医
医員	野 村 明 孝	小児科一般、小児血液疾患	日本小児科学会専門医
非常勤医師	高 田 亜希子	小児科一般、小児血液疾患	日本小児科学会専門医

3. 主要な診療実績

- ・外来患者数 4,000人／年ほど
- ・入院患者数 80人／年ほど
- ・時間外の救急受診 80件／年ほど

4. 学術・研修活動

1. 森元まゆみ 乳幼児の救急法 草津市幼児課研修 7月27日 草津総合病院

糖尿病・内分泌内科

1. 概要

当科は日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会認定教育施設であり、糖尿病、内分泌疾患についての専門性の高い診療を行う。また、日本糖尿病

学会専門医、日本内分泌学会専門医の養成機関である。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
理事長	柏 木 厚 典	日本糖尿病学会専門医・指導医 日本内分泌学会指導医・専門医 日本内科学会認定内科医・指導医 日本動脈硬化学会動脈硬化専門医
部長	巖 西 真 規	日本糖尿病学会専門医・指導医 日本内分泌学会専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医長	鷺 山 美 樹	日本内科学会認定内科医
医長	小 林 純	日本内科学会認定内科医 身体障害者福祉法指定医師
医員	山 本 有香子	日本内科学会認定内科医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医
医員	手 塚 祐 司	日本内科学会認定内科医 日本医師会産業医
専攻医	東 長 佳	

3. 主要な診療実績

●看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、医師からなる糖尿病療養チームにより、糖尿病診療を行った。糖尿病教室も糖尿病療養チームで運営し、月1回の開催を継続している。患者との双方向性の診療を目指した。糖尿病の専門研修を終えてい

る看護師による糖尿病療養指導、フットケア外来を継続した。

●GLT-1 受動態作動薬として、ビクトーザ、バイエッタ、トルリシティの使い分けやSGLT2阻害薬の使用により、よりよい血糖コントロールを目指した。

4. 学術・研修活動

1. 巖西真規、小林 純、鷺山美樹、柏木厚典 リラゲルチド45例と他のGLP-1 受容体作動薬を

含めた55例における長期治療成績の検討 第90回日本内分泌学会学術総会 2017年4月21日

2. 巖西真規、小林 純、鷺山美樹、柏木厚典 リ
ラグルチド治療3年後の糖尿病性腎症改善効果
の検討 第60回日本糖尿病学会年次学術総会
2017年5月19日
3. 東 長佳 バンコマイシンとダプトマイシン・
アルベカシンの併用療法により救命しえた
MRSAペースメーカー感染症の一例 第60回日
本感染症学会中日本地方会学術集会 2017年10
月26日～28日 長崎（長崎ブリックホール）
4. 東 長佳、戸川 剛、手塚祐司、山本友香子、
小林 純、鷺山美樹、巖西真規、柏木厚典 ス
リーブ手術が奏功した肥満2型糖尿病の1例
第54回日本糖尿病学会近畿地方会 2017年11月
11日
5. 巖西真規 成人期に脱力発作が顕在化し、救急
受診した遺伝性RTAの1例 第27回臨床内分
泌代謝Update 2017年11月24日、25日 兵庫
（神戸国際展示場）
6. 東 長佳 ジアゾキサイドが有用であった
Nesidioblastosisの1例 第27回臨床内分
泌代謝Update 2017年11月24日、25日 兵庫
（神戸国際展示場）

5. 論文・著書

1. Masanori Iwanishi, Jun Ito-Kobayashi,
Miki Washiyama, Toru Kusakabe, and Ken
Ebihara : Clinical Characteristics, Phenotype
of Lipodystrophy and a Genetic Analysis of
Six Diabetic Japanese Women with Familial
Partial Lipodystrophy in a Diabetic Outpatient
Clinic : Internal Medicine : 2018 accepted for
publication
2. Kashiwagi A, Maegawa H : Metabolic and
hemodynamic effects of sodium-dependent
glucose cotransporter 2 inhibitors on cardio-
renal protection in the treatment of patients
with type 2 diabetes mellitus : J Diabetes
Investig : 2017 Jul; 8 (4) : 416-427
3. Kusunoki-Tsuji C, Araki SI, Kume S, Chin-
Kanasaki M, Osawa N, Morino K, Sekine O,
Ugi S, Kashiwagi A, Maegawa H : Impact of
obesity on annual medical expenditures and
diabetes care in Japanese patients with type 2
diabetes mellitus : J Diabetes Investig : 2017
Oct 25. Doi: 10. 1111/jdi.12766
4. Sasaki H, Yanagi K, Ugi S, Kobayashi K,
Ohkubo K, Tajiri Y, Maegawa H, Kashiwagi
A, and Kaname T : Definitive diagnosis of
mandibular hypoplasia, deafness, progeroid
features and lipodystrophy (MDPL)
syndrome caused by a recurrent de novo
mutation in the POLD 1 gene. : Endocr J. :
2018 Feb 26; 65 (2) : 227-238

消化器内科

1. 概要

当診療科は、消化器系（食道、胃、小腸、大腸、肝、胆、膵）の疾患に対し良性悪性、急性慢性を問わず診療しています。

最近のトピック

早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)・・・

平成28年5月より当院でもESDの手技を導入し、早期胃がんに対して新たな内視鏡治療の選択肢が広がりました。内視鏡的に早期胃がんの診断を行った後に、flushナイフ、Dualナイフを用いて全周切開、粘膜下層剥離を行い病変を切除します。平成28年度は13例、平成29度は18例のESDを行い、合併症なく完遂しています。平成30年4月より、内視鏡治療専門医の伴医師が着任し消化管早期悪性腫瘍に対する治療をさらに積極的に進めています。

C型肝炎の経口剤による治療（インターフェロンフリー治療）・・・

平成26年9月に経口抗ウイルス剤であるダクラタスビル・アスプレナビルが発売されたのを皮切りに、C型肝炎は内服薬にて治療する時代となりました。C型肝炎ウイルスの複製に関係する機序に作用し、ウイルス増殖を阻害し、8週から16週の内服の継続にて90%以上のウイルス消失を得ています。さらにウイルスの型（ジェノタイプ）によらず有効な薬剤も発売されました。C型肝炎にて未治療の方は一度ご相談ください。

機能性ディスぺプシアと慢性胃炎のピロリ菌除菌・・・

皆さんの中には「慢性胃炎」「神経性胃炎」などの診断を受けた方はおられますか？「食後のもたれ感」「食事中すぐにおなかが一杯になって食べられない」「みぞおちが痛む」「みぞおちが焼ける感じがする」などの症状にて医療機関を受診し、消化器内視鏡検査を受けたが胃・十二指腸潰瘍や胃癌などの疾患が見つからない場合は機能性ディスぺプシアの可能性もあります。以前は慢性胃炎、神経性胃炎と

診断されていましたが実際には胃の粘膜組織に炎症所見が認められない場合があります。最近は症状があっても諸検査で異常が認められない場合、胃の炎症の有無にかかわらず「機能性ディスぺプシア」と診断するようになりました。胃の運動、特に食物の貯留や十二指腸への排出に問題があることがわかってきました。胃酸分泌抑制剤や消化管運動調節剤を服用し治療を行います。内視鏡検査で「慢性胃炎(萎縮性胃炎)」の診断であった場合は、ヘリコバクター・ピロリ菌が感染している可能性があります。胃粘膜を採取したり（迅速ウレアーゼ試験、顕微鏡検査）採血（ヘリコバクター・ピロリ菌抗体）したりして、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染の有無を検査します。内視鏡検査で慢性胃炎が確認されかつピロリ菌の感染が証明された場合平成25年2月よりヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法が保険適応となりました。

従来「慢性胃炎」とひとくくりにされていた病態ですが、実は2つの病態が混在していたとかがえられます。当院では内視鏡検査で慢性胃炎が確認されかつヘリコバクター・ピロリ菌の感染がある方に対し、ピロリ菌除菌療法を行っています。症状の改善に加えて、将来の胃癌の発症リスクを下げる効果があるといわれています。一度当科にご相談ください。

[治療]

- ・早期がん：内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）など
- ・進行がん：放射線治療、抗がん剤治療、血管塞栓術、内視鏡的治療(ステント、ドレナージ等)など
- ・良性疾患：内視鏡治療（胆石に対する内視鏡的結石除去術等）など
- ・発がん予防：ヘリコバクター・ピロリ除菌療法、インターフェロンフリー療法（C型肝炎ウイルス）、B型肝炎ウイルスに対する核酸アナログ製剤療法

2. スタッフ構成

役職	名 前	専門分野	資 格
統括部長 兼 内視鏡セン ター長	中 村 文 泰	消化器一般	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 ICD（infection Control Doctor） 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師 臨床研修プログラム責任者 緩和ケア研修修了
医長	小 林 遊	消化器一般 消化器がん	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 難病指定医 緩和ケア研修修了
医員	島 本 和 巳	内視鏡（上下部、ERCP） 消化器一般 消化器がん NST（栄養サポート）	日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 PEG・在宅医療学会専門胃瘻造設者・認定 胃瘻管理者 日本静脈経腸栄養学会TNT研修修了 緩和ケア研修修了 難病指定医 臨床研修指導医
医員	大 原 真理子	消化器一般	日本内科学会認定内科医 緩和ケア研修修了 嚥下機能評価及び摂食機能療法研修修了
医員	米 倉 伸 彦	消化器一般	日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医

3. 主要な診療実績

内視鏡検査実績

・上部消化管内視鏡検査	6,958件
・大腸内視鏡検査	1,532件
・ERCP	143件
・カプセル内視鏡	3件

4. 学術・研修活動

1. 大原真理子 PEGの手技(ポスターセッション)
第22回PEG・在宅医療学会/第16回PTEG研究
学会学術集会 2017年9月22日～24日 北海道
(札幌コンベンションセンター)
2. 島本和巳 PTEG用に導入したLOGIQ8新型穿

刺プローベ(C2-6b-D)の使用経験と、パンフ
レットによる近隣施設へのPTEG宣伝活動 第
22回PEG・在宅医療学会/第16回PTEG研究学
会学術集会 2017年9月23日、24日 北海道(札
幌コンベンションセンター)

呼吸器疾患センター・呼吸器内科

1. 概要

草津総合病院 呼吸器疾患センター・呼吸器内科では、滋賀医科大学呼吸器内科より呼吸器内科専門医による診療サポートをいただき、下記のごとく呼吸器疾患全般の診療に対応しています。

【悪性疾患】

原発性肺がんの放射線療法、最新の化学療法、悪性中皮腫の化学療法

【良性疾患】

- ・ COPD (安定期・急性増悪)、気管支喘息 (特に重症・難治性)、特発性肺線維症、特発性間質性肺炎
- ・ 薬剤性肺障害、サルコイドーシス、膠原病関連肺疾患、リンパ増殖性疾患、過敏性肺臓炎 (様々な抗原に対する)、EGPA (チャージストラウス症

候群)、MPO-ANCA関連肺疾患、肺胞蛋白症

【感染症】

- ・ 市中肺炎 (CAP)、医療介護関連肺炎 (NHCAP)、院内肺炎 (HAP)、マイコプラズマ肺炎
- ・ レジオネラ肺炎・慢性進行性肺アスペルギルス症、気道親和性肺アスペルギルス症 (Airway-invasive PA)
- ・ 肺クリプトコッカス症、肺結核 (非排菌症例)、結核性胸膜炎、非結核性抗酸菌症 (MAC症、M.カンザシなど、M.アブセッサスは難治性のため専門病院へ紹介)

【在宅医療】

- ・ 在宅酸素療法 (HOT)、在宅人工呼吸療法 (NPPV)

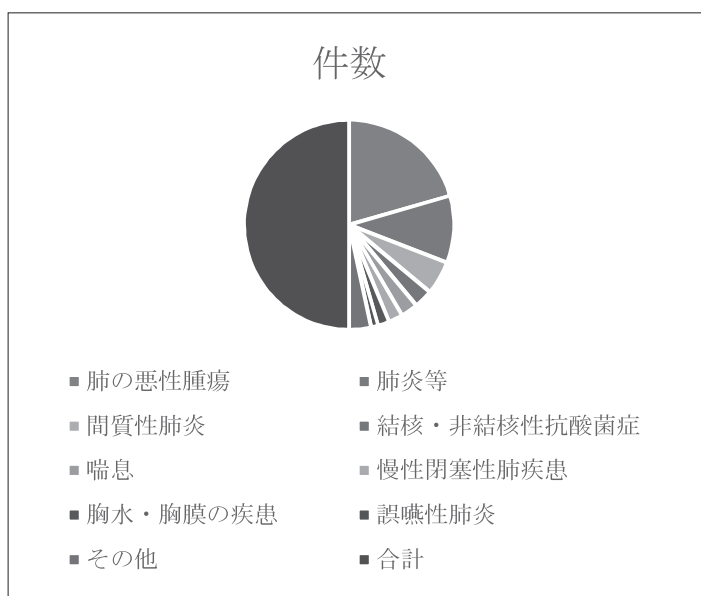
2. スタッフ構成

役職	名 前	学会役職	資 格
呼吸器疾患センター長	神 田 響	肺癌の集学的治療 呼吸器インターベンション (EBUS-TBNA、硬性鏡治療、シリコンテスト) 間質性肺疾患の診断と治療 呼吸器感染症の診断と治療	日本内科学会認定内科医・指導医 日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器内科専門医 日本医学放射線学会放射線診断専門医 日本医学放射線学会研修指導者 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医 ICD 制度協議会インфекションコントロールドクター (ICD) 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 肺がんCT 検診認定機構肺
呼吸器科部長	山 中 晃	呼吸器外科	日本呼吸器学会専門医・指導医 日本呼吸器外科学会専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 日本胸部外科学会指導医 日本外科学会外科専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医

3. 主要な診療実績

入院疾患別割合（H29.4～H30.3）

	件数	%
肺の悪性腫瘍	115	41
肺炎等	58	21
間質性肺炎	29	10
結核・非結核性抗酸菌症	16	6
喘息	15	5
慢性閉塞性肺疾患	12	4
胸水・胸膜の疾患	10	4
誤嚥性肺炎	6	2
その他	19	7
合計	280	100



呼吸器外科

1. 概要

当科では肺がんを中心に、呼吸器に発生した病気の診断・治療を専門に行っています。今後高齢化社会が進んでいくに従い、肺がんなどの呼吸器疾患がますます増加していくことが予想されるため、当科では体力の低下した患者さんに対する低侵襲治療を導入しております。また自然気胸や手掌多汗症など、若年者を主に対象とした疾患にも積極的に取り組んでおり、整容性を加味した手術方法など、患者さんに寄り添った治療法を追及していきます。

また滋賀医科大学附属病院の呼吸器外科と密に連携しています。定期的にカンファレンスを行い、患者さん一人ひとりの体力や病状に合った最善の治療法を追及した上で、実際の治療を開始しております。また草津総合病院での手術時の人的サポートや、難易度の高い手術では大学病院で受け入れを行ってもらうことで、受診したすべての患者さんに、適切で高い水準の治療を受けられる体制となっております。

2. スタッフ構成

役職	名 前	専門分野	学会役職	資 格
医長	川 口 庸	肺 癌、気胸、 膿胸、縦隔腫瘍、 手掌多汗症		日本外科学会専門医 呼吸器外科専門医合同委員会専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 日本がん治療認定医機構認定医 気胸のう胞性肺疾患学会評議員 身体障害者福祉法指定医師
非常勤 (滋賀医科大学呼吸器外科病院教授)	花 岡 淳	肺 癌、気胸、 膿胸、縦隔腫瘍、 呼吸器感染症	日本胸部外科学会評議員 日本呼吸器外科学会評議員 日本結核病学会代議員 日本肺癌学会評議員 関西胸部外科学会評議員 近畿外科学会評議員	日本外科学会専門医・指導医 日本呼吸器外科学会専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 日本胸部外科学会認定医・指導医 日本がん治療認定医機構認定医 肺がんCT健診認定医

3. 主な診療実績

病 名	手術件数
気胸	31
転移性肺腫瘍	14
手掌多汗症	20
肺癌（検査・治療合わせて）	8
その他全身麻酔手術	26
局所麻酔手術	22

4. 学術・研修活動

1. 川口 庸 扁平上皮癌は高齢者肺癌における術後予後不良因子である 第117回日本外科学会定期学術集会 4月27日・28日 横浜
2. 川口 庸 女性気胸における術後再発因子に関する検討 第34回日本呼吸器外科学会 定期学術集会 5月18日・19日 福岡
3. 川口 庸 異所性子宮内膜を認めた女性気胸の3例 第60回関西胸部外科学会 学術集会 6月22日・23日 大阪
4. 川口 庸 横隔膜病変を伴う女性気胸手術症例の検討 第21回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 9月9日・10日 久留米
5. 川口 庸 女性気胸手術症例における術後再発因子の検討 第70回日本胸部外科学会学術集会 9月26日・27日 札幌
6. 川口 庸 高齢者肺癌に対する術後合併症リスクスコアの構築 第70回日本胸部外科学会学術集会 9月26日・27日 札幌
7. 川口 庸 ジオトリフの髄液中濃度を測定した癌性髄膜炎の1例 第58回日本肺癌学会学術集会 10月14日・15日 横浜
8. 川口 庸 異なる手術手順で行った胸腔鏡下S3+舌区切除の2例 滋賀内視鏡外科学会 11月3日 草津
9. 川口 庸 免疫チェックポイント阻害薬による有害事象を発症した3例の検討 第28回滋賀癌化学療法研究会 2月24日 草津

5. 論文・著書

1. Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Yasuhiko Ohshio, Masayuki Hashimoto, Tomoyuki Igarashi, Yoko Kataoka, Ryosuke Kaku, Yuki Namura, Akira Akazawa : Decrease in performance status after lobectomy mean poor prognosis in elderly lung cancer patients : Journal of Thoracic Disease : 9 : 1525-30,

一般・消化器外科

1. 概要

草津総合病院の一般・消化器外科は、常勤11名、非常勤医数名で運営しています。

所属する医師の専門性を生かし、消化器外科、腹膜播種センター、肥満・代謝外科、内視鏡外科の領域に大別しています。

それぞれの専門性を発揮しながら、より高度な医療を求め、領域ごとで切磋琢磨し、時に協力し合い、外科全般の診療にも当たっています。今後、臨床面だけでなく、学会、研究会の発表、論文作成等の学術、教育の面でも充実を図りたいと考えています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	学会役職	資格
病院長	平 野 正 満	日本内視鏡外科学会評議員 近畿外科学会評議員	日本外科学会指導医 日本消化器病学会指導医・専門医 日本消化器外科学会指導医・専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
統括部長 兼 腹膜播種センター長	水 本 明 良		日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器癌外科学会治療認定医 身体障害者福祉法指定医師
部長	戸 川 剛	日本肥満症治療学会評議員 近畿外科学会評議員	日本外科学会外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会消化器病専門医・指導医
部長	山 本 寛	日本内視鏡外科学会評議員 日本肥満学会評議員 日本肥満症治療学会評議員 日本臨床外科学会評議員 日本消化器病学会近畿支部評議員 日本腹部救急医学会評議員 近畿外科学会評議員	日本食道学会食道科認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本腹部救急医学会腹部救急認定医 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会消化器外科指導医・専門医 日本消化器病学会専門医 日本肥満学会肥満症専門医 日本外科学会指導医 難病指定医
部長	森 河 内 豊		日本麻酔科学会専門医 日本救急医学会専門医

部長	高 尾 信 行		日本外科学会専門医 身体障害者福祉法指定医師 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医長	一 瀬 真 澄	近畿外科学会評議員	日本消化器外科学会認定医 日本外科学会認定医・専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本がん治療認定医機構認定医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医長	野 口 耕 右		消化器病学会専門医 日本外科学会認定専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 身体障害者福祉法指定医師
医員	小座本 雄 軌	日本肥満症治療学会評議員	
医員	基 俊 介		日本外科学会認定外科専門医 日本消化器外科学会消化器外科専門医 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医員	大 江 康 光		
非常勤	米 村 豊	日本臨床外科学会評議員 PSOGI (Peritoneal Surface Oncology Group International) 国際腹膜播種学会理事	(特非) 腹膜播種治療支援機構理事長 日本消化器病学会認定医 日本外科学会永久指導医・専門医 日本消化器外科学会指導医
非常勤	萩 原 明 於		日本外科学会指導医 日本消化器外科学会指導医 日本消化器病学会指導医

3. 主要な診療実績

一般・消化器外科の手術件数は確実に増加しています。

当院では、腹腔鏡下胆嚢摘出術や腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術などを採用しております。

従来の手術に比べて、制限された範囲での手術操作となるため高度な技術が必要となりますが、患者さんの負担が少ないため積極的に採用しております。

当科では患者さんに治療選択肢のひとつとして、患者さんにわかりやすく説明して、その利点や違いを理解していただき、よりよい医療を提供したいと考えております。

手術実績 (2017年)

- ・腹膜播種関連手術 (開腹・腹腔鏡) 259件
- ・胃癌手術 34件
- ・大腸癌手術 79件

- ・その他の癌手術 22件
- ・胆石手術 83件
- ・ヘルニア手術 86件

- *全身麻酔手術：760件
- *その他の麻酔手術：263件

4. 学術・研修活動

1. 山本 寛 本邦におけるバリアトリック・メタボリックサージェリーの現状と問題点 第90回日本内分泌学会 2017年4月20日 京都（国立京都国際会館）
2. 水本明良 腹膜偽粘液腫に対する腹膜切除術の術後成績と術前腫瘍マーカーの検討 第103回日本消化器病学会総会 2017年4月20日、21日 東京（京王プラザホテル）
3. 山本 寛 スリーブ状胃切除と術前フォーミュラ食による減量・糖尿病改善効果と腸内細菌叢の変化 第117回日本外科学会定期学術集会 2017年4月27日、28日 神奈川（パシフィコ横浜）
4. 水本明良 大腸癌腹膜播種に対する腹膜切除術の術後成績と術前腫瘍マーカーの検討 第117回日本外科学会定期学術集会 2017年4月27日～29日 神奈川（パシフィコ横浜）
5. 戸川 剛 開腹スリーブバイパス術後の難治性スリープリークのため残胃全摘術を施行した事例～一連の経過および初回手術後3年の栄養状態 第35回日本肥満症治療学会学術集会 2017年6月22日～24日 岩手（アイーナ）
6. 小座本雄軌 高度肥満症を合併した進行結腸癌に対し、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術を施行した後に結腸癌根治手術を行い成功した一例～追加報告 第35回日本肥満症治療学会学術集会 2017年6月22日～25日 岩手（アイーナ）
7. 米村 豊 大腸癌腹膜播種再発に対する腹膜切除・温熱化学療法の実績 第39回日本癌局所療法研究会 2017年6月23日 京都（国立京都国際会館）
8. 水本明良 腹膜偽粘液腫に対する腹膜切除術の手術成績 第72回日本消化器外科学会総会 2017年7月19日～21日 石川（石川県立音楽堂）
9. 一瀬真澄 大腸癌腹膜播種に対する完全切除群と減量手術群の比較検討 第72回日本消化器外科学会総会 2017年7月19日～22日 石川（石川県立音楽堂）
10. 水本明良 腹膜切除術と温熱化学療法後の術後成績 日本ハイパーサーミア学会 第34回大会 2017年9月16日 京都（京都テルサ）
11. 一瀬真澄 腹腔鏡下温熱化学療法の安全性と合併症（シンポジウム）、腹腔鏡下温熱化学療法の方法と合併症（ワークショップ）日本ハイパーサーミア学会 第34回大会 2017年9月16日 京都（京都テルサ）
12. 水本明良 大腸癌腹膜播種に対する包括的治療 JDDW2017（第25回日本消化器関連学会週間） 2017年10月13日～15日 福岡（国際センター・福岡サンパレス他）
13. 野口耕右 腹膜切除術を施行したGrowing teratoma syndromeの1例 第55回日本癌治療学会学術集会 2017年10月21日、22日 神奈川（パシフィコ横浜）
14. 水本明良 腹膜偽粘液腫に対する腹膜切除施行症例での病理組織型検討 第55回日本癌治療学会学術集会 2017年10月21日、22日 神奈川（パシフィコ横浜）
15. 山本 寛 スリーブ状胃切除術の糖尿病改善の予測について－2施設のデータの集計から－ 第30回日本内視鏡外科学会総会 2017年11月7日～9日 京都（国立京都国際会館）
16. 水本明良 大腸癌腹膜播種に対する腹膜切除術と温熱化学療法の実績 第79回日本臨床外科学会 2017年11月23日～25日 東京（東京国際フォーラム）
17. 一瀬真澄 腹膜偽粘液腫の術後の栄養管理－胃全摘結腸全摘症例にHPNは必要か－ 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会2018 2018年2月21日～23日 神奈川（パシフィコ横浜）
18. 山本 寛 第54回日本腹部救急医学会総会 2018年3月7日～9日 東京（京王プラザホテル）
19. 米村 豊 Recurrence after complete cytoreductive surgery in peritoneal metastases from gastric cancer 第90回日本胃癌学会総会 2018年3月

7日～9日 神奈川（パシフィコ横浜）

20. 戸川 剛 A case where radical surgery was performed laparoscopically for progressive colorectal cancer after reduction in body weight by sleeve gastrectomy APMBSS 2018 2018年3月29日～31日 東京（東京ガーデンテラス紀尾井）

21. 山本 寛 The cost of bariatric surgery in Japan APMBSS 2018 2018年3月29日～31日 東京（東京ガーデンテラス紀尾井）
22. 山本 寛 メタボリックサージェリーの適応術式別の安全性の観点から 第38回日本肥満学会 2018年10月8日 大阪（大阪国際会議場）

5. 論文・著書

1. Inoue A, Furukawa A, Ymamamoto H, Ohta S, Linh NDH, Syerikjan T, Kaida S, Yamaguchi T, Murata S, Obata T, Tani M, Murata K. : Acceleration of small bowel motility after oral administration of dai-kenchu-to (TJ-100) assessed by cine magnetic resonance imaging. PLoS One : 2018. 1
2. Murata S, Ymamamoto H, Shimizu T, Naitoh H, Yamaguchi T, Kaida S, Takebayashi K, Miyake T, Tani T, Tani M. : 5-fluorouracil combined with cisplatin and mitomycin C as an optimized regimen for hyperthermic intraperitoneal chemotherapy in gastric cancer. J Surg Oncol : 2018. 3
3. Murata S, Ymamamoto H, Naitoh H, Yamaguchi T, Kaida S, Shimizu T, Shiomi H, Naka S, Tani T, Tani M. : Feasibility and safety of hyperthermic intraperitoneal chemotherapy using 5-fluorouracil combined with cisplatin and mitomycin C in patients undergoing gastrectomy for advanced gastric cancer. J Surg Oncol : 2017. 12

頭頸部外科・甲状腺外科センター

1. 概要

- 頭頸部がんおよび甲状腺がんの治療を中心に診療を行っており、手術療法では、機能温存手術はもとより再建を前提とした根治手術までを幅広く行っている。また、手術や放射線治療後の再発症例に対しても積極的に救済手術を行っている。
- 高齢化の進行と共に増加している嚥下障害患者に対して、入院・外来とも嚥下障害のスクリーニングおよび多種職による介入による嚥下リハビリを行っている。またリハビリにて嚥下機能の改善の困難な方に対しては、嚥下改善・防止手術も積極的に行っている。
- 増加する閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する検査と治療（外科手術を含む）を行っている。

頭頸部がん治療は、内視鏡を含む診断技術の向上により、早期がんの発見が増えた。それに伴い経口腔手術など機能温存手術症例の増加、また機能温存面から放射線化学療法症例も増加している。その一方で、一次治療後の再発症例をどのように取り扱う

かが問題になっている。他施設での再発後の症例の紹介も多く、再発症例に対しても積極的に救済手術を行っている。

甲状腺がんは、特に臓器浸潤例や再発症例の紹介も多く、機能温存や再建を中心とした手術療法を行っている。またこのような症例については、甲状腺専門病院からの紹介も多い。

嚥下障害を認める入院患者に対する嚥下評価（スクリーニングを含む）を、火曜・木曜日に施行し、木曜日の午後にNST嚥下チームとして病棟回診を行っている。嚥下障害が疑われる外来患者に対しても、嚥下外来として、火曜と木曜日の午後に嚥下評価を行っている。一部経口摂取（経口摂取と経管栄養の併用）を含めると、介入した嚥下障害患者の6割以上で経口摂取が可能となった。また経口摂取ができなかった嚥下障害患者8名に対して、誤嚥防止手術を行い、経口摂取が可能となり在宅療養されている患者も多い。

2. スタッフ構成

役職	名 前	専門分野	資 格
理事長代行	北 野 博 也	頭頸部外科 甲状腺外科	日本頭頸部外科学会理事長 アジア太平洋甲状腺外科学会代表 日本頭頸部癌学会理事 日本気管食道科学会理事 日本喉頭科学会理事 他
センター長	森 谷 季 吉	頭頸部外科 甲状腺外科	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 日本耳鼻咽喉科学会専門研修指導医 日本気管食道科学会認定専門医 内分泌・甲状腺外科専門医 日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医

部長	河 本 勝 之	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 気管食道科学会認定専門医 日本がん治療認定医 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
医員	武 信 真佐夫	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
医員	吉 岡 佳 奈	耳鼻咽喉科 頭頸部外科	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
非常勤	永 原 國 彦	頭頸部外科 甲状腺外科	日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 日本気管食道科学会認定専門医 頭頸部がん専門医制度暫定指導医 内分泌・甲状腺外科専門医

3. 主な診療実績

手術件数	29年度
舌癌	8
口腔癌	5
咽頭癌	7
喉頭癌	6
下咽頭癌	5
鼻・副鼻腔癌	5
甲状腺癌	29
耳下腺癌	3
悪性リンパ腫	9
食道癌	1
その他の悪性腫瘍	9
甲状腺腫瘍	20
副鼻腔手術（ESS）	23
扁桃・アデノイド	28
嚥下・音声障害	13
バセドウ病	4
喉頭良性	9
外傷	9
その他	81
合計	274

4. 学術・研修活動

1. 森崎剛史 ラット声帯創傷治療での脂肪幹細胞の予防的効果 第29回喉頭科学会総会・学術講演会 2017年4月5日～7日 岩手（アイーナ（いわて県民情報交流センター））
2. 森崎剛史 Adipose-Derived Mesenchymal Stem Cells Prevented Rat Vocal Fold Scarring Combined Otolaryngology Spring Meetings 2017年4月24日～29日 US（サンディエゴ）
3. 森谷季吉 甲状腺分化癌食道浸潤への対処 第118回日本耳鼻咽喉科学会総会 2017年5月18日～20日 広島（広島国際会議場、ANAクラウンプラザホテル広島）
4. 森崎剛史 骨盤骨転移巣を有する甲状腺癌3症例でのレンバチニブの使用経験 第41回日本頭頸部癌学会 2017年6月8日、9日 京都（ウェスティン都ホテル）
5. 森谷季吉 患者背景に応じた甲状腺癌治療戦略～最善な結果をもたらすための個別化因子～第41回日本頭頸部癌学会 2017年6月8日、9日 京都（ウェスティン都ホテル）
6. 森谷季吉 3rd World Congress on Thyroid Cancer 2017年7月25日～8月1日 ボストン（The Westin Boston Waterfront）
7. 河本勝之 嚥下外来を受診した神経筋疾患患者における対組成評価の検討 第13回日本神経筋疾患摂食・嚥下・栄養研究会 2017年10月22日 東京（伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール）
8. 森谷季吉 局所進行再発癌の手術の決定と手術療法 第50回日本甲状腺外科学会 2017年10月25日～27日 福島県（コラッセふくしま）
9. 吉岡佳奈 Thyrolipomatosis: A case report The 2nd Congress of Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery 2017年11月1日～3日 沖縄（ロワジールホテルナハ）
10. 武信真佐夫 Experience with the usage of sorafenib in our department The 2nd Congress of Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery 2017年11月1日～3日 沖縄（ロワジールホテルナハ）
11. 森谷季吉 Window resection for intraluminal invasion by papillary thyroid carcinoma APTS2017 (Asia-Pacific Society of Thyroid Surgery) in OKINAWA 2017年11月1日～4日 沖縄（ロワジールホテル那覇）
12. 森谷季吉 進行甲状腺癌の手術－頸動脈・椎骨動脈浸潤の治療成績と問題点－ 日本臨床外科学会総会 2017年11月23日～25日 東京（東京国際フォーラム）
13. 吉岡佳奈 Thyrolipomatosisの1例 第28回日本頭頸部外科学会 2018年1月24日～26日 栃木（栃木県総合文化センター）
14. 武信真佐夫 顔面神経麻痺を伴った耳下腺壊死性唾液腺化生の一例 第28回日本頭頸部外科学会 2018年1月24日～26日 栃木（栃木県総合文化センター）
15. 河本勝之 嚥下障害の診断と治療－耳鼻咽喉科領域・嚥下手術－ 第28回日本気管食道科学会専門医大会 2018年3月3日、4日 大分（ホテル日航大分オアシスタワー）

泌尿器科

1. 概要

4月からは西田将成先生が滋賀医大より新しく赴任されました。これまでと同様に、常勤医2名にて診療を行っております。外来診療は、月水金曜日は2診、火木土曜日は1診で毎日行っております。木曜日と土曜日は、滋賀医大等からの非常勤医の応援を得て、診療を行っています。地域開業医の先生方よりの、外来紹介患者数は毎年増加傾向です。外来診療が予約通りにすまず待ち時間も長くなり患者さんにご迷惑をかけておりましたが、最近は僅かずつではありますが改善してきています。最近は紹介元や近隣の医療機関への紹介も、患者さんのご希望を伺いながら、積極的にすすめております。これまで同様に、「受診された日に可能な検査はできるだけ行い、何らかの結果や治療方針を患者さんに説明し、患者さんが少しでも満足してお帰りいただく」、その基本方針をスタッフ全員が理解しており、協力して毎日の業務を行っております。

入院患者数（延べ人数）は304人と、前年度よりわずかに増えております。それに伴い、手術件数も微増しました。また、尿路結石や重篤な尿路感染等による緊急入院が85人と多いことがやはり当科の特徴であり、毎年増加傾向にあり、緊急処置増加にて外来スタッフにご迷惑をかけ、また入院ベッド確保に各病棟の師長さんにもご迷惑をかけております。他病院と同様に、尿路生殖器系手術の多くは、内視鏡手術でした。また滋賀医大よりの応援も得て、腹腔鏡を用いての手術も少しずつ増加しています。開腹手術では可能な限り手術創を小さくするよう工夫しており、一方では、低コストの手術（患者さんのご負担を少なく、病院の負担も少なくなるよう）も意識しております。近隣の大きな医療機関と比較すると、数こそして質もまだまだありますが、より充実した医療が提供できるよう、日々心がけて診療に努めております。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	新 井 豊	日本泌尿器科学会指導医 日本透析医学会指導医 身体障害者福祉法指定医師
医員	西 田 将 成	

3. 主要な診療実績

根治的腎摘術	1 件	高位精巣摘出術	2 件
腎部分切除術	5 件	腎盂形成術	1 件
腎尿管全摘術	3 件	PNL・TUL	21件
膀胱癌手術		ESWL	68件
膀胱全摘＋回腸導管造設術	3 件	TUEB（TUR-P）	2 件
TUR	30件	経尿道的尿管ステント留置術	57件
尿路変向術（膀胱全摘術を伴わないもの）		経尿道的膀胱結石摘出術	4 件
尿管皮膚瘻造設術	1 件	包茎手術	6 件
回腸導管造設術	1 件	その他	21件
前立腺全摘術	1 件	（以上の数値は平成29年1月～12月集計であり、日	

本泌尿器科学会へ報告の登録データより)

前立腺生検

57例

(うち前立腺癌は26例)

4. 学術・研修活動

1. 腎盂にガス像をみとめた透析患者の2例～気腫性腎盂腎炎か～ 新井 豊、前田航規（草津総合病院泌尿器科）、西尾利樹（草津総合病院腎臓内科） 第62回日本透析医学会総会 2017年6月16日 横浜市

2. 男性の尿のトラブルあれこれ 新井 豊（草津総合病院泌尿器科） 市民公開講座 聴いてスッキリおしっこ悩み 2017年12月2日 草津市

皮膚科

1. 概要

皮膚科ではアトピー性皮膚炎から皮膚腫瘍まで全ての皮膚の病気を診察し治療しています。

乾癬、白斑、アトピー性皮膚炎や掌蹠膿疱症などに適応のある紫外線治療について、全身に照射できるナローバンドUVB照射装置を備えており随時治療を行っています。乾癬については日本皮膚科学会により生物学的製剤使用承認施設に認定されており、生物学的製剤による治療も行っています。また多汗症についてはガイドラインで推奨されている塩

化アルミニウム液による外用治療、イオントフォレーシス療法、A型ボツリヌス菌毒素製剤の局所注射治療を行っています。

アレルギー検査としては血液検査のほか、金属アレルギーの原因を調べる金属パッチテストなど随時行っています。皮膚腫瘍については診断精度を向上させるダーマスコピーによる診断、皮膚病理検査、手術治療も行っています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	古 田 未 征	日本皮膚科学会専門医 難病指定医
医員	戸 田 和 美	日本皮膚科学会専門医

眼科

1. 概要

外来診療は月曜日から土曜日までの午前中、金曜日までは毎日常勤医師2名体制で、土曜日は1診で診療を行っております。

手術は白内障手術を中心に週2回行っております。近隣の開業医の先生方に多くの患者様を紹介していただいております、年々手術件数も増加しております。2ヶ月に一度、滋賀医科大学眼科から大路教授に来ていただいて網膜硝子体専門外来を行ってお

り、手術加療が必要な場合には、当院にて大路教授の執刀により手術を行っております。

外来では、眼科疾患全般の診療をはじめ、糖尿病を始めとした全身疾患による眼合併症の精査なども行っております。特に糖尿病の患者様に対しては糖尿病眼手帳をお渡しして情報の共有に努め、定期的に当院で行われている糖尿病教室にて糖尿病網膜症についてのお話もさせていただきます。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	長 船 嘉 子	日本眼科学会認定眼科専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医長	水 野 明 里	日本眼科学会認定眼科専門医 高気圧酸素療法専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師

3. 主要な診療実績

水晶体再建術：417件（うち、紹介患者252件）

翼状片手術：6件

硝子体手術：20件

（うち、黄斑上膜9件、硝子体黄斑牽引症候群2件、糖尿病網膜症8件、網膜分離1件）

整形外科

1. 概要

平成27年度より日本整形外科学会の認定教育施設となっております。整形外科は常勤医4名で主に外来と手術を中心に診療を行っています。外来は月曜日～金曜日の午前中に診察を行っています。近隣の開業医の先生から多くの患者様を紹介いただき、年々外来患者数は増加傾向にあります。手術が必要な患者様や精密検査が必要な患者様を中心に外来診療を行っており、保存治療の適応の患者様はなるべくかかりつけの開業医の先生に逆紹介をさせて

いただいております。今後も開業医の先生とは連絡を密にして診療を行います。平成29年度の手術件数は655件であり、年々増加しています。主に四肢の骨折などの外傷や、変形性関節症や脊椎疾患などの慢性疾患の手術を行っています。近年は高齢者の骨粗鬆性骨折が増えており、手術後は回復期リハビリテーション病棟で十分なりハビリテーションを行っています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	西 脇 聖 一	日本整形外科学会専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
副部長	西 澤 和 也	日本整形外科学会専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医員	満 和 樹	日本整形外科学会専門医 難病指定医 身体障害者福祉法指定医師
医員	谷 川 仁 士	日本整形外科学会専門医

3. 主要な診療実績

手術件数 655件

・脊椎外科	115件	・手・足の外科	48件
・人工関節置換術	85件	・骨折・抜釘	327件
・人工骨頭置換術	35件	・腫瘍	4件
・関節鏡手術	28件	・その他	11件

4. 学術・研修活動

1. 谷川仁士 EFFECT OF DENOSUMAB ON BONE FORMATION MARKER P1NP The 5th Scientific Meeting of the AFOS 2017 2017年10月5日～9日 マレーシア

2. 谷川仁士 デノスマブ・テリパラチド併用療法における短期成績 第35回日本骨代謝学会学術集会 2017年7月27日～29日 福岡（ホテル日航福岡）

歯科口腔外科・歯科

1. 概要

平成29年度は、前年に続き、外来、入院、収益と順調な伸びがあった。特に院外、院内からの紹介患者数、入院患者数、手術件数、収益については、これまでの最高件数、最高額を記録した。本年度も紹介患者数は増加し、一般歯科疾患で来院する患者の割合は前年に続き減少傾向にあり、本年度は全体の約30%となっていた。このことは、地域住民はもとより地元草津・栗東歯科医師会をはじめとする県内の医療関係者から、二次医療機関としての当科（歯科口腔外科）の存在と信頼性が浸透してきているものと考えられる。また今年度も県外（特に大阪、京都、奈良、兵庫など）からの新来患者は、昨年度とほぼ同数の来院があり、そのほとんどは、当科が特化する顎変形症治療を必要とする患者であり、今後この領域での発展をはかり関西地区のトップリーダーになるべく業績を積み上げていきたい。比較的患者数の多い顎関節疾患に対して、この治療（特に顎関節内視鏡治療）の世界的権威である前京都大学口腔外科助教授 村上賢一郎氏に難治性の顎関節疾

患に対してのバックアップを図って頂いており、現在、口腔外科疾患患者の受け入れ体制は、関西地区はもとより、全国的に見ても先達の施設に見劣りしない充実した施設となっている。さらに加え歯周病に対しても、県下唯一の歯周病専門医による専門外来を開設しており、時代のニーズへの対応を行っている。このように当科においては口腔外科ならびに歯科診療において高水準の診療が展開されてきている。これらに加え平成28年度は、様々なステージでの口腔ケアを通して、かかりつけ医、紹介元の先生方や各診療科の先生方と、密な連携を保ちつつ、健康を維持増進するための歯科・口腔医療の充実、発展をはかり、地域住民、地域医療に貢献させていきたい。

[取り扱っている疾患]

口腔顎顔面の外傷、炎症、嚢胞。口腔粘膜疾患。顎関節疾患。顎変形症、歯列不正。埋伏歯（智歯）。インプラントなど

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	山 口 芳 功	日本口腔外科学会専門医・指導医
医長	西 村 一 行	日本口腔外科学会認定医
医長	岡 野 健	日本口腔外科学会認定医
医員	金 田 剛	日本口腔外科学会認定医
非常勤(歯周病)	柏 木 陽一郎	日本歯周病学会専門医
非常勤(歯周病)	合 田 征 司	日本歯周病学会専門医・指導医
非常勤(顎関節)	村 上 賢一郎	日本口腔外科学会専門医・指導医 日本顎関節学会専門医・指導医
	飯 間 理 沙	歯科衛生士
	金 子 輝 子	歯科衛生士
	前 畠 あゆみ	歯科衛生士
	西 島 秋 子	歯科衛生士

	辻 有 紗	歯科衛生士
	松 井 彩 花	歯科衛生士
副主任	井 上 純 子	歯科衛生士

3. 主要な診療実績について

外来新患者総数は3,359人で、院外からの紹介患者数は1,422人でした。

主な外来疾患別件数

外傷 65件 炎症 133件 腫瘍 53件
 嚢胞 62件 顎関節疾患 140件
 口腔粘膜疾患 67件
 歯科一般（周術期口腔機能管理） 1,887件
 インプラント 16件 顎変形症 89件
 歯列不正 33件 埋伏歯 690件

入院患者総数は352人で、中央手術件数は340人でした。

主な入院手術件数

埋伏歯 233件 顎変形症 52件
 顎骨嚢胞 28件 口腔腫瘍 22件
 顎骨骨折 5件

4. 学術・研修活動

1. 山口芳功 草津総合病院での口腔ケアの現状・課題について 第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会 2017年4月22日、23日 沖縄（沖縄コンベンションセンター）
2. 前嶋あゆみ 当院における周術期口腔機能管理患者の口腔内状況および介入効果について 第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会 2017年4月22日、23日 沖縄（沖縄コンベンションセンター）
3. 飯間理沙 当院における周術期口腔機能管理に関する患者満足度調査について 第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会 2017年4月22、23日 沖縄（沖縄コンベンションセンター）
4. 金子輝子 介護老人保健施設への口腔衛生管理の介入状況とその有用性について 第14回日本口腔ケア学会総会・学術大会 2017年4月22、23日 沖縄（沖縄コンベンションセンター）
5. 金田 剛 抗リウマチ薬内服にて重度の口内炎を認めた1例 第62回日本口腔外科学会総会・

- 学術大会 2017年10月20日～22日 京都（国立京都国際会館）
6. 山口芳功 この人を治さねば…William H.Bell先生との出会い 第71回日本口腔科学会 学術集会 2017年4月26日～28日 愛媛（ひめぎんホール）
7. 山口芳功 外科的矯正治療で困っていることについての検討 第76回日本矯正歯科学会学術大会 2017年10月17日～20日 北海道（さっぽろ芸文館）
8. 山口芳功 下顎枝垂直骨切り術を用いた下顎変形症治療 第62回日本口腔外科学会総会 学術大会 2017年10月21日、22日 京都（国立京都国際会館）
9. 岡野 健 著名な関節突起の過成長を伴った、顎関節に生じた2次性滑膜性骨軟骨腫症の1例 第62回日本口腔外科学会総会 学術大会 2017年10月21日、22日 京都（国立京都国際会館）

リハビリテーション科

1. 概要

当科は心大血管リハビリテーション料Ⅰ、脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ、運動器リハビリテーション料Ⅰ、呼吸器リハビリテーション料Ⅰ、がん患者リハビリテーション料を取得し、急性期から回復期、維持期のリハビリテーションで、さまざ

まな病期に対応できるリハビリテーションの体制をつくっています。また、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士と連携をとりながら、必要な時期に必要なリハビリテーションを提供できるようにしています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	専門分野	資 格
部長	岩 辻 賢一郎		日本内科学会認定内科医 日本神経学会専門医・認定医
部長 兼 神経内科	佐々木 禎 治	回復期リハビリ	日本内科学会認定内科医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医

麻酔科

1. 概要

手術室（7室）における麻酔業務と周術期管理、集中治療室（19床うち8床稼働）における集中治療、そして緩和ケアチームの運営を通して、急性期から慢性期における幅広い疾患の治療に関わっています。

ます。

医師の教育では、麻酔科学、集中治療医学、疼痛管理学、緩和医療学の指導を行います。

2. スタッフ構成

役職	名 前	学会役職	資 格
副院長	小 川 雅 巳		日本麻酔科学会専門医・指導医 麻酔科標榜医 同志社大学生命医科学部客員教授
統括部長	井 本 眞 帆	臨床麻酔学会評議員	日本麻酔科学会指導医・専門医 麻酔科標榜医 日本医学シミュレーション学会 CVCインストラクター
部長	山 崎 康 夫		日本麻酔科学会指導医・専門医 麻酔科標榜医
医員	早 川 由 夏		日本麻酔科学会専門医 麻酔科標榜医

3. 学術・研修活動

1. 山崎康夫 短時間手術後の適切な尿道カテーテルの挿入の検討 第14回麻酔科学セミナー 2017年6月30日～7月2日 沖縄（沖縄科学技術大学院大学）
2. 山崎康夫 短時間手術時の適正な尿道カテーテル挿入判断の検討 日本臨床麻酔科学 第37回大会 2017年11月3日～5日 東京（ザ・プリンス パークタワー東京）
3. 山崎康夫 手術安全チェックリストの運用につ

いて～当院の現状～ 日本手術看護学会 近畿地区学会 2017年6月24日 兵庫（神戸国際会議場）

4. 井本眞帆 ①病的肥満患者の腹腔鏡下肥満減量手術における体幹の神経ブロック②病的肥満患者の腹腔鏡下肥満減量手術の麻酔管理 日本臨床麻酔科学 第37回大会 2017年11月2日～5日 東京（ザ・プリンス パークタワー東京）

ICUセンター

1. 概要

厚生労働省の定める特定集中治療室管理施設基準に従った重症患者の全身管理に取り組んでおり、人工呼吸器・機械的補助循環や血液浄化法などの積極

的治療に介入する一方で、看護部教育にも力を入れて早期異常発見・医療事故防止を推進しております。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	林 叔 隆	日本外科学会 外科専門医・指導医 日本胸部外科学会 認定医・指導医 三学会構成認定機構 心臓血管外科専門医・修練指導医 日本循環器学会 循環器専門医、 日本脈管学会認定 脈管専門医 日本救急医学会認定救急科専門医 日本集中治療医学会認定集中治療専門医 Fellow of American Heart Association (Council on Cardiovascular Surgery and Anesthesia) Fellow of Australasian Society of Cardiac and Thoracic Surgeons JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) コース・プロバイダー 豪国医師資格 (Medical Practitioner Board of Victoria) 緩和ケア研修会修了

3. 学術・研修活動

1. 林 叔隆 長期遷延する呼吸困難感を訴えて緊急入院直後に心肺停止を来した慢性血栓閉塞性肺高血圧症の1例 第45回日本集中治療医学学

会学術集会 2018年2月20日～23日 千葉(幕張メッセ/ホテルニューオータニ幕張)

放射線科

1. 概要

院内のCT、MR、PET/CT、RI等をはじめとする画像診断部門の運営および画像診断を担い、医療水準の高度化に貢献するとともに、地域他医療機関との高額医療機器の共同利用ならびに画像診断を担うことで、地域医療にも貢献しています。

また、胸部および腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術をはじめとした血管系病変や、肝細胞癌をはじめとした各種癌に対する血管系および非血管系の

低侵襲治療（IVR）ならびに放射線治療による治療を行っています。

放射線科専属看護師（小林師長：がん放射線療法看護認定看護師）も増員および専門知識を持った認定看護師をも充実し、より高度で安心な放射線科診療を行い、地域医療に貢献していきたいと考えています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
センター長	前 田 清 澄	日本医学放射線学会診断専門医 日本IVR学会専門医 腹部大動脈瘤ステントグラフト指導医 胸部大動脈瘤ステントグラフト指導医 日本核医学会専門医・PET核医学認定医 滋賀医科大学医学部非常勤講師 同志社大学生命医科学部客員教授
部長	仲 口 孝 浩	日本医学放射線学会治療専門医
医長	外 山 哲 也	医学博士 日本医学放射線学会診断専門医 日本IVR学会専門医
医長	北 原 左和子	医学博士 日本医学放射線学会診断専門医 日本核医学会専門医・PET核医学認定医 マンモグラフィ検診精度管理中央委員会検診マンモグラフィ読影認定医

3. 主要な診療実績

検査・治療	2017年度（平成29）
CT検査	22,068（719）件
MR検査	7,662（805）件
PET/CT検査	1,284（494）件
RI検査	901（339）件
血管造影	157（144）件
非血管系IVR（RFA、CT下生検など）	14件
マンモグラフィ	3,508（うち健診 2,933）件
放射線治療	137（30（22%））件

※（）内は他医療機関からのご紹介件数、血管造影についてはIVR件数

心臓血管外科

1. 概要

平成29年11月より、全国トップレベルの心臓血管外科チームである滋賀医科大学心臓血管外科教室の全面協力のもと、皆様から信頼していただける重厚な心臓血管外科診療を展開することができるようになりました。地域に密着した、敷居の低い、開かれた診療を目指しています。

現在、循環器内科とともに「心臓血管・心不全センター」として、虚血性心疾患、心臓弁膜症、大血管疾患（胸部・腹部）、末梢血管疾患、静脈疾患などすべての領域において診療を行っております。

近年ますます重症化、高齢化する循環器疾患に対して、低侵襲な手術を提供します。特に、冠動脈疾患に対しての長期予後に優れた2本の内胸動脈を用いた心拍動下冠動脈バイパス術は、我々のチームが得意とする手術であり、透析、重症多肢病変、低心機能症例、大動脈バルーンパンピング導入症例なども含め、人工心肺を使わない、体に優しい質の高い心拍動下冠動脈バイパス術を提供できます。この手術は従来の人工心肺を用いる手術に比べ、出血が少なく、心筋の障害が少なく、脳梗塞の発生や腎臓機能の悪化が低く抑えられます。術後入院期間が短縮することも証明されています。

近年、症例数が増加している心臓弁膜症では、弁自体の病態、心機能、個々の患者さんの手術後の生活に応じた手術を行います。僧帽弁手術の場合、人工弁移植と弁形成術があります。僧帽弁閉鎖不全症に対しては自己弁を温存する弁形成術を第一選択とします。人工弁移植に比べ、術後合併症が低く、長期生命予後も優れることが証明されています。

一般にはリスクが非常に高いといわれる胸部大動脈手術でも、手術手技の工夫・向上により、通常的心臓手術と同様の早期回復を実現できるようになり

ました。

心臓手術後はしばらくベッド上での絶対安静が続く、多くのチューブがつながり、身動きがとれないのではないかと想像していると思います。しかし実際は、待機的手術の場合ならほとんどの患者さんで術翌日には歩行可能となり、朝食から通常どおり食することができます。こうした術後経過は、80歳をこえる超高齢者の手術においても例外ではありません。患者さんが想像しているより、術後の回復は早いと思って下さい。大きな合併症が起これなければ、術後2週間程度で自宅退院できます。

近年、大動脈瘤の新しい治療法として注目を浴びているのが、「ステントグラフト内挿術」です。この手術は足の付け根を数センチ切開し、太い動脈を露出させるだけで施行可能であり、その血管から細い管を大動脈瘤の中まで挿入し、ステントグラフトを瘤の内側で拡張させることで、大動脈瘤を内側から塞いでしまいます。従来の手術と比べて胸や腹を切らずに治療ができるため、身体への負担が格段に少なくて済むという大きな利点があります。当院でも放射線科と協力しステントグラフト治療の認定施設として、胸部下行および腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を提供しております。

下肢静脈瘤の標準的治療はストリッピング術であったが、血腫、感染、神経障害などの合併症を高率に伴い、3～7日間の入院を要していたのに対して、血管内治療（下肢静脈瘤血管内焼灼術）は低侵襲で術後の回復が早い手術方法です。局所麻酔で行っておりますので、手術直後から歩行でき、当日から日常生活に復帰できます。翌日からは仕事に復帰することも可能です。外来手術や一泊入院でも治療可能です。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	白 石 昭一郎	日本外科学会 専門医・認定医 日本胸部外科学会 認定医 三学会構成認定機構・心臓血管外科 専門医 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 心臓血管外科 修練指導医
医員	森 本 政 憲	日本外科学会 専門医・認定医 三学会構成認定機構・心臓血管外科 修練医 下肢静脈瘤血管内焼灼術 実施医

3. 主要な診療実績 (H29.11～)

心臓大血管手術	19例	胸部大動脈ステントグラフト治療	2例
心拍動下冠動脈バイパス術	10例	腹部大動脈瘤	2例
大動脈弁置換術	5例	下肢静脈瘤血管内焼灼術	13例
僧帽弁形成術	2例		

乳腺外科

1. 概要

乳癌の診断と治療、並びに乳腺の良性疾患も扱っています。

乳癌の診断では、癌のスクリーニングとしてマンモグラフィと乳房超音波検査を行います。精密検査としては画像検査ではMRI検査を行い、組織検査では太針生検や吸引式組織生検を行います。病理検査結果癌が確定した場合は、①組織の免疫染色を追加して乳がんのサブタイプを決め、さらに②CT検査で転移の有無を確認して進行度を明らかにします。そしてこの2つの情報より、手術と放射線治療、薬物治療からその方に応じた治療を患者さんとともに考え、最も適切な治療を選択していただきます。

当科における基本的な治療方針としましては

1. 根治的化学療法が必要とされることが術前から明らかであれば、術前化学療法を行います。手術前であれば治療効果の確認が可能であり、この情報より治療の継続や変更、追加などを決めます。術後に根治的化学療法が必要だと判明した場合は、最も適切な薬剤を選択しています。

2. 手術は、乳房MRI検査で病変の範囲を詳細に検討したうえで、根治性と乳房の整容性の両立のため

に過不足の無い切除となるよう努力しています。①腋窩と乳輪の小切開より乳腺の切除 ②乳頭、乳輪、皮膚を可能な限り温存 ③センチネルリンパ節生検と可能であれば腋窩放射線照射を用いて低侵襲な腋窩の診断と治療 ④術前化学療法の場合はあくまでも病理診断の協力のもとに切除範囲の縮小化を図る などです。その他にもオンコプラスティックサージェリーの種々の手技も取り入れ、工夫しています。

3. 術後は病理結果に基づき、温存例や進行症例には原則放射線治療を行い、必要な場合は適切な薬物治療を併施し、癌の再発を予防します。内服薬の投与期間も再発リスクに応じて決めます。

4. 遠隔転移を有する症例や再発症例では、延命を目標に定め、積極的で柔軟な全身および局所治療を行います。必要であれば早期から緩和治療も組み込んでいます。

今後、癌の予後を予測する遺伝子検査や遺伝性乳がんの検査にも柔軟にしっかり対応していきたいと思っています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	木 下 一 夫	日本乳癌学会乳腺認定医 日本外科学会専門医 日本がん治療認定医機構認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 乳房超音波認定医 日本消化器外科学会認定医
非常勤医師	大 内 佳 美	日本乳癌学会乳腺専門医 日本外科学会専門医 乳房超音波認定医 検診マンモグラフィ読影認定医

3. 主要な診療実績

平成29年度 1 年間の実績

手術	乳房切除例	29例
	DCIS症例	2例 (7%)
	部分切除術 (Bp)	27例
	全摘術 (Bt)	2例 *SSM 0例、NSM 1例含む
	・センチネルリンパ節生検	20例
	・リンパ節郭清	2例
	・自家組織を用いた1次的乳房再建	2例
	乳腺腫瘍摘出例	5例
	CV port留置症例	14例
治療 (手術以外)	術前化学療法症例	13例
	手術済み	10例
	手術予定	3例
	術後化学療法症例	2例

4. 学術・研修活動

1. 大内佳美、木下一夫 パーージェタによる繰り返すインフュージョンリアクションに難渋したが完全奏功の得られた再発乳癌症例の検討 第25回日本乳癌学会総会 日本乳癌学会総会プログラム抄録集：25回：541, 2017年7月
2. 木下一夫 Dose Dense-EC followed Nab-Pac/Bev を行ない pCR となった stage 4 乳癌の1例 第25回日本乳癌学会総会 日本乳癌学会総会プログラム抄録集：25回：544, 2017年7月
3. 木下一夫 術前化学療法によって乳房温存療法が可能となった9例の至適乳腺切除範囲 第55回日本癌治療学会学術集会 日本癌治療学会学術集会抄録集：55回：56-1, 2017年10月
4. 木下一夫 自動乳房超音波検査 腹臥位自動乳房超音波スキャナSOFIAの導入 第40回乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 乳腺甲状腺超音波医学 (2187-2880)：7巻2号：48, 2018年3月

救急科

1. 概要

湖南・草津地区の中核病院として、緊急度・重症度の高い傷病者の受け入れと診療を行っています。平成27年度からはドクターカー運用を開始しました。平成29年度は救急車搬送者数、ドクターカー出

動件数とも前年と比較し増加。ウォークインでの救急外来受診者数も増加しています。さらに地域の救急医療体制の強化に取り組んでいます。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
センター長	鶴 田 宏 史	日本救急医学会専門医 日本集中治療専門医 日本DMAT隊 JATECインストラクター JPTECインストラクター ICLSコースディレクター

3. 主要な診療実績

救急外来受診者数 12,046名（昨年11,568件）

うち入院者数 2,428名（20.2%）

救急車搬送者数 3,375名（昨年3,104件）

うち入院者数 1,267名（37.5%）

ドクターカー出動要請件数 363件（昨年339件）

当院搬入者数 157名

うち入院者数 80名（65.7%）

他院搬送者数 82件（34.3%）

キャンセル率 124件（34.2%）

4. 学術・研修活動

1. 平成29年度日本DMAT近畿ブロック総合災害訓練 参加者 2017年2月17日、18日 主管：大阪府

2. JATEC岐阜コース インストラクター 2017年5月20日、21日 岐阜大学医学部

3. JPTEC滋賀コース インストラクター 2017年6月10日 近江八幡市立総合医療センター

4. おうみライフサポートICLSコース インスト

ラクター 2017年7月2日 大津市民病院

5. JPTEC滋賀コース インストラクター 2017年7月15日 滋賀医科大学

6. 滋賀県広域災害総合訓練 参加者 2017年9月10日

7. JATEC滋賀コース インストラクター 2017年12月2日、3日 済生会滋賀病院

脳神経外科

1. 概要

- 救急疾患が多い当院では、例年通り脳血管障害の症例が多く、外傷、脳腫瘍がそれにひきつづいて入院診療の主体を成している。
- 平成29年度は、脳卒中ケアユニットの体制が軌道に乗り、入院患者数は増加した。地域包括ケア病床を有効利用し、急性期治療後も継ぎ目のない継続治療を行い患者満足度の向上に努めている。
- 各医師の専門性を重視した診療体制の実績は安定している。この体制は当科の診療における質的向上に十分に寄与していると思われ、今後もその発展に努めていく。
- 脳血管障害では、脳血管内治療の手術件数が飛躍的に増加した。常勤の脳血管内治療専門医が常勤により、緊急症例に加えて、予定手術の血管内治療件数も著しく増加した。
- 脳腫瘍治療では、エビデンスを念頭に置きながら、患者様の病態・病状に合わせた最善の治療を心がけている。特に悪性脳腫瘍の治療については、手術症例だけでなく化学療法目的の患者も多数を占め、最適ながん化学療法にて、患者のQOL向上に努めている。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
統括副院長・脳神経センター長	中 洲 敏	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本がん治療認定医機構暫定教育医・同認定医
副院長・脳神経センター副センター長	松 村 憲 一	日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 日本脳卒中の外科学会技術指導医 日本神経内視鏡学会技術認定医 日本高気圧環境潜水学会専門医
脳神経外科部長	新 阜 宏 文	日本脳神経外科学会専門医 日本神経内視鏡学会技術認定医
脳卒中外科部長	大 脇 久 敬	日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
医員	大 西 健	

3. 主な診療実績

1) 入院患者数

総数	529名	疾患別内訳	
緊急入院	345名 (65%)	脳血管障害	291
新入院	393名 (74%)	脳動脈瘤 (破裂/未破裂)	62 (19/43)
再入院	136名 (26%)	脳血管奇形	16
紹介患者	112名 (21%)	脳内出血	50
救急車搬送	176名 (33%)	脳梗塞/TIA	143

主幹動脈狭窄	15	開頭手術	21
その他	5	脳血管障害	5
外傷	61	脳動脈瘤	3
頭蓋骨骨折	1	脳内出血	2
硬膜外・硬膜下血腫	33	脳腫瘍	11
脳挫傷・脳内出血・クモ膜下出血	16	外傷	3
その他	11	その他	2
脳腫瘍・頭蓋骨腫瘍	55		
脊椎・脊髄	25	脳血管内治療	59
変形性脊椎症・椎間板ヘルニア	3	塞栓術	45
脊椎管狭窄症	4	脳動脈瘤	39
脊椎 外傷	17	脳動静脈奇形・動静脈瘻	6
腫瘍・その他	1	血行再建術	14
水頭症	10	頸動脈ステント留置術	9
その他	87	脳血栓吸引術	5
2) 退院患者数	533名		
3) 手術件数		その他（経鼻内視鏡手術など）	30
総数	153		
全身麻酔手術	35	脊椎・脊髄手術	3
局所麻酔手術	118	腫瘍	1
		椎間板ヘルニア	1
穿頭手術	40	その他	1
慢性硬膜下血腫	28	5) 脳血管撮影	62件
髄液シャント術	8	6) tPA 静脈注射	14例
脳室ドレナージ・リザーバー留置	1	7) 死亡患者 35例 うち病理解剖	0
その他	3		

4. 学術・研修活動

- 大西 健、大脇久敬、新阜宏文、松村憲一、中洲 敏 亜急性期に治療を行い神経学的に良好な経過が得られた内頸動脈完全閉塞症の症例 第73回日本脳神経外科近畿支部学術集会 2017年4月8日 大阪（千里ライフサイエンスセンター）
- 大西 健 脳幹部の再梗塞の一例～急性期血管内治療を行うべきであったかの検討～ 第15回BAY-LAKE IVR Work Shop 2017年4月15日 滋賀（長浜ロイヤルホテル）
- 松村憲一 脳卒中について 東洋医療研修試験財団認定生涯研修会 2017年5月21日 滋賀・近江八幡
- 松村憲一 神経内視鏡講習会講師 近畿神経内視鏡講習会 2017年6月24日 京都
- 松村憲一 血栓回収療法時代における急性期病連携の実態と今後の展開について 脳卒中連携セミナー 2017年6月28日 滋賀・草津
- 田邊伸明、東山征貴、平尾貴洋、日岡昭博、吉田 新、松井欣也、保井義也、山本哲也、寺村聡、広畑直実、平井詠子、水野明里、松村憲一 難治性皮膚潰瘍の治療経験 第2回日本高気圧環境・潜水医学会 近畿地方会学術集会 2017年7月22日 宇治（宇治徳洲会病院）
- 松村憲一、田邊伸明、吉田 新、寺村 聡、東山征貴、広畑直実 高気圧酸素治療により精神症状が改善した自殺企による急性一酸化炭素中毒の一例 第2回日本高気圧環境・潜水医学会

- 近畿地方会学術集会 2017年7月22日 宇治
(宇治徳洲会病院)
8. 大西 健、中洲 敏、松村憲一、新阜宏文、大
脇久敬 青色母斑を伴った硬膜原発のメラノサ
イトーマの一例 第74回日本脳神経外科近畿支
部学術集会 2017年9月2日 大阪(千里ライ
フサイエンスセンター)
9. 中洲 敏、大西 健、大脇久敬、新阜宏文、松
村憲一 髄膜腫の石灰化と増大速度との関連
日本脳神経外科学会第76回学術集会 2017年10
月12日～14日 名古屋
10. 大脇久敬、大西 健、新阜宏文、松村憲一、中
洲 敏 超急性期頭蓋内血栓回収療法における
病態の分類と手技上の工夫 日本脳神経外科学
会第76回学術集会 2017年10月12日～14日 名
古屋
11. 大西 健、大脇久敬、新阜宏文、松村憲一、中
洲 敏 動脈瘤を伴った椎骨動静脈瘻の一例
第33回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学
術総会 2017年11月23日、24日 東京(グラン
ドプリンスホテル新高輪)
12. 大脇久敬、大西 健、新阜宏文、松村憲一、中
洲 敏 瘤頸～体部より分枝を分岐する脳動脈
瘤に対する頸部形成用ステント支援を駆使して
の囊内コイル塞栓術の工夫 第33回NPO法人
日本脳神経血管内治療学会学術総会 2017年11
月23日～25日 東京
13. 松村憲一 頭部外傷について 第58回草津栗東
いきいきダイジェスト 2017年12月4日 FM
草津
14. 松村憲一 意識障害の鑑別 低血糖発作・脳卒
中の見分け方 湖南広域消防局救急業務研修
2018年2月7日 草津(湖南広域消防局)
15. 大西 健 抗凝固薬内服中に受傷し後頭蓋窩お
よびテント上慢性硬膜下血腫をきたした一例
第41回日本脳神経外傷学会 2018年2月23日、
24日 東京(東京ドームホテル)
16. 中洲 敏 髄膜腫の石灰化と増大速度：性・年
齢との関連を含めた検討 第41回日本脳神経
CI学会総会 2018年3月2日、3日 新潟(朱
鷺メッセ・新潟コンベンションセンター)
17. 大西 健 超急性期に自然再開通した脳梗塞の
抗血栓療法についての検討 第43回日本脳卒中
学会学術集会 2018年3月15日、16日 福岡(福
岡国際センター)
18. 辻 篤司、松村憲一、野崎和彦 未破裂脳動脈
瘤の増大についての検討 第43回日本脳卒中学
会学術集会(STROKE2018) 2018年3月15日
～18日 福岡(福岡国際センター)

緩和ケア内科

1. 概要

平成29年4月から当院に「緩和ケア内科」が開設されました。当院には緩和ケア病棟はありませんが、がんなどの重い病で療養中の患者さんに対して緩和ケアを提供しています。日本緩和医療学会の定義によれば、「緩和ケアとは重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」のことです。緩和ケアは決して「人生の最終段階（終末期）のケア」のみを取り上げるものではありません。病気の早期から患者さんやその家族のつらさに向きあいます。

緩和ケア内科は、緩和ケア外来と緩和ケアチーム

で診療を行っています。緩和ケア外来は月・火・木の午前、当院に通院中の患者さん、診療所からの紹介患者さんを対象としています。重い病気による辛い症状の緩和を行っています。病気に伴う精神的な辛さ、不眠などに対しては緩和ケアこころ外来を第1・3・5木曜日の午後に開設し、精神腫瘍学の専門医師が診療をしています。緩和ケアチームは入院中の患者さんを対象に緩和ケアを提供いたします。がんなどで療養中の患者さんの苦痛を緩和し、安心して療養できるように「からだ・こころ・くらし」の面での支援活動を行っています。

2. スタッフ構成

役職	名 前	資 格
部長	堀 泰 祐	日本緩和医療学会認定医・指導医 医師臨床研修指導医 日本がん治療認定機構暫定指導医

3. 主要な診療実績

外来数：初診 10 延べ 280

緩和ケアチームの介入件数：新規依頼患者数 338
延べ数 8579

2017年度相談依頼内容：身体症状の苦痛緩和（疼痛・倦怠感・嘔気など）、精神症状の苦痛緩和（不安・不眠・抑うつなど）、心理・社会的苦痛緩和（転院調整など）

健康管理センター

1. 概要

健康管理センターでは日帰りドック、一泊ドック、脳ドック・定期健康診断・生活習慣病健診、特定健診行政の各がん検診等を実施しており、H30年度の健康管理センターの総受診者数は17,113名で前年度より883名増加しました。売り上げの合計は341,603,238円で前年度より10,677,165円の増でした。また、近年高まりつつある健康増進・健康維持に対応するために受診者の方々に健康診断と保健指導を積極的に展開し健康管理に役立てていただけるよう質の高い健診を提供していきたいと思ひます。

【業務目標】

・受診者様の健康保持ならびに健康増進を目的とし

た健康診断を行なひます。

- ・親切かつ丁寧に、受診者様の要望にあわせた健診や保健指導に努めます
- ・本院・行政、他の関係機関と連携を図り、疾病の早期発見・早期治療に努めます。
- ・健診機関のエキスパートとして知識や技術の研鑽に努めます。
- ・県民ならびに地域住民の皆様の生活習慣病、がん死亡率の低下につとめます。
- ・健康診断事業の推進を図ることと収益部門として積極的な事業展開に努めます。

2. スタッフ構成

役職	名 前	学会役職	資格
顧問 センター長	鈴 木 瞭	日本産科婦人科学会功労会員 近畿産科婦人科学会名誉会員 滋賀県産婦人科医会功労会員	日本産婦人科学会指導医・専門医
顧問 副センター長	藤 堂 義 郎		日本医学放射線学会診断専門医
医員	河 原 絵 里		日本内科学会内科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本乳がん検診精度管理中央機構 認定読影医
医員	柳 直 子		日本内科学会認定医 日本人間ドック学会専門医・指導医 日本消化器がん検診認定医
非常勤医師	永 澤 安 子 安 藤 美 雪		
非常勤医師	柿 木 里 枝		日本救急医学会専門医 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医

3. 要精検者に対する紹介状況

検査項目	当日受診	地連	外来予約	持ち帰り	郵送	合計
肺がん検診	2	12	0	5	43	62
胃がん検診	0	7	0	1	131	139
大腸がん検診	2	91	0	14	170	277
子宮がん検診	15	0	50	18	17	100
乳がん検診	5	77	0	28	86	196
心電図検査	1	30	0	7	64	102
腹部エコー検査	0	110	0	4	66	180
眼底検査	0	2	0	0	40	42
ピロリ除菌（抗体）	0	3	0	1	149	153
P E T検査異常	0	0	0	2	23	25
脳ドック	0	2	2	0	13	17
心検診	0	4	0	2	7	13
尿検査	0	40	0	2	57	99
高血圧	0	13	0	8	43	64
高血糖	2	28	0	13	61	104
脂質代謝異常	0	19	0	6	113	138
その他	10	202	5	31	422	670
計	37	640	57	142	1,505	2,381

当日受診とは検診当日に当院外来を受診したものの、地連とは地域医療連絡室を通じて当院外来の受診予約を行ったもの、外来予約とは診察室で直接受診予約を取得したものです。

当日受診、地連、外来予約は確実に当院の受診につながっている。一歩、持ち帰りの群はほとんどが

他院の受診を希望して紹介状を持ち帰ったものである、郵送は検査結果が後日に判明し、要精検とのコメントをつけて紹介状を郵送したもので当院を受診したものも含まれているが詳細は把握できていない。

4. 学術・研修活動

1. 子宮頸がん検診受診者及び未受診者の特徴について（第2報）－子宮頸がん検診関心度（変容ステージ）からみた特徴について～第58回日本

人間ドッグ学会学術大会 西川博美 2017年8月24日～25日

Ⅲ-2. 看 護 局

看護局

看護部長 林周子 他スタッフ 624（内看護師等508）名

1. 概要

法人として病院として「開拓、深化、成熟への挑戦と明るい未来」が打ち出された。その中で、看護局の取り組むべきものとして、“ホスピタリティーマインドに則ったサービスの提供”“安心で安全な看護の提供”“医療チームの一員としてケアプロセスへの取り組みができる”等を中心に目標設定を行い取り組み顧客満足が得られるように取り組んだ。また、もう一点の重点課題である、強固で強靱な経営基盤の構築についての取り組みへの対策として“適切で的確な病床管理を行うことができる”“退院調整を行い、地域包括ケアシステムの推進への取り組みができる”“一人一人の経営感覚を持てるような取り組みができる”等について取り組んだ結果、

適切な入退院支援の仕組みを作ることができ経営の安全化に大きく貢献した。そして、平成29年度において最も大切なものとしてとらえた事項に、人材を“人財”をとらえ、一人一人が看護の専門職業人として、草津総合病院で勤務する組織人としての品格を備えることができるように育成するように努めた。そして、世の中の動きを鑑み、10年後を見据えた医療人・看護の専門職業人としての在り方を見いだせるような次世代の育成に取り組んだ。その第一歩として、個々のキャリアを明確にして支援する仕組みづくりに取り組み、個々がキャリアデザインを描けるような支援も行った。

2. 活動実績

平成29年度目標の結果は以下に記載する。

1) 患者中心の安全安楽な看護ケアの提供の取り組みが3つ以上できる

(1) 各部署において、目指す看護“心”“知識”“技術”を理解し各項目に沿った事項が掲げられるについては、各部署が、大切にしたいものを“心”“知識”“技術”の枠にはめ込み目標として設定し、各個人の目標まで落とし込み、目標評価時には、指標として、活用され目指す看護の指針として活用した。掲げることにより目標に立ち返ることができ、個々の看護師の考える看護ケアの提供・部署におけるホスピタリティーマインドに則ったサービスの提供となり、質向上への一助となっている。

(2) 3項目以上の業務改善ができ、安全で安楽な療養環境の提供ができるについては、各部署は、大小の変更差は見られるが、2月の目標評価面談においては全部署が3項目以上は業務改善に取り組んだ内容の提示することができている。2月には、各部署からの業務改善発表会を開催し、全部署の改善内容および、プロセスを共有することができた。9月には、顧客満足度を高めるために、マーケティング

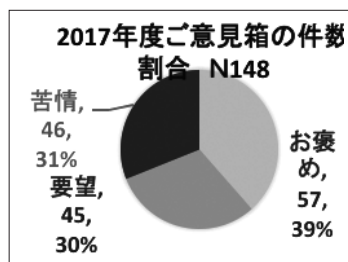
のフレームワーク研修し「草津総合病院の顧客志向型経営戦略立案」を行い、各位部署において入院退院時対応について立案し実施され活用に至っている。

その他に、医療機器の点検マニュアル作成、申し送り時間の削減への取り組み、事前情報収集時間の短縮への取り組み、PNS推進によるリアルタイムの記録や指示受けへの意識改革、環境整備の一部のおむつのベッドサイドの保管容器の統一と整備等を行った。また、SPDシールの紛失に伴う管理やコスト意識への変化と強化への取り組みとして、シール管理の見直し定数配置の見直し台紙の管理法の見直しを行った。

医療安全災害対策に関しては、ルールや備品配置の実施を行った。行った事項の一部としては、針刺し事故時のフローチャート災害時のポスター掲示、病棟カウンターに不要なものを置かない活動、非常持ち出し袋の統一配布、防火シャッター下にテープ配布し置かせない、病棟用のアクションカード配布等などの実施を行っている。

(3) 接遇と倫理的配慮アンケートのポイントが、

前年度比1ポイント以上上昇するについては、2月のアンケートにおいて、“ナースコールが手元にあるようにセッ



ティングする”の項目は上昇をみた。アンケートを記載することにより、自己の振り返りにはなったといえる。また、ご意見等からの接遇に関する項目を抜粋し、提示するようにした。各部署も明記し共有させて、自部署の問題と捉え取り組みができるようにした。そして、看護師接遇指標評価表を用いて接遇に対する評価を行っている。(笑顔・身だしなみ・親しみやすさ・言葉使い・丁寧さ・手際の良さ・仕事に取り組み姿勢などである)

(4) 医療安全感染への取り組みが1つ以上できるについては、これに関しては、BLS研修会の企画実施教育が求められ実施することとなった。その中で、救急部を支援する形でコアメンバーの育成に取り組かった。しかし、育成されたコアメンバーによる全職種の職員への教育活動は、年度内には終了していない。但し、看護部内では、新人に対してBLS研修を必須研修として教育は、できているが、経年者に対しての教育は不十分である。

(5) 認知症ケアの改善に向けて1項目以上取り組むについては、認知症ケアの充実に向けて、プロジェクトメンバーである看護師長が中心となり、企画実施を行い質向上への取り組みを行っている。研修会の開催は、看護師等を中心としているが、窓口業務を担っている受付職員等も研修会の参加を呼びかけ、研修会を開催することができた。研修会参加した職員によるケアの充実を図ることができている。

(6) 外来におけるケアの質向上及び機能向上への活動については、外来での患者支援を強化する目的で、相談説明ブースの設置を提案したが、達成できなかった。そこで、個々の診療ブースにおける外来看護師による、病棟における看護の提供把握および在宅での生活者としての患者の把握を行い、相談や声掛けを行う対応を心がけるように働きかけ実践しつつある。外来看護師は、診察前にサマリーを読むように心がけ外来と病棟の連携を図りケアの質向上に努めるようにしている。

2) 医療と介護の連携強化への取り組みが2つ以上できる。

(1) 連携強化の取り組みの中で、最も効果的であったのは、患者利用者を中心に、在宅での生活者であるという視点を病院勤務看護師が備えるように、ケアセンターや訪問看護ステーションへの人事交流を行ったことである。人事交流後には、報告会を実施し共有する仕組みも取り入れ、人事交流活動とケア向上の推進への一助となっている。そして、ケアセンター・訪問看護ステーション・通所リハビリテーション管理者と病院の看護部との情報交換会を持ち、現況把握や管理的な課題等についての情報交換会を図り次に展開する連携の在り方への検討に結び付けられる場とした。この会は、引き続き法人内の看看連携推進のためにも行うべき事項である。

(2) 入退院支援センターは、段階的に活動内容を変更しつつではあるが、入院決定時に入院前の情報収集を行うことから開始することができた。患者及び、医療者への入院時に関わる業務支援につなぐことができたといえる。今後早急に拡大すべき事として捉えている。

(3) 医療と介護の連携の中で、患者利用者の大きな意味での病床在宅退院支援連携強化を図るような取り組みは、適切な病床管理と各看護師長による個々の部署の病床管理によって連携が図れている。また、看護師長・医事課・MSWなどの職員間の情報共有などの連携により、急性期のDPC1期Ⅱ期割合65%維持、医療療養病棟の医療区分ⅡⅢの割合が80%/3か月維持等の目標が達成され、医療介護の連携を図り在宅支援ができている。

(4) 安心ロードの普及活動の実施。医師に向けての勉強会の開催、知育に向けての普及活動の研修会の開催を行った。

3) ワークライフバランスを考慮した業務の効率化を図る取り組みができる

(1) 業務改善については、各部署が3項目以上の業務改善に向け取り組むことができ、成果としての残業時間の軽減(平成28年度平均9時間平成29年度平均8時間)が図れた。また、昨年に引き続き多様な勤務形態の活用を促し誘導支援を行った。

そして、夜勤勤務帯の環境改善を図るために、仮眠場所の確実な確保・仮眠ベッドの整備を行い改善

への取り組みができた。

(2) 残業時間削減に向けては、看護管理者が残業削減目的と実態把握のために17時の時間帯にラウンドを行い、また、削減促進のためのチラシを作成し配布するなどを行っている。

4) 人材育成に取り組むことができる

(1) 専門職業人としての育成については、平成27年度から実施してきた看護管理者の育成活動がある。例年に引き続きの院内院外での研修の機会の奨励を行っている。これにより、ファースト・セカンド・サードの管理研修には、自主的に参加することができ育成につながっている。研修参加により、各部署組織の管理は、自己流の管理ではなく、管理者としての視点に基づいたものとなり、スタッフナースの育成支援にも活用し人材育成支援となっているととらえている。院内においても、主任副主任を中心に研修会や課題提供にて研修育成に取り組んでいる。

(2) 看護者としての専門性の追求や学習については、各病棟目標の中にナラティブへの活動を掲げている病棟もある。自己の展開した看護について、語るにより個々の看護観が他者に理解され、互いの良い面が見え自分を知り相手を知ることができている。これによって、部署内において、効果的なコミュニケーションが持て、看護ケアの計画立案時やカンファレンス時には意見をだす機会が増えたとしている病棟がある。

(3) 看護局内の教育関連について

以下の教育枠組みについて、新人教育・現任教育を

教育システムの枠組み



キャリア支援

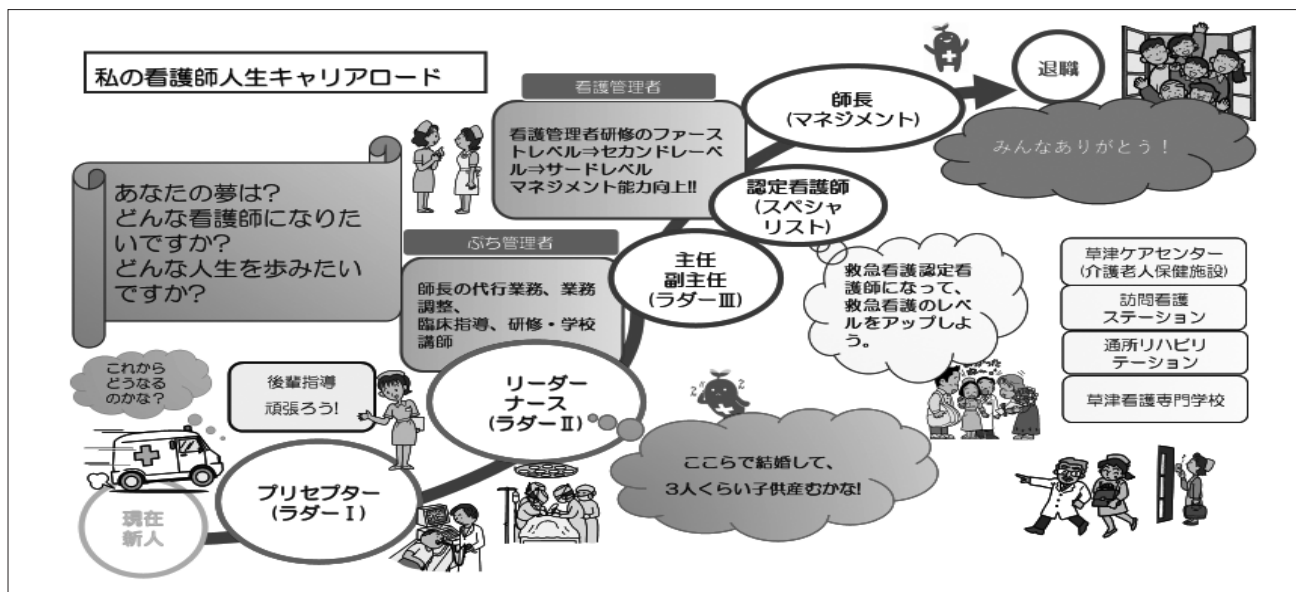
	キャリアラダー	看護研究	院外研修	臨床指導者	専門・認定・特定・教員	キャリア調査
定義	看護師の能力開発・評価システムの1つであり、看護者の臨床実践に必要な能力を段階的に示したものである。	看護実践とそれをめぐるさまざまな事象を記述し、その組織や因果関係などについて研究手法を用いて研究しようとする営み。	日本看護協会・研修者による看護職対象の研修。	看護学生(大学・専門学校)の臨床での実習指導に携わる。実習指導者講習会修了が望ましい。	関係する専門分野に5年以上の経験を持つ専門性の高い看護専門日本看護協会の定義参照	個人の学びたいこと、進みたい分野、伸ばしたい能力等を調査する。
支援	ラダーに応じた研修の実施、認定、ラダーレベル管理(現任教育委員会)	看護研究の計画書作成から発表までの助言・指導、倫理審査会の実施。1回/年の院内発表会、学会発表に係る出張費の公費負担等	日本看護協会研修は原則出張扱い。実習指導者講習会参加費、必要時出張費、公費負担	臨床指導者会議の開催、指導力向上に関する勉強会。実習指導者講習会参加費用の全額公費負担(3~4名/年)	研修期間の出張扱い、研修費用の公費負担 ※審査・条件あり	キャリア支援を考慮した配属部署異動、資格・研修提示

プログラムに沿って実施している。

尚、院外研修の参加は、137研修会（学会等も含む）において、345名の院外における研修会の参加があった。院外研修参加者は、報告書の提出と自部署における伝達講習を行ってもらっているようにしている。このことは、個々の専門性の教育支援のサポートにつながっていると同時に、Off-JTをOJTにつなぐこととなり、各部署の教育の機会ともなっている。

個々のスタッフがキャリアデザインを描けるように、研修等の参加奨励・目標面談時に相談の実施を行っている。

キャリアシートの記載を行い、人事異動等にキャリアを積めるように活用し支援している。



Ⅲ-3. 診療技術部

検査部

検査部長 宮平 良満

他スタッフ 38名

1. 概要

検査部は臨床検査業務における検査結果の品質を保証し、他部門と連携しながら、患者ケアの向上に努めています。その目標に向けての当検査部の品質方針を以下に掲げます。

- 1) 安全で良質な医療を支える検査部の確立
- 2) 患者と診療の支援を優先し、質向上と品質改善を継続する
- 3) 検査業務において正確性、品質、経済性を追求する
- 4) 医療人としての人材を育む

臨床検査技師を中心とした当院の検査部門の運営は生理検査課、検体検査課、委託検査課、健診運営課で構成されています。生理検査課では超音波検査や心電図検査など生理機能全般に関する検査を多数行っています。また、検体検査では主な検査（血液検査、生化学検査、一般検査）はブランチラボで運用されていますが、それ以外の専門性の高い病理検査や細菌検査及び輸血検査は当院の検査室業務として実施しています。検査部では診療支援、患者サービスの観点から検体の回収や採血業務のサポートにも日々努めています。

2. スタッフ構成

- 1) 生理検査課
- 2) 検体検査課（輸血検査係、細菌検査係、病理検査係）
- 3) 委託検査課（血液検査、生化学検査、一般検査）
- 4) 健診運営課

部署	スタッフ数
生理検査課	15名
検体検査課 輸血検査係	3名
検体検査課 細菌検査係	3名
検体検査課 病理検査係	4名
委託検査課	8名
健診運営課	6名

<認定資格> 超音波認定技師：5名 細菌検査認定技師：1名
細胞検査士 ：5名 緊急検査士 ：1名

3. 主要な診療実績

① 総評

H29年度の検査実績としては全体的に検査件数で確認する限りでは、昨年度と比較して、ほぼ横這い状態であった。

今年度は生理検査室で最新型の超音波検査装置を3台入れ替えることで検査の効率化を図った。

また、病理検査室においても、術中迅速診断のニーズが増したことから、新しい凍結切片作製装置を導入した。今後はそれらの機器整備を背景に生理検査の予約枠の拡大や術中迅速診断の迅速対応強化を図る予定である。

② 業務実績

H29年度の検査実施件数は検体検査では院内委託検査（総テスト数：1,875,940件）、病理検査（組織検査：4,457件、術中迅速検査：140件、細胞診検査：7,061件）、細菌検査（9,488件）、輸血検査（血液型：6,394件、不規則抗体：3,201件）であった。

生理機能検査は心電図関連検査（17,781件）、

超音波（エコー）検査（9,791件）、その他（8,946件）であった。

また、検査の実務以外では「誠光会ふれあいの集い」、「看護の日」、「糖尿病デー」など各種イベントに積極的に参加することで、市民に対して日々の健康管理の大切さについて啓発活動を行っています。

4. 実習受入

期間	学校名	人数
2017年 1 月 7 日～ 3 月 24 日	京都保健衛生専門学校	1 人

実習内容としては①検体検査室、②病理検査室、③細菌検査室、④輸血検査室、⑤生理検査室と専門性で別れた検査室を一定期間ずつ実習しながら、学校では学べない実務に関する経験を積んでもらっています。

5. 社外活動

滋賀県臨床検査技師会（2017年度役員）

- 第二地区支部員 ○臨床免疫血清部門委員 ○臨床生理部門委員
○臨床血液部門委員 ○輸血細胞治療部門委員

栄養部

部長代行 布施 順子

他スタッフ 8名

うち 糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士 3名

日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 4名

管理栄養士 9名

委託側（東住吉丸玉フーズ株式会社）管理栄養士3名・栄養士5名・調理師9名・調理補助19名
（日東カストディアル・サービス株式会社）21名

1. 概要

栄養部では、「食べてこそその栄養」との考えを基本に、患者さん一人ひとりの担当栄養士として、オーダーメイドの栄養管理に努めています。生活習慣病でもあるがんの患者さん、そして摂食嚥下障害患者さんにも、在宅や施設などでの安全・安心できる食

生活に繋げることが出来るよう、入院中だけでなく退院後の患者・家族へのフォロー体制を強化してきました。身近な食を通して、少しでも患者さんの笑顔が見られることで、スタッフそれぞれが大きな喜びとやりがいを感じているところです。

2. 活動実績

1) 活動内容

- ・給食管理委員会（毎月第2金曜日）
- ・NST〈栄養サポートチーム〉（毎週水曜日・木曜日）
- ・嚥下回診（毎週木曜日）
- ・PEG回診（毎週木曜日）
- ・褥瘡回診（第1火曜日、第3水曜日、第4金曜日）
- ・病棟カンファレンス
- ・個人栄養指導の実施（予約にて随時）
- ・特定保健指導（動機づけ支援、積極的支援）（随時）
- ・栄養課題例検討会（月1回）
- ・委託会社との給食検討会（3ヶ月1回）
- ・糖尿病集団栄養指導

2) 1日延べ食数及び特別加算食の割合

29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
非加算食	24634	22970	23089	23153	24139	21995	21980	21843	23663	23765	22544	24473
特別加算食	15588	16018	15291	16548	16901	16514	17438	16999	16952	18142	16515	17648
濃厚流動食	10231	10133	10125	10652	10252	9363	9733	9301	9795	10115	9366	9698
合 計	50453	49121	48505	50353	51292	47872	49151	48143	50410	52022	48425	51819
特別加算食率	35.2%	37.6%	37.9%	37.7%	37.7%	39.5%	40.6%	40.5%	38.7%	40.2%	39.2%	39.4%

3) 栄養指導件数

28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外 来	131	130	151	242	217	222	232	202	189	217	185	211
入 院	269	246	321	276	274	286	312	279	266	300	281	293
合 計	400	376	472	518	491	508	544	481	455	517	466	504

3. 実習生等受入状況

期間	学校名	人数
平成29年5月29日～6月16日（3週間）	帝塚山大学	4人
平成29年8月7日～8月25日（3週間）	滋賀県立大学	4人
平成29年7月31日～8月4日（1週間）	京都栄養医療専門学校	4人
平成29年8月14日～8月18日（1週間）	滋賀短期大学	2人
平成29年8月28日～9月1日（1週間）	京都文教短期大学	2人
平成29年10月9日～10月27日（3週間）	京都女子大学	4人
平成29年10月23日～11月10日（3週間）	京都栄養医療専門学校	4人
平成30年2月26日～3月19日（2週間）	同志社女子大学	4人
平成30年3月5日～3月16日（2週間）	京都光華女子大学	3人

4. 学術活動

A) 一般講演（国内）

1. 布施順子 糖尿病の食事療法～糖質を味方に～
糖尿病教室 2017年4月28日 草津
2. 高田小百合 心不全と栄養 係長主催勉強会
2017年6月22日 草津
3. 佐藤香奈子 循環器内科での心カテパス変更による各職種からの報告 第1回クリニカルパス大会 2017年7月1日 草津
4. 布施順子 減塩生活でカラダいきいき！ あおばな心臓病セミナー 2017年7月22日 草津
5. 布施順子 糖尿病の食事療法～エネルギー制限のコツ！～ 糖尿病教室 2017年8月23日 草津
6. 布施順子 いきいき食生活～健康寿命を延ばそう～ 出前講座 2017年9月24日 OHプラザ 公民館
7. 布施順子 糖尿病の食事療法 ～合併症予防に取組もう！～ 糖尿病教室 2017年10月27日 草津
8. 布施順子、西村直子 介護食を学び、試食をしてみよう 出前講座 2017年11月7日 なごみの郷
9. 西村直子 食事と脳の関係「身体と心を育む食育」 出前講座 2017年11月16日 草津市立第六保育園
10. 布施順子、西村直子、高田小百合、藤森亜由実 糖尿病の食事療法～クリスマスランチ会～ 糖尿病教室 2017年12月21日 草津
11. 高田小百合 食習慣を見直して血液サラサラになろう あおばな心臓病セミナー 2018年1月19日 草津
12. 布施順子 糖尿病の食事療法～減量入院中の食事療法について～ 糖尿病教室 2018年2月16日 草津
13. 布施順子 栄養介入の充実を目指して 日本医療マネジメント学会 第15回京滋支部学術集会 2018年2月17日 京都

14. 布施順子 経腸栄養マニュアル策定とその効果
～胃瘻造設後在宅に繋いだ症例を通じて～ 第
33回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2018年 2
月23日 横浜
15. 布施順子 胃瘻造設患者における経口摂取の
現状 第33回日本静脈経腸栄養学会学術集会
2018年 2月23日 横浜
16. 西村直子 嚥下内視鏡検査のスコア評価からの
栄養介入② 第33回日本静脈経腸栄養学会学術
集会 2018年 2月23日 横浜
17. 布施順子 いきいき食生活～脳卒中を予防
し、健康寿命を延ばそう～ ボランティア研修
2018年 2月24日 草津

5. 新聞・雑誌取材等

C) 著書 (国内)

1. 布施順子：早期退院に向けた経腸栄養リスク管
理～早期経口摂取へ向けたマニュアルの作成と
粘度可変型流動食の活用～ 栄養経営エクス
パート No.11 2018 3・4月号 (株)日本医
療企画：74-76,

臨床工学部

部長代行 廣畑 直実 他スタッフ 17名

1. 概要

臨床工学部は、臨床工学技術課（13名）医療機器管理課（5名）で構成されています。

2017年度は「業務拡大に伴う業務内容の見直しと院外活動を積極的に取り組む」を目標とし活動しました。

臨床工学技術課では手術室、透析センター、内視鏡センター、ICU、血管造影室など主要部門に関わ

り医療技術の提供を行いました。

医療機器管理課では、医療機器の安全を確保するための保守管理、高度化・複雑化する医療機器に対応するスタッフ教育、在宅医療機器を安心して使用できるように患者さんへの機器指導を行いました。また、医療機器の購入～廃棄に至るまで関わりコスト意識を持った管理を実践しました。

2. 活動実績

臨床工学技術課

血液透析回数（外来）	12287回
血液透析回数（入院）	3563回
血液透析回数（ICU）	78回
アフレスシス療法	32回
腹水濾過再静注法	123回
人工心肺	8例
自己血回収装置	29例
静脈瘤焼灼術	12例
温熱化学療法	189例
眼科手術	418例
整形ナビゲーション手術	47例
整形誘発電位測定	30例
補助循環装置稼働日数	37日
内視鏡センター（治療）	546例
内視鏡センター（検査）	598例
心臓カテーテル（検査）	256例
心臓カテーテル（治療）	281例
下肢カテーテル（検査）	2例
下肢カテーテル（治療）	115例
アブレーション・EPS	29例
ペースメーカー植込み・交換	35例
ペースメーカー検査	382例
高気圧酸素療法 非救急	421例
高気圧酸素療法 救急	59例

医療機器管理課

医療機器使用前点検台数	13665台
定期点検台数	2717台
中央管理台数	447台
修理件数	542件
在宅機器（導入時説明）件数	132件
在宅機器（問い合わせ）件数	60件
勉強会開催件数	118件

3. 学術活動

A) 一般講演 (国内)

1. 平尾貴洋 熊本地震におけるDMAT活動報告と課題 第15回滋賀県臨床工学技士会 2017年4月23日 草津総合病院
2. 寺村 聡 カテーテル治療と臨床工学技士の関わり Biwako cardiac conference 2017年5月17日 草津エストピアホテル
3. 寺村 聡 デバイス管理におけるトラブルシューティング 第7回近畿デバイスカンファレンス 2017年5月27日 JCHO大阪病院
4. 田邊伸明 難治性潰瘍の治療経験 第2回日本高気圧環境・潜水医学会 近畿地方学術集会 2017年7月22日 宇治徳洲会病院
5. 梅本裕子 長期留置型カテーテルのVascular accessとしての検討 平成29年度滋賀・腎透析研究会 2017年9月10日 ピアザ淡海
6. 山本哲也 温熱化学療法の使用物品と温度管理表 日本ハイパーサミヤ学会34回大会 2017年9月15日 京都テルサ
7. 東山征貴 廉価版SPO2センサー導入に向けて 第24回近畿臨床工学会 2017年11月18日 プラダ和歌山ビック愛
8. 寺村 聡 ペースメーカー交換術2時間後にリード脱落を経験した1例 第10回植込みデバイス関連冬季大会 2017年2月10日 パシフィコ横浜

C) シンポジウム、教育講演、その他 (国内)

1. 寺村 聡 メディカルプロフェッショナルシンポジウム 第64回アジア太平洋不整脈学会学術集会 2017年9月10日 パシフィコ横浜
2. 田邊伸明 ModeSwitch型をいかに考える? 第6回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年5月13日 京都テルサ
3. 寺村 聡 AV-Delayをどう設定する? 第6回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年5月13日 京都テルサ
4. 平尾貴洋 チームとしてのロジスティック 平成29年度第一回近畿ブロック統括DMAT登録者技能維持研修 2017年6月11日 国立病院機構大阪医療センター
5. 山本哲也 生体情報モニターの取扱いについて 第2回医療機器BASICセミナー 2017年10月15日 市立大津市民病院
6. 東山征貴 腹水濾過濃縮再静注法 (CART) について 第36回日本アフェレシス学会 関西地方会 2018年2月3日 草津市民交流プラザ
7. 寺村 聡 他科Ope時の設定は? 電気メスの対応 第7回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年10月21日 アランヴェールホテル京都
8. 田邊伸明 他科Ope時の設定は? 電気メスの対応 第7回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年10月21日 アランヴェールホテル京都
9. 寺村 聡 疾患からPacemakerの設定を考えよう 第8回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年3月17日 奈良商工会議所
10. 田邊伸明 医師への報告のポイント 第8回ペースメーカーカステップアップカンファレンス 2017年3月17日 奈良商工会議所

4. 実習生受入状況

期 間	学 校 名	人 数
6月1日～7月14日	藍野大学	2名

リハビリテーション部

部長 中村 哲治 他スタッフ 61名（事務4名含む）

1. 概要

リハビリテーション部には理学療法士33名、作業療法士17名、言語聴覚士8名が在籍し、心大血管、脳血管、運動器、呼吸器、がんなどの幅広い疾患に対応しています。

また、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟のリハビリテーションにも積極的に介入し、患者さんの在宅復帰をサポートしています。

2. 活動実績

リハビリテーション部 入院新患数

疾患別	心大血管	脳血管	廃用	運動器	呼吸器	が ん	合計
H29年度	860	626	107	550	474	327	2944
H28年度	848	425	186	478	395	145	2477
H27年度	528	274	220	357	190	58	1627

リハビリテーション部 外来新患数

疾患別	心大血管	脳血管	廃用	運動器	呼吸器	が ん	合計
H29年度	17	32	0	126	3		178
H28年度	12	40	0	120	0		172
H27年度	5	22	0	88	0		115

3. 学術活動

A) 一般講演

1. 中村正仁 脳卒中患者を対象とした装具カンファレンスの実践－卒業後教育としての取組－日本医療マネジメント学会 第15回京滋支部学術集会 2017年2月17日 京都テルサ
2. 和氣輝陽 回復期リハビリテーション病棟における口腔ケアシステム構築の取り組み 日本医療マネジメント学会 第15回京滋支部学術集会 2017年2月17日 京都テルサ
3. 山本敏雄 脳卒中患者急性期の拡散テンソル画像と退院時の歩行能力の検討 STROKE2017

2017年3月16～18日 大阪国際会議場

4. 山本敏雄 拡散テンソル画像を用いた定量解析方法の検者間信頼性の検討 第52回理学療法学会大会 2017年5月12日～14日 幕張メッセ国際会議場
5. 吉田昌寿 自己肯定感を引き出すことにより運動療法が継続でき良好な結果を得た元アスリートの高度肥満患者の1例 第35回日本肥満症治療学会学術集会 2017年6月23～24日 いわて県民情報交流センター

B) 著書

1. 山本敏雄：拡散テンソル画像にて網様体脊髄路

損傷を確認した片麻痺患者の臨床症状 滋賀県理学療法士学術誌（37）2017：51-54

薬剤部

薬剤部長 鷹羽 頼勝 他スタッフ 31名

1. 概要

■ミッション

薬剤部では、医療の担い手として、適正かつ安全な薬物療法の支援を行い、医療チームの一員として患者中心の質の高い安全な医療を推進することを理念とし、患者さんに信頼される地域の薬剤師を目指しています。

■概要

当院薬剤部は、薬剤師31名、薬剤助手6名の体制でスタートしました。業務内容は調剤業務を始め、病棟業務、抗がん剤等の無菌調製、医薬品情報管理、治験業務、院内製剤など多岐に渡ることから、薬剤師が本来業務に専念するため、調剤支援機器を積極的に導入し業務の自動化、業務の効率化を推進しています。医療安全面では、持参薬管理など医薬品に関するインシデント防止に向けたリスクマネジメント、経営面では薬剤管理指導料算定件数1,000件以上/月、病棟薬剤業務実施加算1の算定開始を目標とする取り組みに注力し、良質な医療の提供と患者さんの安全確保に努めました。平成29年度については、そのほか下記の事項についても取り組みました。

- 4月 薬剤部説明会（薬学生対象）
- 5月 ふれあいの集い（キッズファーマ）
- 6月 立命館大学薬学部早期体験学習
疑義照会プロトコル現状調査
- 7月 サマーフェスティバル（キッズファーマ）
第2回草津・栗東薬薬連携研修会
- 8月 療養病棟（3C・4C）への薬剤師常駐開始
- 10月 MR懇話会開催
- 11月 糖尿病デーイベント参加
病棟薬剤業務実施加算Ⅰ算定開始
地域高校生職場体験学習
- 12月 人事評価制度導入（部門目標設定）
第2回CKDファーマシーセミナー
- 2月 入退院支援センターWG

医療マネジメント学会発表

- 3月 JMIPワーキング
病院機能再編WG

■業務実績

1. 薬剤部中央業務

1) 外来・入院調剤業務

平成29年2月より病院運営の一環として、全面院外処方せん発行しましたが、発行率は93.8%を推移しています。

草津・栗東地域のびわこ薬剤師会との間で締結している「疑義照会運用プロトコル」の現状調査を実施しましたが、運用の周知が不十分であることが判明し、運用を見直すことにより円滑な疑義照会運用ができるように改善を図りました。

2) 注射調剤業務

注射薬調剤は注射薬自動払出機による自動化・効率化を図るとともに、投与量、投与経路、投与速度等の確認とともに配合変化など薬学的な見地から処方内容をチェックし、患者さんがより安全に安心して注射薬による治療を受けられるように努めています。

3) 医薬品の適正管理

医療の高度化に伴い高額医薬品、保管管理が厳格な製剤の採用が増えたことから、在庫医薬品の適正化を目的に定点発注方式を導入しました。また医薬品の使用期限、温度管理など品質管理の維持向上を図るとともに、定期的な棚卸により資産の保全と財務の適正化を図っています。

4) 医薬品情報室

医薬品情報室は医薬品の最新情報、安全情報、副作用情報など関連情報を収集・評価・管理し、医療スタッフに情報発信することで医薬品適正使用の推

進を図っています。また院内で発生する有害事象を一元管理する制度(院内医薬品安全性情報報告制度)を導入し副作用収集業務の体制を強化しました。(副作用報告件数：前年度比129.4%増)

さらに手術や侵襲的処置が必要な際の術前休止薬と中止期間を記載した「術前休薬期間の目安一覧表」を作成し、周術期における休薬指示業務の標準化に取り組みました。

<平成29年度実績>

①副作用収集件数	163件
②プレアボイド件数	22件
③薬剤部が開催した研修	19件
④DIだより・安全性情報	159件
⑤新規採用申請・承認数	92件
⑥院外専用移行件数	25件
⑦採用中止数	38件

5) 無菌調製業務

専用無菌室において抗がん剤やTPN製剤の無菌調製を行っています。入院・外来で使用される抗がん剤の全てを薬剤部で無菌調製し患者さんの安全性確保に努めています。

①抗がん剤無菌調製	4,184件／年
②TPN製剤調製件数	990件／年

6) 外来化学療法への関与

外来化学療法室には薬剤師が1名常駐し、レジメン管理、患者面談を通じて服薬指導を行うとともに、医師へ有害事象対策の処方提案を行うなど、抗がん剤治療にトータルに関わることで医療安全や抗がん剤薬物療法の適正化に貢献しています。

①レジメンチェック数	2,633件／年
②レジメン登録数	265件／年
③レジメン承認件数	30件／年
④がん患者管理指導料3	54件／年

7) 治験支援業務(事務局)

薬剤部は、企業治験、医師主導治験、臨床研究、製造販売後調査に関わる事務局業務を担当していますが、受託件数は年々増加しています。治験に関する様々な業務を円滑に運営するとともに治験薬の調剤及び保管管理を担っています。

・治験審査委員会開催実績	6回
--------------	----

・新規治験受託契約件数	12件(21件)
・PMS新規受託件数	30件(67件)

8) 教育・人材育成

体系的な教育プログラムで新人薬剤師教育を実践しています。部内勉強会を月3回開催し、学会や専門領域の研修会を通じて知識の共有と向上に努めました。また将来薬剤師を目指す地元中高生の職場体験学習、薬学生の早期体験学習を積極的に受け入れました。

- ・H29.4 中学生職場体験学習
- ・H29.6 立命館大学薬学部早期体験学習
- ・H29.11 高校生職場体験学習

9) 地域連携

地域において途切れない治療が行われるためには薬業連携を含めた地域連携が不可欠です。保険薬局薬剤師と月1回の連携会議を当院で開催し、院外処方に関する様々な問題点について議論を交わし連携に努めています。平成29年7月には第2回草津・栗東薬業連携の会において緩和医療に関する研修会を開催、11月にはCKDファーマシストセミナーを通じて連携強化を図りました。

- ・H29.8 CKDファーマシストセミナー
- ・H29.11 第2回草津・栗東薬業連携の会

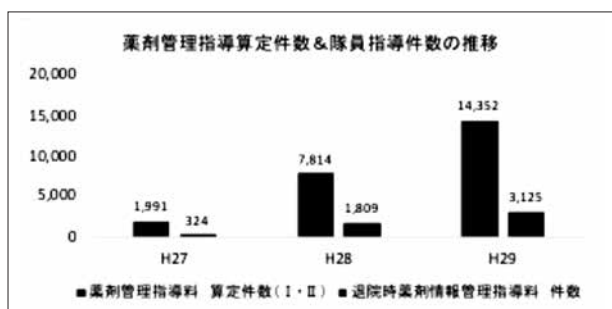
2. 病棟業務

1) 薬剤管理指導業務

薬剤師が病棟で担う役割は年々拡大しており、急性期病棟及び慢性期病棟に薬剤師を配置し、ベッドサイドにおいて初回面談、服薬指導、副作用モニタリング、退院に至るまで、薬剤師が積極的に介入し、医師に対して薬剤選択や投与量、投与期間の変更など薬物治療へ適時処方提案を行い、看護師には医薬品に関する相談応需、教育に対応しています。

今年度は医療安全、また病院経営の視点から、病棟業務を積極的に取り組んだ結果、薬剤管理指導料等の算定件数を飛躍的に増大させることができました。(前年度比176%増)

・薬剤管理指導料件数	：	1,192件／月
・薬剤管理指導実施率	：	78%
・退院時薬剤情報管理料	：	261件／月
・麻薬指導加算件数	：	42件／月



2) 病棟薬剤業務実施加算 I

平成29年8月から療養病棟（3C、4C）に薬剤師を配置し、同年11月から病棟でチーム医療に貢献する薬剤師を評価する「病棟薬剤業務実施加算 I の算定を開始しました。入院から退院まで薬剤師が処方設計の段階から介入することで、質の高い薬物療法の提供に繋がるものと考えています。

3) チーム医療への関与

当院ではICT、NST、がん治療、緩和をはじめとした様々な専門医療チームが活動しており、各専任

薬剤師が医師や他の医療従事者と共に活動し患者個々に応じた適切な医薬品情報の提供と薬学的介入を行っている。

＜チーム医療への介入による実績＞

・感染防止対策チーム

a. 感染防止対策加算 1 : 656件

b. 感染防止対策地域連携加算 : 609件

・栄養サポートチーム加算 : 1,986件

・医療安全対策加算 1 : 656件

・外来化学療法加算 1 : 1,192件

・がん患者指導管理料 3 : 61件

・緩和ケアチーム

・褥瘡対策チーム

3. 今後の展望

「薬あるところ薬剤師あり」という考えのもと、医薬品適正使用のための研究活動を積極的に実施し、その結果をフィードバックすることにより薬物療法の質向上に努めていきたいと考えています。

2. 活動実績

平成29年度 業務実績

■採用医薬品数（平成30年3月現在）

	品目数
内服薬	545
外用薬	289
注射薬	461
合計	1295

■後発医薬品院内採用品目

	品目数
内服薬	139
外用薬	48
注射薬	106
合計	293

■平成29年度薬事審議会結果

	品目数
新規採用品目	92
削除品目	44
後発品切替数	18

■処方箋枚数

	年間枚数	1日平均
外来処方箋	院内処方箋	16,861
	院外処方箋	153,132
入院処方箋	95,416	261.4
注射処方箋（入院）	130,581	357.8
注射処方箋（外来）	23,812	65.2

■院外処方発行率

院外処方発行率	93.3%
---------	-------

■病棟業務実績

	年間件数	月平均件数
薬剤管理指導料算定件数	14,352	1,194
薬剤管理指導件数	20,196	1,683
持参薬鑑別件数	4,852	404
麻薬指導加算	509	42
退院指導件数	3,134	261
薬剤管理指導実施率	81%	
退院指導実施率	44%	

■院内製剤調製件数

院内製剤	品目数	製剤件数
内服薬	1	8
外用薬	14	180
注射薬	0	0
合計	15	188

■抗がん剤・TPN製剤無菌調製件数

	無菌調製患者数	無菌調製件数
抗がん剤・TPN	2,355	4,184

■治験・製造販売後調査(PMS)受託件数

治験・PMS	実施件数
新規治験	12
治験延件数	21
PMS	67

■化学療法（レジメン管理・抗がん剤調製患者数）

	年間件数	月平均件数
レジメン確認件数	2,570	214.2
抗がん剤無菌調製患者数	2,355	196.3

■がん患者指導管理料ハ

	年間件数	月平均件数
がん患者指導管理料算定数	61	5.1

■薬物血中濃度解析（抗MRSA薬）

	年間件数	月平均件数
TDM解析件数	296	24.7

■医薬品情報提供（DIニュース等）

情報提供	年間件数
DIだより等	33

3. 学術・研修活動

A) 一般講演（国内）

演題	発表者（全員）	学会名	場所	日時
慢性心不全に対するトルパブタン長期投与における薬剤師の介入効果の検討	大橋、林	第81回循環器学会学術集会	ホテル日航金沢	2017/3/17～19
重症骨粗鬆症患者に対するデノスマブとテリパラチド併用療法における短期成績	井元	第1回日本老年薬学会学術大会	都市センターホテル	2017/5/14
老健施設における定期服用薬の調査～入所を機に減らせる薬剤と増える薬剤～	岩崎	第1回日本老年薬学会学術大会	都市センターホテル	2017/5/14
骨粗鬆症患者に対するデノスマブとテリパラチド併用療法における短期成績	井元	日本老年薬学会	都市センターホテル	2017/5/18
外科病棟における脂肪乳剤の投与方法の現状調査	丸山	第9回 日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会	京都テルサ	2017/6/24
重症骨粗鬆症患者に対するデノスマブとテリパラチド併用療法における短期成績	井元	医療薬学フォーラム2017	鹿児島市民文化ホール他	2017/7/1
老健施設における定期服用薬の調査～入所を機に減らせる薬剤と増える薬剤～	岩崎	医療薬学フォーラム2017	鹿児島市民文化ホール他	2017/7/1
慢性心不全に対するトルパブタン維持投与における薬剤師の介入効果の検討	大橋	第38回滋賀県病院薬剤師会学術大会	iMEPニプロホール	2017/8/6
SGLT2阻害剤の慢性心不全合併2型糖尿病患者に対する臨床効果の検討	大橋	滋賀心不全チームカンファレンス	水口センチュリーホテル	2018/1/26
多品目にわたる術前休止薬の一覧作成と今後の課題	井元	近畿薬剤師合同学術大会2018	国立京都国際会館	2018/2/3・4
事前合意事項における薬剤師の疑義照会	鈴木	近畿薬剤師合同学術大会2018	国立京都国際会館	2018/2/3・4
処方箋の脱外移行・一般名処方の標準化に伴う、疑義照会の変遷と薬剤師の取り組み	干井	近畿薬剤師合同学術大会2018	国立京都国際会館	2018/2/3・4
新システム導入における簡易懸濁法についての現状と今後の課題	井元勇希、丸山いづみ、木村祥子	静脈経腸栄養学会2018	パシフィコ横浜	2018/2/22・23
SGLT2阻害剤の慢性心不全合併2型糖尿病患者に対する臨床効果の検討	大橋	日本循環器学会2018	大阪国際会議場	2018/3/23

B) 一般講演（国際）

演題	発表者（全員）	学会名	場所	日時
Clinical results of combination therapy with teriparatide and denosumab	井元	The 5th Scientific Meeting of the Asian Federation of Osteoporosis Societies	Hilton Kuala Lumpur, Malaysia	2017/10/6~8

認定資格者一覧

H30.3月時点

日本薬剤師研修センター	研修認定薬剤師	12名
日本病院薬剤師会	（実務実習）認定指導薬剤師	3名
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	4名
日本医療薬学会	がん専門薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	がん薬物療法認定薬剤師	2名
日本臨床腫瘍薬学会	外来がん治療認定薬剤師	2名
日本糖尿病療養指導士認定機構	糖尿病療養指導士	3名
日本静脈経腸栄養学会	栄養サポートチーム専門療法士	1名
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	1名
日本骨粗鬆学会	骨粗鬆症マネージャー	1名
日本アンチ・ドーピング機構	スポーツファーマシスト	1名
日本病院会	医療安全管理者	1名

施設認定

薬学教育協議会	薬学生実務実習 受入施設
---------	--------------

放射線診療センター 放射線技術部

放射線技術部 部長 仁木 純司 他スタッフ 27名

1. 概要

平成29年度放射線診療センター放射線技術部は診療放射線技師のスタッフが画像検査・放射線治療を中心に取り組んできました。例年に引き続き学会や研究会には積極的に参加することで、医療知識の習得や撮影技術の向上に努めることができ、診療に役立つ画像提供や放射線治療が行えたと考えております。

医療機器の更新では平成29年5月に透視撮影装置（放射線診療センター・内視鏡室）を行い、高画質・

低被ばくの機器体制となり、臨床応用も広がることで適切な治療・画像提供が出来るようになりました。また結石破碎装置（ESWL）も更新され、泌尿器科領域での正確な治療を行っております。

放射線診療センターの一員として医師・看護師・事務員と協力し合い、医療の質と安全性を配慮した検査・治療を提供できるようスタッフ一同努力していきます。

2. 活動実績

1) 認定専門資格

認定団体	認定資格	有資格者
原子力規制委員会	第一種放射線取扱主任者	2名
日本X線CT専門技師認定機構	X線CT認定技師	2名
日本救急撮影技師認定機構	救急撮影認定技師	1名
日本乳がん検診精度管理中央機構	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	4名
日本核医学専門技師認定機構	核医学専門技師	1名
日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線治療専門放射線技師	1名
放射線治療品質管理機構	放射線治療品質管理士	1名
日本診療放射線技師会	医用画像情報精度管理士	3名
日本診療放射線技師会	放射線管理士	1名
日本診療放射線技師会	臨床実習指導者教員	1名

3. 学術活動

1) 学会・研究会発表・講演会

1. 岡田裕貴 Investigation of the darkband artifacts reduction in the Neck 3 D-CT Angiography 第73回日本放射線技術学会総会学術大会 2017年4月13日～4月16日 横浜
2. 岡田裕貴 GECT・AWを用いた注意点と画像作成について～操作実演を交えて整形領域を中心に～ 第21回関西GECT研究会 2017年6月17日 大阪
3. 岡田裕貴 大動脈CTAにおける造影のポイント CTAフォーラム 2017 2017年6月23日 滋賀
4. 加茂恵美 教えてください！頭頸部放射線治療 第18回滋賀県放射線治療連絡協議会 2018年7月23日 滋賀
5. 加茂恵美 放射線治療専門放射線技師～放射線治療と向き合うひと夏～ 滋賀県放射線技師会 湖南支部総会 2017年8月3日 滋賀
6. 藤本裕樹 血管撮影装置および造影剤注入器専用清潔カバーの考案と評価 第33回日本診療放射線技師会学術大会 2017年9月21日～9月24日 北海道
7. 藤本裕樹 IVRとコスト 第57回京滋IVR懇話会 2017年10月7日 滋賀
8. 渡邊匡史 サイクロトロンの放射化物廃棄を経験して 滋賀県放射線技師会 第74回滋放技核医学研究会 2017年10月25日 滋賀
9. 永田成紀 下肢CTAngiographyのこだわり～下腿3分枝の描出能向上と造影剤低減～ 第22回関西GECT研究会 2017年12月2日 大阪
10. 榎本有史 前立腺のMRI 滋賀県放射線技師会 第3回学術研修会 2018年1月27日 滋賀

2) 放射線科内勉強会

- 1 第89回造影剤について 第一三共 2017年5月11日
- 2 第90回技術学会 報告会 藤本裕樹／米坂総一郎 2017年5月15日
- 3 第91回造影剤の副作用～シミュレーションを通して～／肺がん検診～低線量CT～ 富士製薬／小野祥寛 2017年6月19日
- 4 第92回被ばく線量管理ソフトについて バイエル薬品 2017年7月19日
- 5 第93回MRI装置の紹介 SIEMENS 2017年8月4日
- 6 第94回院外画像閲覧システム(ナディア)について／診療技術部勉強会pre心臓について ファインデックス／四方智大 2017年9月14日
- 7 第95回認定技師によるベストプラクティスな施設の紹介 岡田裕貴 2017年11月24日
8. 第96回下肢CTAngiographyのこだわり～下腿3分枝の描出能向上と造影剤低減～ 永田成紀 2017年11月30日
9. 第97回前立腺MRI 榎本有史 2018年1月22日
10. 第98回心臓CTA検査における、よりわかりやすい患者説明を目指して 岡田裕貴 2018年2月8日
11. 第99回MRI造影剤（マグネスコープ）について 富士製薬 2018年2月20日
12. 第100回MRI装置の紹介 日立製作所 2018年2月22日

3) 院外活動

活動組織	役 職	名 前
滋賀県放射線技師会	常務理事	佐々木 智 恵
日本放射線技術学会近畿部会	学術委員	佐々木 智 恵
日本救急撮像技師認定機構	地区担当	岡 田 裕 貴
滋賀県核医学研究会	代表世話人	仁 木 純 司
京滋アンギオ懇話会	世話人	仁 木 純 司

磁気共鳴懇話会	世話人	佐々木 智 恵
滋賀県放射線技師会MRI研究会	世話人	榑 本 有 史
滋賀 Signa User's Meeting	世話人	佐々木 智 恵
近畿救急撮像セミナー	世話人	岡 田 裕 貴
京都画像研究会	世話人	岡 田 裕 貴
関西GECT研究会	世話人	岡 田 裕 貴
医療と画像診断フォーラム	世話人	岡 田 裕 貴
滋賀県放射線治療連絡協議会	世話人	加 茂 恵 美
滋賀県がん検診検討会乳がん部会	委員	佐々木 智 恵
滋賀県放射線技師会学術事業部	委員	加 茂 恵 美
滋賀県放射線技師会学術事業部	委員	柴 田 雅 夫
滋賀県放射線技師会学術事業部	委員	渡 邊 匡 史

Ⅲ-4. 事 務 部

診療情報管理課

主任 岩田幸子 他スタッフ 7名

1. 概要

主な業務内容は、診療に関する「物」としての情報管理と「データ」としての情報を管理しており、前者では、診療や研究に必要なとき速やかに提供できるように管理し、後者では、電子カルテの情報やDPCのデータを基に統計資料作成を行い、各部門

からの依頼および院外からの情報提供依頼にも対応しています。電子カルテ導入から11年経過、バージョンアップ、タイムスタンプの導入されており、入院診療録の完全電子カルテ化を開始した。

2. 活動実績

DPC導入の影響評価に関わる調査関係	12,550件
QI関係データ提出	5ヶ所
スキャン業務	170,144件
カルテ開示	49件
依頼データ作成数	45件
2016年がん登録	924件

医師事務作業補助課

スタッフ 27名

1. 概要

医師事務作業補助者とは、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。医師不足や医師の労働環境改善が取り上げられて久しい中、医師の事務作業の負担を軽減し、医師が専門業務に専念できるように医師指示のもと、「外来補助業務」

「書類代行業務」「チーム医療への参画」等を通して、患者様サービス、病院運営の貢献に繋がるように努めています。

（医師事務作業補助者：27名 2018年3月末時点）

2. 主要な活動実績

◆医師事務作業補助体制加算1：補助体制加算

20対1の人員を持続的に維持し、外来補助業務、書類代行業務、データ登録業務などを通して医師の事務作業軽減、医療の質向上に努めています。

◆診療録管理体制加算1：退院時サマリ代行・管理

支援を実施し、14日以内の退院時サマリ記載率90%以上の維持に努めています。

3. その他の実績：各種セミナーの開催支援（医師・看護師・その他関係部門と連携し開催）

内 容	担当診療科	開催頻度
糖尿病教室	糖尿病・内分泌内科チーム	1回/月
肥満症セミナー（くさまる減量プロジェクト）	肥満症外科チーム	2回/年
心臓病セミナー	循環器内科チーム	3回/年

医師支援課

1. 概要

医師招聘活動や医局秘書業務および臨床研修に関すること。また、理事長、院長のスケジュール管理および特命指示業務など。

2. スタッフ構成

役職	名 前
医師支援課 課長	森 田 隆 史
課長補佐	藤 堂 義 人
医局秘書担当	浦 谷 迪 子
初期臨床研修担当	南 井 佳 宏

3. 今年度の主要な実績

初期研修医イベント参加2回
臨床研修管理委員会開催12回
初期研修医5名フルマッチング
その他常勤、非常勤医師採用多数

4. 実習生受入状況

期 間	学 校 名	人 数
5月8日（月）～5月26日（金）（3週間）	滋賀医科大学医学部6年	6人
5月29日（月）～6月16日（金）（3週間）	滋賀医科大学医学部6年	6人
9月12日（火）～9月15日（金）（4日間）	滋賀医科大学医学部1年	6人
その他医学生病院見学		76人

患者総合支援局 入退院支援センター

センター長（副院長）	和田 厚幸	
副センター長	奥野さゆり	
入退院支援課 師長	田中 紀子	スタッフ7名
医療福祉相談課 係長	谷 由紀子	スタッフ6名

1. 概要

【入院前支援・病床管理】

地域の中核病院として急性期医療から回復期医療まで担当院にとって、入院が必要な患者をいつでも受け入れられるよう体制を整えておくことは必要不可欠の要件である。そのため、医療の質と安全を保ち、かつ効率よくベッドを活用する事が求められている。『急性期病床稼働率90%以上、地域包括ケア病床95%以上、PCⅠ期・Ⅱ期を65%以上、新入院患者数830名以上』を病院の目標として掲げられた。院内各部署との連携を図り、目標達成に向け取り組んだ。

〈実績〉

〈平成30年度病床稼働率は年間平均〉

急性期病床：88.8%

地域包括ケア病床：93.5%

回復期リハ病棟：92%

医療療養病棟：93%

介護療養病棟：95.6%

〈急性期病棟 平均新規入院数〉 850名

各病棟師長を集めたベッドコントロールミーティングと、医事課職員との連携により効果的な病床管理が定着してきた。また、職員への意識づけの手段として、病床管理室からの稼働率に関する情報提供と、新入院患者獲得のための啓発活動なども積極的に行った。

〈入院前支援活動〉

他院からの急性期病棟、地域包括ケア病棟への転院依頼や、レスパイトの入院連携を中心に行っている。また、入院前支援業務の構築を行い患者支援の充実、業務の一元管理を行い病棟業務における入院業務の負担軽減を図った。

〈レスパイト入院件数〉56件

当院の多様な病床機能は、地域や他院に大きく

寄与する役割を果たしているため、今後も積極的に地域の施設や病院と連携を図りたい。

【入退院支援・後方支援】

1) 平成30年度診療報酬に対応するため、当部署では昨年度から段階的に人員の増員が行われた。『入退院支援加算』の算定を目標に、委員会活動を通じて各病棟の退院支援システムのフローチャートの作成を行い、これまでの退院支援・退院調整のシステムの再構築・強化に取り組んだ。また、MSWと協力し、担当病棟で毎日入院時カンファレンスを行い、患者の退院困難となる課題について検討、問題の早期把握・介入に努めた。

2) 訪問看護との連携強化と患者・家族が安心して退院後の生活に臨めるよう、退院後訪問も試みた。導入した患者・家族からは、安心できたという声が聞かれ、訪問看護師とよい連携が図れた。また、退院後訪問には病棟看護師が同伴、患者・家族指導の中心を担うようにし、訪問の振り返り場面を共有することで、病棟看護師の退院支援における生活の視点を培う一助となった。

3) 地域との連携の為に、今年度も各研修会や会議に積極的に参加するよう心がけた。また、湖南圏域における入院・退院安心ロードを参考に、当院の退院時サマリーの再検討を当部署中心に行った。

〈活動実績〉

〈患者・家族との面談・指導件数〉	4143件
〈地域関係者との連携指導〉	301件
〈退院前拡大カンファレンス〉	110件
〈退院前訪問〉	16件
〈退院後訪問〉	1件

【医療福祉相談課】

医療福祉相談係としては社会福祉士7名にて相談業務を行っている。相談内容としては多岐にわたり、様々な悩みを抱えた患者・家族の話を傾聴し、安心して在宅生活・地域生活を送れるように支援している。最近の動向として患者の若年化や社会背景が複雑であることから、相談員一人の力で支援するというよりも、院内・院外が多職種関係者との連携にも重点をおき、チームとし支援にアプローチしているケースが多い。

連携のスムーズさにも繋げる為、H28年度は院外の研修にも積極的に参加をしている。ソーシャルワーカーとしての最良の実践を行う為に援助方法の改善と専門性の向上を図る。また報告の場を設けることによって、フィードバックと部門内での情報共有、思考力・構成力・表現力を高める。

業務内容

- ・生活課題についての総合相談
- ・医療費や生活費などの経済的な問題への支援
- ・介護保険施設への退院調整
- ・他病院への転院調整

- ・在宅退院に向けての支援
- ・高齢者福祉、障がい福祉、児童福祉についての相談援助
- ・がん相談支援、療養上の社会支援
- ・虐待相談援助
- ・自殺未遂者相談援助

〈活動実績〉

相談件数	5632件
------	-------

【分類】

高齢者	3678件
障がい（身体・精神・知的）	456件
難病	60件
障がい（身体・精神・知的）	456件
妊産婦、小児	40件

【相談内容】

経済的支援	315件
成年後見・権利擁護	138件
虐待相談	23件
がん相談	11件

※件数は重複する物を含む

臨床研究・治験センター

事務局 長：副院長兼心臓血管・心不全センター長 和田 厚幸、他スタッフ 4名

副事務局 長：薬剤部部長 鷹羽 頼勝、他薬剤師2名、事務1名

1. 概要

平成20年9月に新規開発治験の実施体制を確立すべく設立された。平成29年は各SMOと連携し新規治験12件を含む21件の治験を遂行した。中でも以前からの課題であった循環器内科以外の診療科で合計8件の治験を新たに開始できたことは、大きな前進であると考えている。

臨床研究にも積極的にに関わり、同意文書の作成および説明の補助、計画書の作成および説明の補助、症例報告書の作成補助等、院内クリニカルリサーチコーディネーターとして医師の臨床研究参画へのサポートも行った。治験や臨床研究により得た研究費

の一部は、学術関連費として当該実施科協力担当部署で還元し、今後の知識レベル、意欲向上につながることを期待している。今後、院内スタッフへのより一層の周知を図るべく研修等の企画の立案実施を行っていく。

倫理委員会事務局としての業務も担っており、今年度は、迅速審査を含む合計28件の倫理審査を行った。

当センターは、今後とも開発治験及び臨床研究の活性化を図り、より質の高い医療の提供および院内スタッフの意欲向上に繋がるよう、サポート体制を構築していきたいと考える。

2. 主な業務、活動内容

<治験関連業務>

治験受託関連業務、製造販売後調査依頼窓口、契約等諸手続き対応業務

モニタリング・監査の対応（必須文書の管理）

各種手順書の作成・改訂

治験審査委員会事務局業務

治験実施状況の把握

治験施設支援機関（SMO）CRC管理

SMO.CRCと医師や院内スタッフの協力体制の構築

CRC不在時のフォロー

部門間調整

治験薬管理

<臨床研究関連>

同意説明文書作成補助、同意説明補助

スケジュール管理

症例報告書の作成補助

<治験審査委員会事務局関連業務>

<倫理委員会事務局関連業務>

<2017年度新規、継続治験>

・（循環器内科）SAR236553/REGN727【継続治験】

【急性冠症候群発症後の患者を対象として心血管イ

ベントの発現率に対するAlirocumab（SAR236553/REGN727）の効果を評価するランダム化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較試験】

・（循環器内科）RLX030【継続治験】

【急性心不全患者を対象にserelaxinを標準治療に追加した時の有効性、安全性、及び忍容性を評価する多施設共同、ランダム化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験】

・（循環器内科）BIBR 1048 MS（ダビガトランエテキシラート）【継続治験】

【ステント留置を伴う経皮的冠動脈インターベンション（PCI）後の非弁膜症性心房細（NVAf）患者を対象に、二剤併用抗血栓療法（ダビガトランエテキシラート）[110mg 1日2回又は150mg 1日2回]、及びクロピドグレル又はticagrelor）と三剤併用抗血栓療法（ワルファリン [INR2.0～3.0]、クロピドグレル又はticagrelor、及びアスピリン）を比較評価する前向き、ランダム化、オープンラベル、エンドポイント盲検化（PROBE）試験（RE-DUAL PCI）】

・（循環器内科）LCZ696【継続治験】

【左室駆出率が低下した日本人慢性心不全患者の

morbidity及びmortalityに対するLCZ696の有効性および安全性をエナラプリルと比較検討する多施設共同、ランダム化、二重盲検、並行群間、実薬対照比較試験】

- ・(循環器内科) ONO-1162【継続治験】
【ONO-1162第Ⅲ相試験 慢性心不全に対するプラセボを対象とした多施設共同二重盲検無作為化並行群間試験】
- ・(循環器内科) BAY59-7939【継続治験】
【冠動脈疾患を合併した非代償性心不全発現後の心不全患者における全死亡、心筋梗塞及び脳卒中発症の抑制に関して、プラセボを対照としたリバーロキサバンの有効性及び安全性を検討することを目的とした無作為化、二重盲検、イベント主導型、多施設共同試験】
- ・(循環器内科) LCZ696【継続治験】
【左室駆出率が保持された心不全患者（NYHA心機能分類Ⅱ～Ⅳ）を対象にLCZ696のmorbidity及びmortalityに対する有効性、並びに安全性をバルサルタンと比較検討する多施設共同、ランダム化、二重盲検、並行群間比較、実薬対照試験】
- ・(循環器内科) DU-176b【継続治験】
【DU-176b第Ⅲ相臨床試験（非弁膜症性心房細動）—既存の経口抗凝固薬の投与が困難な80歳以上の非弁膜症性心房細動患者を対象とした多施設共同無作為化プラセボ対照二重盲検比較試験】
- ・(腎臓内科) JR-131【継続治験】
【JR-131の血液と咳施行中の腎性貧血患者を対象とした長期投与試験】
- ・(循環器内科) ダパグリフロジン【新規治験】
【収縮性が低下した心不全患者における心不全の悪化または心血管死の発現に対するダパグリフロジンの効果を検討する試験】
- ・(腎臓内科) ZS【新規治験】
【日本人高カリウム血症患者を対象としたZS（ジルコニウムナトリウム環状ケイ酸塩）の有効性及び安全性を検討する多施設共同、用量反応、第Ⅱ相/第Ⅲ相試験】
- ・(消化器内科) PF-06425090【新規治験】
【50歳以上の成人を対象にクロストリジウム・デフィシルワクチンの有効性、安全性および忍容性を評価する第Ⅲ相、プラセボ対照、無作為化、観察者盲検試験】

- ・(産婦人科) NS-580【新規治験】
【子宮内膜症を対象としたNS-580の探索試験（前期第Ⅱ相）】
- ・(循環器内科) エンパグリフロジン110【新規治験】
【駆出率が保持された慢性心不全（HFpEF）患者を対象としてエンパグリフロジン10mg 1日1回投与の有効性及び安全性をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検試験】
- ・(循環器内科) エンパグリフロジン121【新規治験】
【駆出率が低下した慢性心不全（HFrEF）患者を対象としてエンパグリフロジン10mg 1日1回投与の有効性及び安全性をプラセボと比較して評価する第Ⅲ相、無作為化、二重盲検試験】
- ・(循環器内科) AMG423【新規治験】
【左室駆出率が低下した慢性心不全患者を対象に死亡及び羅病に対するomecantiv mecarbilの有効性及び安全性を評価する二重盲検無作為化プラセボ対照多施設共同試験】
- ・(糖尿病・内分泌内科) CS-3150【新規治験】
【CS-3150第Ⅲ相試験—微量アルブミン尿を有する2型糖尿病患者を対象としたCS-3150のプラセボ対照二重盲検比較試験】
- ・(腎臓内科) MT-6548-J01【新規治験】
【MT-6548の保存期慢性腎臓病に伴う貧血患者を対象とした第Ⅲ相検証的試験 {ダルベポエチンアルファ（遺伝子組換え）を対照薬とした非盲検比較試験}】
- ・(腎臓内科) MT-6548-J02【新規治験】
【MT-6548の腹膜透析を実施中の慢性腎臓病に伴う貧血患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験】
- ・(腎臓内科) MT-6548-J03【新規治験】
【MT-6548の血液透析を実施中の慢性腎臓病に伴う貧血患者を対象とした第Ⅲ相検証的試験 {ダルベポエチンアルファ（遺伝子組換え）を対照薬とした二重盲検比較試験}】
- ・(腎臓内科) MT-6548-J04【新規治験】
【MT-6548の血液透析を実施中の慢性腎臓病に伴う貧血患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験】

<医薬品など製造販売後調査の受託状況>

平成29年度は、27件の新規契約があり、継続中のものを含めると64件である。

労働安全衛生課

課長 上野 剛久

1. 概要

労働基準法・労働安全衛生法・関連法等に鑑み、職場における危険有害要因を除去又は低減し、労働に起因する健康障害を防止するのみならず、労働者の健康の保持増進を図り快適職場の形成を図っている。

労働者が心身ともに健康で元気に働けることは、病院の発展にとって不可欠である。特にメンタルヘルスケアの推進に当たっては、労働者の意見を聞きつつ事業場の実態に即した取り組みを行うことを心がけ、「ストレスチェック」「セルフケア」「ラインケア」「事業場内産業保健スタッフによるケア」「事業場外資源によるケア」を活用し実践しているところである。

当課はその使命として、労働者のメンタルヘルス

問題含む多くの調査及び実践報告を行いその成果を蓄積し、意欲を持って仕事に取り組むための支援に活用している。

「労働衛生委員会」は、法に基づく労使の委員（労働者側代表5名、使用者側代表6名）で構成され活発な議論が行われている。

「いきいきくさまる隊」は労働者代表を中心とした会議で“病院従事者、利用者、病院経営がWIN-WIN-WINとなるような好循環を作る”を掲げ、労働衛生委員会と連携し労働衛生水準の向上を目的に活動している。

「働き方改革関連法」に則した36協定や就業規則など、届出も速やかに行っている。

2. 活動実績

- ・労働衛生体制の確立：衛生管理者、産業医、保健スタッフ（4月）
- ・健康の保持増進啓発：健康管理（4～5月：一般健康診断、11～12月特殊健康診断）
- ・メンタルヘルス対策（THP）啓発（随時）
- ・ストレスチェックの実施、報告（毎年：6～7月）
- ・産業医の職場巡視同行、報告（隔月：1回以上）
- ・産業医の労働者面談調整、報告（随時：高ストレス者、過重労働者、等）
- ・衛生管理者による職場巡視の実施、結果報告（毎週：1回以上）
- ・健康障害対策（職業性疾病、作業環境管理、作業環境測定、等）
- ・職場長へ過重労働者の解決依頼、周知（毎月：有休取得、時間外、乖離、滞留）
- ・労働衛生委員会の開催（毎月）
- ・いきいきくさまる隊会議の開催（毎月）
- ・労働局への届出（随時：36協定、就業規則等）

- ・労働局からの相談対応窓口（随時：ハラスメント等）
- ・キャリアカウンセリングなどの就業支援（随時）
- ・「職員ご意見箱」への対応と回答、報告（毎朝確認、回答随時）

（参考）労働者の健康を守る視点から産業医、衛生管理者の巡視を実施している。

- ・5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、躰）
- ・室内環境（温度、湿度、照度、CO₂）
- ・生物要因（事故予防策の実施）
- ・科学要因（化学物質の管理、暴露防止対策）
- ・作業環境（転落防止、整理整頓、働きやすさ）
- ・作業管理（腰痛・頸肩腕痛防止対策、時間外労働、休憩時間の確保）
- ・過重労働（有休取得、時間外、乖離、滞留時間）、休憩室ほか

経営管理局 総務部 総務課 総務係・災害対策係

経営管理局長 黒田 吉則

課長 三原 弘史

課長 下田 渉

課長代行 西村 恵美

課長代行 藤本 路子

その他課員 8 人

1. 概要

総務には定型的な業務以外に、日々様々な業務が発生するため、臨機応変な対応が求められます。

(主要業務)

- ① 文書管理に関する事。
- ② 庶務に関する事。
- ③ 業者委託契約書の保管、管理に関する事。
- ④ 入院患者の不在者投票に関する事。
- ⑤ 病院施設利用に関する事。(駐車場、浴室、当直室、霊安室、図書室の管理に関する事)
- ⑥ 病院廃棄物(感染性廃棄物、産業廃棄物等)に関する事。
- ⑦ 緊急連絡網の作成及び見直しに関する事。
- ⑧ 各種予防接種等、予防業務全般に関する事。
- ⑨ 職員の健康及び衛生管理に関する事。
- ⑩ 個人情報保護、企業内同和問題等人権問題に関する事。
- ⑪ 出張申請・旅費の管理に関する事。
- ⑫ 電話交換業務に関する事。
- ⑬ 病院内PHS・スマートフォンの管理に関する事。
- ⑭ 関係機関・行政との連絡、調整、手続きに関する事。
- ⑮ 職員及びその家族の葬儀に関する事。
- ⑯ 他部門の所掌に属さない業務に関する事。
- ⑰ 院内規程の管理および見直しに関する事。
- ⑱ 補助金の統括管理に関する事。
- ⑲ 各種保険の契約に関する事。
- ⑳ 社会医療法人に関わる届出等に関する事。
- ㉑ 病院機能評価に関する事。
- ㉒ 委員会の管理に関する事。
- ㉓ 広報(院内広報、院外広報)に関する事。
- ㉔ 院内掲示物・表示に関する事。
- ㉕ 広報を目的とした報道機関(マスコミ)との連絡・調整に関する事。
- ㉖ サイネージの管理・運用に関する事。
- ㉗ ホームページに関する事。
- ㉘ 病院イベントに関する事。
- ㉙ ボランティア等に関する事。
- ㉚ 理事長代行・病院長の秘書業務に関する事。
- ㉛ 災害医療規程・計画・マニュアル等の修正に関する事。

2. 主要な活動実績

- ・滋賀県赤十字血液センター「愛の献血」
- ・地域と誠光会ふれあいの集い
- ・草津市幼児課研修会
- ・老上学区ボランティア連絡協議会研修会
- ・サマーフェスティバル
- ・広報誌あおばなの発行 4 回/年
- ・びわこ放送『きらりん滋賀』の番組内「あおばな健康教室」…… 6 回
- ・誠光会ホームページリニューアルに向けた調整
- ・病院ホームページ管理・更新
- ・病院SNS管理・更新
- ・年報制作
- ・出前講座…25回(参加人数1,135名)
- ・その他パンフレット、チラシ等作成
- ・あおばなコンサート…17回
- ・誠光会合同文化祭
- ・世界糖尿病デー
- ・五月節句、七夕、クリスマス、ひなまつりイベント
- ・その他イベントの企画運営

3. 論文・著書

1. 藤本路子：「戦略的広報」の実現のために地域から選ばれるためのコミュニケーション活動 医療タイムス 週刊医療界レポート：NO.2342：21-23, 2018. 3. 12

経営管理局 総務部 医療法務課

課長 岩澤 千代子 他スタッフ 2名

1. 概要

当院をご利用いただいている皆様のご意見・ご要望をお聞かせいただくために院内8か所に「ご意見箱」を設置しています。

皆様からいただいた貴重なご意見を今後の病院運営の参考にさせていただいております。

2. 活動実績

《主な活動》

- ・当院の患者さんが安心して医療サービスを受けられる環境を整備できるよう質的向上を目指し、ご意見の収集・相談等の業務を行っています。
- ・お聞きした内容を該当所属長へ情報提供を迅速に

行い、改善・再発防止に向けた対策に努めています。

- ・いただいたご意見の回答を院内の掲示板にてご案内しています。

《投書内容の件数》

平成29年度4月～平成30年度3月

2017	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
お褒め	6	2	4	2	7	7	13	16	5	10	12	6	90
要望	24	4	10	11	14	4	22	17	6	10	16	15	153
苦情	9	9	10	14	13	10	12	22	8	9	16	9	141

経営管理局 人事部 人事課

課長 下田 渉 他スタッフ 6名

1. 概要

○求人、○採用・退職・異動、○給与・賞与、○就業規則・労務管理、○人員管理（派遣含む）、○人件費管理、○社会保険・労働保険、○安全衛生、○労災手続、○職員寮、○行政への報告、○証明書発行、○医師に関する免許・指定医管理、○医師会の

入会・退会、○免許・資格管理、○施設認定（学会等）、○看護師奨学金、○各種補助金、○院内保育所、○ハラスメント相談窓口、○その他人事課業務に関すること

2. 活動実績

職 種	採用	退職
医師	22	17
初期研修医	6	2
看護師・准看護師	67	51
介護福祉士・看護補助者	21	16
コメディカル	26	14
事務他	28	15
合計	170	115

常勤のみ・H29.4.1～H30.3.31

※コメディカル＝薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、視能訓練士、管理栄養士
※事務他＝一般事務、診療報管理士、社会福祉士

（MSW）、保育士、医師事務作業補助者、CRC（非医療職）、診療補助、保育補助

- ・4月定期昇進の開始（H29.4）
- ・日祝日予約送迎バス廃止に伴う交通費精算制度開始（H29.4）
- ・障害者支援センターとの連携による障害者雇用の確保（法定雇用率充足）
- ・公休繰り越しの適正化（H29.9）
- ・過重労働者の産業医面談開始（随時）
- ・院内保育所閉所時間の導入（H29.10）
- ・パワーハラスメント研修の開催（医師向け：H30.2、全職員向け：H30.3）
- ・労働契約法改正によるパートナー職員（無期社員）の導入（H30.3）
- ・職員寮「カーサ・アムール」返還（H30.3）

1. 概要

購買課では誠光会で使用される医療機器、診療材料、事務用品、日用消耗品、被服等あらゆる物品の「購入」および「在庫管理」を日々行っているため、膨大な材料の購入と在庫管理の責任部署として病院経営上重要な役割を担っている部署です。当部署は医療機器、材料を通じて直接臨床を支援する部署であることから、医師をはじめ様々な職種の職員とのコミュニケーションを大事にし、満足な診療が行え

るようサポートしていくことが、より良い医療を提供することに繋がると考え日々業務にあたっております。

また定期的に院内でのロボット機器や介護用品の展示会を開催しております。最新の情報を発信し、地域の方々にもっと病院を活用していただければと願っております。

2. 主要な診療実績

1. 各種経費の削減
2. 購入物品の標準化
3. ロボット機器・最新介護用品展示会開催
4. 福利厚生の充実
5. 医療機器購入委員会開催

経営管理局 購買部 中央材料室

主任 澤井 智 他スタッフ 9名

1. 概要

中央材料室は、各種滅菌器〔高圧蒸気滅菌器・低温蒸気ホルムアルデヒド（LTSF）滅菌・過酸化水素ガス低温滅菌・酸化エチレン（EOG）滅菌〕及びウォッシャーディスインフェクター（WD）を有しており、病棟や外来での処置を行う際や手術室にて使用されている一般鋼製小物等（単回使用医療機器を除く）を、適切な処理を行った後安全で安心できる滅菌物を供給していく為、患者様に使用された機器の洗浄・消毒を中央化にて行い、適切な滅菌方法を選定して滅菌処理を行い各部署へと供給しております。

年末年始に高圧蒸気滅菌器・WDの更新に伴い、

患者様及び職員の安全性と環境的な事を考えLTSF滅菌を導入し、今年度より本格的にEOG滅菌からの切り替えを開始いたしました。

また、鋼製小物の点検・修理等を中央材料室が行う事により、修理物品の経過や履歴を分かりやすくし、修理不能や劣化した際の更新時にはメーカーの統一化を図り、余剰在庫の削減や在庫定数の整理に努めております。

職場には滅菌技師・士（第1種滅菌技師 1名・第2種滅菌技師 1名）が在職しており、より専門職としての滅菌業務の質を向上させさらなる安全性向上を目指して取り組んでおります。

2. 主要な活動実績

1. 低温蒸気ホルムアルデヒド（LTSF）滅菌の本格的運用
2. 再生使用医療機器（一般鋼製小物等）の点検・修理及び更新
3. 病棟・外来の滅菌物（一般鋼製小物）の現状確認と在庫定数の見直し

経営管理局 購買部 資産管理課

課長代行 仁志出孝春

1. 概要

資産管理課では、資産管理業務（現状では、部屋のレイアウトの変更、部署移動、変更に伴う物品の管理等）を行っています。転用物品が出たら他部署等へ転用、有効活用・利用し、しいてはコスト削減につながるよう日々、努力しています。今後は、資産管理システムを基に、病院全体の物品の集約を開

始し、資産管理台帳の作成をする予定です。

また、リネン係では、病棟への洗濯物の洗濯、病棟への配茶、さらにパジャマ、シーツ等、各病棟のリネン定数管理等、リネン全般に関する事の看護補助者の負担軽減のための業務をしています。

2. 主要な診療実績

1. 転用物品の有効活用・利用
2. リネン（パジャマ、シーツ等）の定数管理

経営管理局 施設管理部 施設管理課・車両管理課・防災センター

部長 小林秀豪

副部長 草野元延

課長代行 西田信哉、藤田和彦、木村健一 他スタッフ12名

1. 概要

施設管理部は法人組織の配下となり、法人内の3施設（草津総合病院・草津看護専門学校・草津ケアセンター）を担当しております。

また施設管理部は、送迎業務も担当しており、透析患者送迎、転院搬送、マイクロバスでの外来患者送迎、職員送迎も施設管理部で行っております。

施設管理課は、施設内設備機器の運転・監視・維持管理や備品修理などの営繕作業を主業務としてい

ます。

車両管理課は、法人が所有する車両の維持管理や送迎業務の配車管理、職員に対する安全運転講習を主業務としています。

防災センターは、施設内の防火設備の維持管理や消防訓練の企画立案・訓練実施、消防設備機器の修理・更新などの業務に携わっています。

3. 実績

院内の照明を約90%程度LED照明にし省エネを図る

新規入職者に対する防災教育

消防訓練（年2回）

安全運転教育

医療ガス研修会

課長 高橋 国治 他スタッフ 2名

1. 概要

平成29年度法人全体のkeywordは『開拓、深化、成熟への挑戦と明るい未来』であり、経営企画・管理課テーマ『変化と進化』を掲げ ①【学習の視点：外部研修を通して個人スキルアップを図り、経営企画管理課の発展に貢献する】 ②【質の視点：アメーバ経営活動の中で、他部門と連携し、医療・介護の

質改善の取り組みを行う。】 ③【財務の視点：アメーバ経営を通じて各部門に法人全体・各部門の収支状況を分析し改善輕装を行う。】 ④【業務プロセスの視点：経営企画管理課内の情報共有を密に行い、ムリ・ムラ・ムダをなくし、業務の効率化・均一化に繋げる。】を軸に運営を行った。

2. 活動実績

①学習の視点：院外研修の報告内容をより日々の現場で実践できるように、報告制度の改善を行い、部門別ミーティング時に現場の課題解決に活かせるように実施した。（通期：スタッフ年4回実施）
人事、介護、広報、購買、財務、看護（教育）カリキュラム作成し各テーマ別に業務内容から現代に求められる各セクションの役割と責任に対する理解を深めた。（4月～2月実施）

②質の視点：看護局に対して、『顧客志向型の経営戦略』といったテーマで年2回の研修を実施。
③財務の視点：マンスリーレポートの項目修正。
④業務プロセスの視点：部門管理のデータフォルダの整理（毎月実施）、個人別タイムスタディーを実施し結果より、業務スタイルの変更を行い、総労働時間の短縮の成果は大きくあった。

経営管理局 財務部 財務課

次長 伊藤 幸也 他スタッフ 3名

1. 概要

財務部は4人のスタッフで運営しており、会計・経理・財務の業務分掌に分かれております。

日常の会計から経理業務、月次決算、年間決算、資金調達、財務リスク管理、財務分析、資金管理、投資シミュレーションなどお金に関わることを幅広く業務として担っています。

また、事業計画や中期に亘るプロジェクトなどの企画・策定なども行っており、CSR活動上のトリプ

ルボトムライン「経済（＝当期純利益）、環境（＝資源節約等）、社会（＝雇用創出やワークライフバランス等）」を意識した戦略的財務セクションを目指しております。

2. 主要な活動実績

H29.5.26 理事会・社員総会における平成28年度決算の承認 他

H29.6.30 平成28年度事業報告・決算届の滋賀県監査

H29.8.4 理事会における平成29年度第一四半期業績の報告 他

H29.11.16 理事会・社員総会における平成29年度半期決算の報告と承認 他

H30.3.2 理事会・社員総会における中期事業計画案並びに新規事業計画の承認

経営管理局 医療業務部 医事課

市来 史暢 他スタッフ 22名

1. 概要

今年度は、医事課体制が大きく変わり請求業務の質向上・人材育成の強化に取り組みました。積極的に新規の施設基準を取得することで、収益向上にも貢献できたと考えております。また、近畿厚生局による適時調査も返還金無く、無事に終えることができました。

医事課の業務内容は多岐にわたっており、患者様に最初と最後に接する部門です。“病院の顔”とし

て笑顔で患者様をお迎えし、また、適切な請求業務を行うことで病院経営に資する存在であるために、引き続き努力してまいります。

【主な業務内容】

診療報酬レセプト請求、患者窓口負担請求、未収金管理、返戻・増減点管理、自賠責請求、労災保険請求、公費請求、受付業務、救急受付業務、会計窓口収納、各種文書取扱、来院客案内業務、館内放送、その他

2. 活動実績

平成29年 6月19日～7月15日

大阪医療秘書福祉専門学校 実習生 2名

平成29年10月20日

保険診療研修会開催（全職員対象、当院）

平成29年 7月24日～8月18日

大阪医療技術学園専門学校 実習生 1名

平成30年 1月24日

保険診療研修会開催（全職員対象、当院）

平成29年 9月11日～9月15日

大和学園 京都栄養医療専門学校 実習生 1名

平成30年 3月27日

保険診療研修会開催（全職員対象、当院）

平成30年 6月18日～7月13日

大阪医療秘書福祉専門学校 実習生 2名

平成30年 9月21日

保険診療研修会開催（全職員対象、当院）

平成30年 7月23日～8月17日

大阪医療技術学園専門学校 実習生 1名

平成30年11月20日

医事研究会開催（滋賀県内病院対象、当院）

平成30年 8月27日～9月15日

大和学園 京都栄養医療専門学校 実習生 1名

平成31年 3月1日

保険診療研修会開催（全職員対象、当院）

経営管理局 情報システム部 情報システム課

課長代行 中村 健一 他スタッフ 3名

1. 概要

情報システム課は、病院内の医療情報システムの安定稼動、各部署の業務の効率化に向けての整備・運用を行っています。法人としての組織体制も含まれており病院だけではなく、草津ケアセンターのシステムや端末の整備など業務の種類としても多様化してきました。

平成28年1月に入れ替えを行った電子カルテシステムも安定性の向上、業務の効率化と障害件数の低減を目指すこととなりました。それに加え、上記の草津ケアセンターにおける端末の適正化が課題となってきました。業務の効率化を考えると、端末台数は必須です。ただし、台数を増やせば増やすほどコストとしても増えていくのが必然です。どこの施設や企業においても課題なのではと思います。

ネットワークに関しても部署の移動や増設に伴う配線の複雑さにより障害に対する対応の遅延を防ぐ

必要が出てきました。シンプルにLAN1本に対して1端末というような構成が理想ですが、開院時やシステム更新時での施工ではない場合は難しいのが現実です。どの配線がどこに繋がっているのかなど現場の調査を含め少しずつ整備を行いました。

又、部門システムが多くデータが多様化してきており、電子カルテシステムだけではまかなうことが出来ない部分が多く、データの抽出などにおいてもなかなか出せないなどの課題があります。専門的なシステムは部門において便利になる一方でイニシャルとランニングコストも増え、データの統合問題など解決すべき問題が山積みのように感じます。極力派生するシステムを減らし、電子カルテシステムに統合していけるようなシステム構成が安定性も高くバランスのとれた医療情報システムなのではないかと思っています。

2. 活動実績

主な活動内容

- ・ 部署の移動、増設、外来の再編や病棟の再編に伴う端末の移動、配線の取り回し、設定作業。
- ・ 内部からの持ち出し、外部からの持ち込みに対するセキュリティ強化。
- ・ 運用変更、システム改修要望の検討。
- ・ ネットワークの整備。
- ・ 旧システム系端末の整備。
- ・ 電子カルテの不具合対応。
- ・ ヘルプデスク対応。
- ・ 故障（不具合）端末の交換等対応。
- ・ その他情報システム系対応。

Ⅲ－５． 病院併設(介護事業)

通所リハビリテーション

所長 遠藤 揚子 他スタッフ 14名

1. 概要

通所リハビリテーションとは、地域包括ケアシステムにおいて、地域や在宅生活を支えるリハビリテーション拠点として役割を担うもので、現在、草津総合病院通所リハビリテーションでは医師、リハビリ専門職（PT）3名、看護師3名、介護福祉士9名の多職種協働によるチームアプローチで生活機能低下、社会活動の維持向上、介護者等の家族支援、医療対応など多機能にわたり対応している。9時45分～16時までの提供時間で要支援1～要介護5を対象とし、約80名の登録利用者があり25人～30人/日の利用者へ対応してきた。

一日の活動を通じて、移動・食事・排泄・入浴等の実践場面へのアプローチ、動作や介助方法についての助言、活動や参加に向けて外出練習や居宅訪問

など地域の皆さまの自立支援に向けた取り組みとして、直接的な生活場面での関わりが重要と考え活動を積極的に行っています。

医療と介護の連携の中で、病院と自宅生活のギャップは大きく、退院後スムーズに在宅生活に適應できるように支援することが役割。退院後のリハビリが適切な内容で行われないことで、利用者は自宅での活動度が上がりず廃用症候群を引き起こしてしまう。これを予防することも重要な使命であり、病院と連携して退院患者への早期のリハビリテーション実施の実現のため、今年度は病棟へ出向いてシームレスな連携強化の活動を積極的に行ってきた。

2. 活動実績

平成29年度

・年間 新規利用者数	52人
・年間延べ利用者数	7169人
・依頼元 居宅介護支援事業所	36事業所

居宅介護支援事業所ふれあい

課長代行 主任介護支援専門員（歯科衛生士） 今井 龍子 他スタッフ 6名

1. 概要

(1) 居宅介護支援とは

要介護（要支援）認定を受けた草津市内にお住まいの方々に対し介護保険サービスや地域資源を利用し、住み慣れた自宅や地域で本人やご家族の望む暮らしが送れるように病院内にある居宅介護事業所の介護支援専門員（ケアマネージャー）が相談に応じ介護サービス計画（ケアプラン）を作成いたします。

(2) 相談内容

在宅介護に関する相談
介護保険利用についての相談
介護保険認定申請代行
認知症に関する相談
入院患者様の退院支援の調整
当事業所の特徴として

病院内の医師や継続看護課、医療福祉相談員、各病棟や担当セラピストらと退院後の生活に向けてより緊密に連携し計画調整しております。

2. H29年度の利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護給付	71	76	73	72	77	77	75	78	83	84	88	96	950
予防給付	15	15	16	16	14	18	16	20	19	19	19	18	205
合計	86	91	89	88	91	95	91	98	102	103	107	114	1,155

3. H29年度研修実績

介護支援専門員は、医療・福祉・介護など多岐に渡る相談支援に携わることから院内・院外の研修参加や資格の更新が義務付けられています。

また地域包括ケアシステムの構築の一翼を担う役割も期待されるなか知識や技術の研鑽に努めています。

1	口腔ケア研修会	H29.4.14	勝嶋・高井
2	大津市認定調査研修会	5.17	勝嶋・高井
3	法改正・法令順守・倫理研修	5.19	今井
4	下剤に頼らない排便のケア	5.28	高井
5	シェア金沢の実際	6.3	勝嶋
6	地域包括ケアに関する研修会	6.14	全員
7	老上西学区の医療福祉を考える会	6.26	高井・今井
8	主任介護支援専門員フォローアップ研修会	7.1、6、20	今井
9	小規模多機能型居宅介護	7.20	勝嶋
10	管理者業務、自立支援型ケアマネジメント	7.26	今井
11	地域ケア会議	8.17、9.21	高井
12	滋賀県肝炎医療従事者研修会	9.30	高井
13	難病患者災害対策従事者研修会	10.4	高井
14	草津市ゲートキーパー養成研修	10.6、12	高井
15	権利擁護研修	10.26	高井・橘
16	介護支援専門員専門課程Ⅱ	10.10	高井
17	老上・老上西学区の医療福祉を考える会議	10.30	今井
18	大津市介護予防支援担当者研修	11.13	勝嶋
19	老上地域包括事例検討会	11.15	高井
20	精神的問題を抱える家族への対応	11.15	勝嶋
21	草津市認知症ケアマネジメント研修会	11.20	橘・高井・今井
22	要介護改善研修会	11.22	今井
23	呼吸器系難病医療講演会	11.22	高井
24	摂食・嚥下リハビリテーション	12.12	高井
25	H29年度地域同行型実地研修	9.14、12.12	高井
26	草津市ケアマネジメント研修（地域ケア会議）	H30.1.22	今井
27	改定に向けた最新情報のとりまとめ	1.24	帯刀
28	南草津病院地域RH合同勉強会	2.7	坂田
29	老上西学区の医療福祉を考える会議	2.19	高井
30	H29年度管理者等研修会	2.20	今井
31	高齢者・障害者の生活を守る成年後見制度	2.24	勝嶋・坂田・今井
32	在宅移行が可能となった末期がん患者の検討	3.15	今井
33	認知症の症状を理解したケアの実践のために	3.8	今井
34	草津市在宅医療啓発市民講座	3.18	今井

35	第2回在宅死亡に関する研修会	3.21	今井
36	H30年4月介護報酬改定の概要について	3.31	今井

訪問看護ステーション

管理者 関口明美 他スタッフ 看護師 6名（非常勤 1名） 理学療法士 1名

1. 概要

病院に併設されているステーションではありますが、地域と連携を取りながら地域医療の発展充実に貢献するよう努めています。

2. 活動実績

のべ訪問回数（介護）	3137件
のべ訪問回数（医療）	1236件
総訪問回数	4373件
利用者数	806名
スタッフ	6.3人（稼働5.2）
一人当たり訪問回数	69.4
売り上げ合計	35,275,217円

委員会構成一覽

【法定委員会】			
1	労働安全衛生委員会	7	倫理委員会
2	輸血療法委員会	8	治験審査委員会
3	医療ガス安全管理委員会	9	医療安全管理委員会
4	防火・防災管理委員会	10	感染対策委員会
5	放射線安全管理委員会	11	褥瘡対策委員会
6	個人情報管理委員会		
【専門委員会】			
12	N S T管理委員会	25	外来運営委員会
13	栄養管理委員会	26	がん化学療法委員会
14	臨床検査運営委員会	27	放射線運営委員会
15	臨床研修管理委員会	28	緩和ケア推進委員会
16	診療情報管理委員会	29	災害医療対策委員会
17	情報システム管理委員会	30	病棟運営委員会
18	薬事審議委員会	31	業務改善・T Q M委員会
19	DPC管理委員会	32	広報委員会
20	がん診療機能整備委員会	33	学術委員会
21	医療機器購入委員会	34	地域医療連携促進委員会
22	救急医療運営委員会	35	クリニカルパス委員会
23	手術室・中央材料室運営委員会	36	医療機器安全管理委員会
24	集中治療室運営委員会	37	リスクマネジメント委員会
【専門委員会】			
38	ハラスメント委員会	42	透析機器安全管理委員会
39	医薬品安全管理委員会	43	RST委員会
40	レセプト委員会	44	電波利用安全管理委員会
41	脳卒中ケアユニット運営委員会		

労働衛生委員会

(労使：使用者側代表委員 5 名・労働者側代表委員 6 名)

目 的

- ①労働災害防止や健康障害防止の対策、職場の労働衛生体制を確立すること。
 - ②健康の保持増進を図り、意欲を持って仕事に取り組むための支援を実施すること。
 - ③職員の意見・要望を把握し、快適な職場環境を整備すること。
- (労働者の健康支援・働きがいの向上、働き方・休み方の改善、職場環境整備)

活動実績

- ・新規採用者雇入時健康診断の結果報告（法定）
- ・定期健康診断及び特定業務従事者健康診断の結果報告（法定）
- ・労働災害発生件数の集計、結果報告
- ・産業医巡視の結果報告（法定：偶数月）
- ・産業医面談の結果報告（随時：高ストレス者、過重労働者、等）
- ・衛生管理者職場巡視の結果報告（法定：毎週全職場）
- ・衛生管理者による一般環境測定の結果報告（法定：毎月全職場）
- ・ストレスチェックの結果報告（法定：6～7月）
- ・EAPサービスの結果報告（産業カウンセラー、臨床心理士）
- ・キャリアカウンセリングなどのよろず相談、就業支援計画、結果報告
- ・いきいきくさまる隊より、福利厚生への配慮や労働環境改善提案、啓発報告

輸血療法委員会

目 的

診療における輸血療法が、安全かつ適正に行われるべく検討、研究、改善を図ると共に病院の円滑な運営と発展に資するものとする。

活動実績

- ・輸血後感染症患者リスト、案内状の作成
- ・化学療法（アブラキサン）同意書の変更、作成
- ・医療安全研修会の開催
- ・アルブミン研修会の開催
- ・初回輸血時の血液型検査 2 回目算定開始
- ・アルブミン製剤変更に伴う運用方法の取り決め
- ・輸血適正使用加算Ⅱの算定開始

医療ガス安全管理委員会

目 的

医療ガス（診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

活動実績

- ・医療ガス設備の保守点検及び修繕工事の立会い
- ・医療ガスに関する知識の普及

防火・防災管理委員会

目 的

院内における火災事故の予防と、台風や地震等の自然災害発生時の人命の安全確保、被害の軽減を図ることを目的とする。

活動実績

研修会：10月11日 自衛消防訓練大会参加（湖南防火保安協会主催）

消防訓練

5月13日 春季訓練（新入職員を対象とした消火と避難を主体とした訓練）

防火DVD視聴・消火器及び消火用補助散水栓の操法、避難誘導等の説明

10月14日 秋季訓練（消火・通報・避難訓練）

消火器及び消火用補助散水栓の操法、避難訓練に関しては休日・夜間時における避難誘導の基本的な対応方法を研修方式で説明

消防に関わる各種法定点検

消防設備等点検

4月13日～16日 A B棟機器点検

10月19日～22日 A B棟総合点検

6月22日 C棟総合点検

12月14日 C棟機器点検

6月22日 託児所総合点検

12月14日 託児所総機器点検

4月15日 草津看護専門学校機器点検

10月21日 草津看護専門学校総合点検

防火防災対象物点検 10月20日

放射線安全管理委員会

目 的

放射線業務従事者の安全と健康を守るとともに、業務従事者に教育を行うことを任務とする。また、管理区域の放射線汚染をチェックし、法令で定められた監査の実施状況を監視する。

活動実績

研修会の開催

放射線安全研修会（平成29年 6 月 5 日、6 月11日、6 月28日開催）

法令に基づく研修会であり、放射線業務従事者および全職員を対象に実施した。

委員会の開催

第15回放射線安全管理委員会（平成30年 3 月13日開催）

内容：健康診断受診状況について

被ばく状況、健康被害について

漏洩線量測定結果について

PET、RI室の汚染状況について

放射線安全研修会について

放射線障害防止法に基づく定期検査について

放射線障害防止法改正について

個人情報管理委員会

目 的

個人情報保護、管理業務の円滑かつ効率的な運営を図るとともに、個人情報に関する苦情発生の予防対策をすること。

活動実績

個人情報管理委員会を 7 回開催。

- ・個人情報保護に関する基本方針の見直し
- ・草津総合病院個人情報保護規程の見直し
- ・個人情報保護に関する誓約書の内容検討
- ・業務委託時の個人情報保護に関する確認書について検討
- ・研修に関する規程について検討
- ・個人情報保護法の改正に伴い、掲示内容の変更
- ・医局ミーティング時に勉強会実施
- ・個人情報管理ラウンドの実施

倫理委員会

目 的

病院関係者が直面する臨床現場における様々な倫理的問題や人を対象とする研究などにおける倫理的課題を協議し、もって医療倫理の適正な保持と、対象となる個人の人權の擁護をはかることを目的とする。

活動実績

- 1) 病院のみならず社会医療法人誠光会全体の倫理的諸問題を協議すべく、構成員を含め倫理委員会を組織再構築した。
- 2) 利益相反委員会を倫理委員会内に設置し、円滑な臨床研究が遂行できる環境を整備した。
- 3) 開催回数 5回
- 4) 審査件数（うち迅速審査件数）28件（16件）

治験審査委員会

目 的

当院で実施する治験においては「医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（GCP）」を遵守し、すべての被験者の人權の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図りながら、治験の科学的及び医学的妥当性をみるため、治験薬の有効性・安全性報告等当該治験に関連した国内外の資料を参考に、医療を専門としない事務員、利害関係を持たない外部委員を交えて厳正に審議・審査を行う。

活動実績

- ① 恒例の治験審査委員会を6回開催【原則 偶数月（2か月に1回）の開催】
- ② 新規治験について開催される説明会、討議に参加
- ③ 新規治験開始にあたり、契約書などの書類関係の手続き対応、医師および院内スタッフへの案内

医療安全管理委員会

目的

安全な医療の提供を確保することを目的とし、病院の円滑な運営と発展に資するものとする。

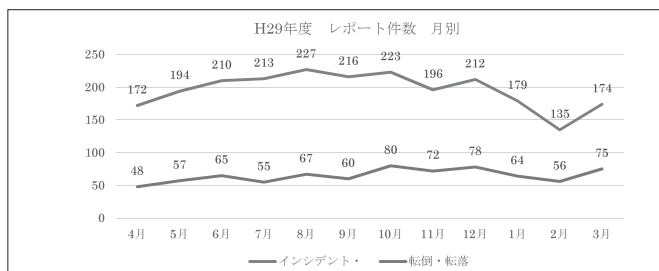
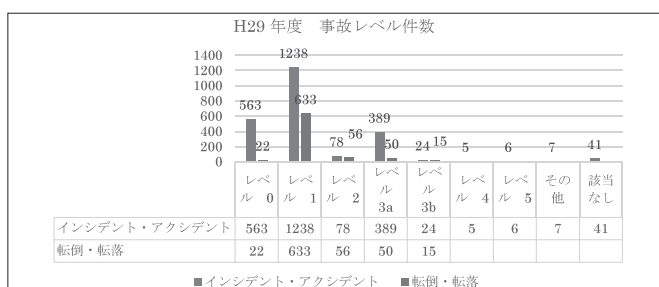
活動実績

1. 医療安全管理委員会（1回/月）
2. リスクマネジメント委員会（1回/月）
3. 事例検討小委員会（1回/W）
4. 医療安全院内ラウンド（1回/月）
5. リスク委員医療安全ラウンド（4回/年）
6. 医療安全全体研修会（2回/年）
7. 医療安全週間活動（H29.11月19日～25日）

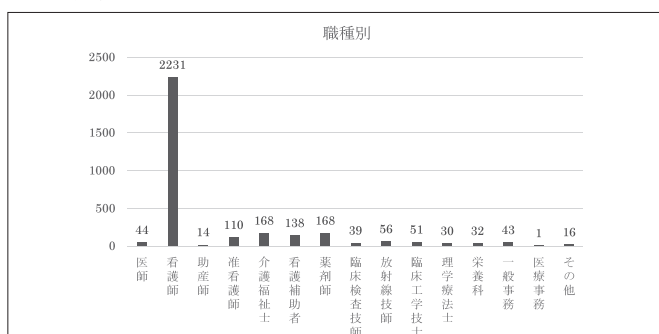
（実績）

インシデント・アクシデントレポート報告件数：2,351件/年

転倒・転落報告件数：777件/年



レポート報告職種



（研修会の実績）

- 1 回目：職員間のコミュニケーション（9.20、27）
 - ：苦情対応について（9.26）
 - ：急変時の対応（10.3）
 - ：各部署の医療安全の取り組み（9.25）（参加率：98.7%）
- 2 回目：患者・家族のコミュニケーション（H30.2.26～28、3.1～2、3.5）
 - ：部署の医療安全の取り組み（2.27～28、3.1～2、3.5）（参加率：97%）

感染対策委員会

目 的

毎月第2水曜日に定例委員を開催し、耐性菌検出状況、抗菌薬の使用状況、擦式アルコール使用状況について報告を行い、感染対策上の問題を検討する。感染対策の実働は、感染対策チームが行う。

活動実績

【院内感染対策委員会】

定例委員会の開催 12回

院内感染対策研修会の開催

第1回7月開催 テーマ「誰もが知っておきたい感染対策 職業感染対策（結核 針刺し）」
参加率 94.6%

第2回11月開催 テーマ「冬の感染対策（インフルエンザ・ノロウイルス）」
参加率 95.9%

【ICT（感染対策チーム）】

ICTラウンド 42回（1回/週）

抗菌薬ラウンド 42回

平成28年度新規採用者感染対策研修

入院患者 T-SPOTスクリーニング

VRE スクリーニング

5C病棟 RSアウトブレイク対応

冬季感染症対策（インフルエンザ・ノロウイルス）

感染防止対策加算に係るカンファレンスの開催4回（6月 7月 10月 3月）

日野記念病院 ICTラウンド 10月

感染対策地域連携加算相互評価（済生会滋賀県病院）2月

褥瘡対策委員会

目 的

院内褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図ることを目的とする。

活動実績

- ① 院内褥瘡対策研修会「褥瘡患者のポジショニング」を全職員対象に開催
- ② 院内褥瘡患者について討議・検討
- ③ 褥瘡対策カンファレンスの開催
- ④ 各病棟の褥瘡対策について討議・検討（リンクナースと共同）

病院アクセス



交通

□電車ご利用の場合

JR京都駅からJR南草津駅まで20分
 JR大阪駅からJR南草津駅まで45分
 JR南草津駅から近江バスで10分
 シャトルバスを運行しています

□お車ご利用の場合

名神高速道路「草津田上インター」から20分
 国道1号線「野路町」交差点から10分
 病院を利用される方は専用駐車場をご利用ください



社会医療法人
誠光会

草津総合病院

